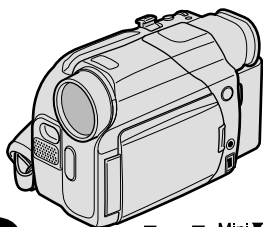
取扱説明書

デジタルビデオカメラ
型名 **GR-D92**

いますぐビデオと静止画を
撮影してみよう　P.12

お買い上げありがとうございます

ご使用の前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に「安全上のご注意」（18～27ページ）は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
・ビデオカメラの製造年は、本体底面に表示されています。

LYT1320-001A

目 次

はじめに

これだけは知っておこう編

撮影・初級
テクニック編

撮影・上級
テクニック編

再生を
工夫しよう編

目 次

ビデオを
編集してみよう編

設定を変えて
使いこなそう編

はじめに

本書の読みかた

取扱説明書は、デジタルビデオカメラの使いかたに応じて８つの編に分かれています。

■ これだけは知っておこう編

ビデオカメラの各部の名前から、はじめて使うときの準備、ビデオの撮影や再生の基本的な手順を説明します。お買い上げ後にはじめて使うときは、必ずお読みください。

■ 撮影・初級テクニック編

操作は簡単でも効果が大きい、知っていると便利な機能について説明します。『これだけは知っておこう編』の操作に慣れてから、お読みください。

■ 撮影・上級テクニック編

画像の明るさや画面の色のバランスを手動で調節する方法や、ビデオ撮影中にさまざまな効果を挿入する方法などを説明します。

■ 再生を工夫しよう編

静止画の一覧表示の方法や、テープからメモリーカードへの画像のコピーを説明します。

また、再生時の映像に変化をつける方法を説明します。

■ ビデオを編集してみよう編

撮影したビデオを編集して、個性的な作品に仕上げるための機能について説明します。

■ 設定を変えて使いこなそう編

ビデオカメラには、上記の編では説明しきれない数多くの機能があります。この編では、各種機能の設定について説明します。

■ その他

故障かなと思ったときの対処方法や、使用上のご注意、日常のお手入れ、主な仕様などについて記載しています。

■ 索引

五十音順索引のほか、メニュー一覧、画面表示の見かたを記載しています。

著作権について

あなたがビデオカメラで録画、録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、鑑賞や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場所がありますのでご注意ください。

記号の意味

本文中には、次の記号が使われています。

ご注意　操作上の注意などが書かれています。

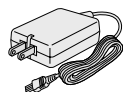
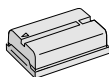
使用上の制限や、知っていると便利な内容が書かれています。

使用中に起こりうるトラブルや、トラブルのように見える現象について書かれています。

関連するページを示しています。

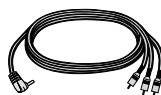
次へ続く　次のページに説明が続きます。

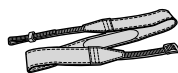
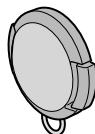
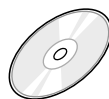
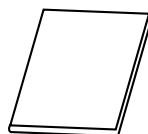
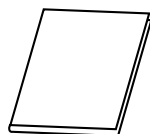
付属品について

付属品をお確かめください。万が一、不足品がございましたら、お買い上げの販売店、または最寄りのサービス窓口にお問い合わせください。

ACアダプター
AP-V14

バッテリーパック
BN-V408

ワイヤレスリモコン
RM-V718（リモコン）

メモリーカード（1枚）
8MB マルチメディアカード
（ビデオカメラ本体の中に入って出荷されております。）

リチウム電池*
CR2025（ボタン電池）
（リモコン動作確認用）

専用映像
/音声コード
（ϕ3.5ミニ）

専用USBケーブル
Aタイプ－ミニBタイプ

ショルダー
ストラップ

レンズキャップ

CD-ROM

ソフトウェア
取扱説明書

取扱説明書（本書）

フェライトコア
大：1 個
小：2 個

*リモコン用のリチウム電池は、リモコンに入って出荷されています。
リモコンをお使いのときは、絶縁シートを引き出してください。

その他の別売アクセサリー：

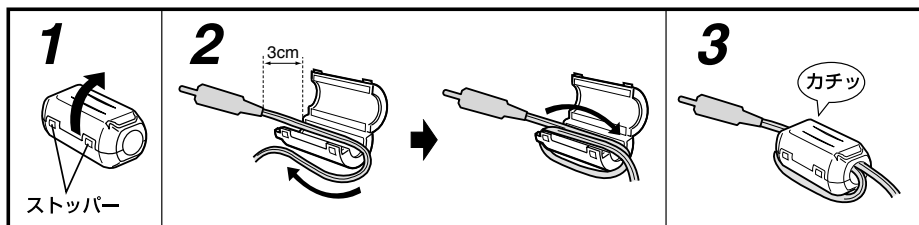
バッテリーパック	BN-V416	PC カードアダプター	CU-V51
バッテリーパック	BN-V428	フロッピーディスクアダプター	CU-V41
バッテリーパック	BN-V438	USB リーダー／ライター	CU-V70
バッテリーキット	VU-V856KIT	0.7 倍ワイドコンバージョンレンズ	GL-V0730
バッテリーキット	VU-V840KIT	1.4 倍テレコンバージョンレンズ	GL-V1430
DV ケーブル	VC-VDV204		

コードやケーブルをお使いになるときは、フェライトコアを必ず取り付けてください。
ビデオカメラと外部機器を接続したときに発生するノイズを軽減することができます。

◆コード（ケーブル）別使用フェライトコア

使用コード	使用フェライトコア
• DVコード（別売）	（大）

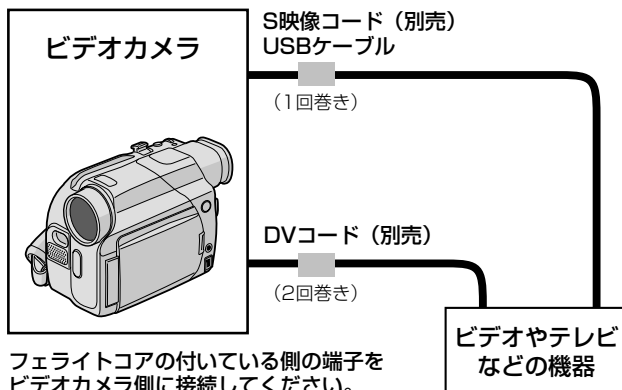
使用コード	使用フェライトコア
• S映像コード（別売） • USBケーブル	（小）

◆フェライトコアの取り付けかた（イラストは 1 回巻きの説明です。）

1 両端のストッパーをはずして開く

2 フェライトコアにコードを指示された回数巻く（位置と回数は下図を参照）
●端子から約 3cm の位置にフェライトコアを取り付けます。

3 コードをはさみ、カチッと音がするまで閉じる

◆フェライトコアの取り付け位置

フェライトコアの付いている側の端子をビデオカメラ側に接続してください。

こんなことができます

照明を消した部屋で、赤ちゃんの寝顔を撮影したい。
「ナイトアイ」ボタンを使えば、暗い場所で撮影するときでもカラー映像で撮影できます（☞P.79）。

暗い場所でも被写体を明るくして撮影したい。
お子さまと花火で遊んでいるときなど、暗くて表情がよくわからないシーンもLEDライトを使えば、お子さまのかわいい表情を明るく撮影できます（☞P.78）。

日射しのあたる窓際にいる人を撮影したい。
太陽などの強い光を背景にして人物を撮影するときは、人物が真っ黒になってしまいます。
こんなときには「逆光補正」ボタンを使えば、人物を明るく撮影できます（☞P.77）。

学芸会の舞台上で、スポットライトの中にいる子供を撮影したい。
強い光が当たっている被写体を撮影すると、真っ白に写ってしまいます。
こんなときでもプログラムAEメニューの「スポットライト」を使えば、自然な画を撮影することができます（☞P.100）。

走っている車のような動きの速いものをブレさせずに撮影したい。
プログラムAEメニューの「スポーツ」を使えば、ブレをおさえて、きれいに撮影することができます（☞P.84）。

撮影した映像をパソコンでも利用したい。
カメラが捉えている映像やテープに記録した映像を、メモリーカードに記録できます。記録した映像をパソコンに取り込んで音声やBGMを追加して、オリジナルムービー作りを楽しみましょう（☞P.129）。

映像を編集したい。
「アフレコ編集」「場面切替効果」「プログラムAE」機能を合わせて使えば、テレビドラマや映画のような効果を付けることもできます（☞P.125、96、100）。

いろいろな機器と接続して活用できます

フロッピーアダプター
USB リーダー／ライター
PC カードアダプター

USB ケーブル
DV ケーブル（別売）

パソコンで加工する

・リアルタイムに動画を取り込む
・テープから動画を取り込む
・静止画をメールに添付する

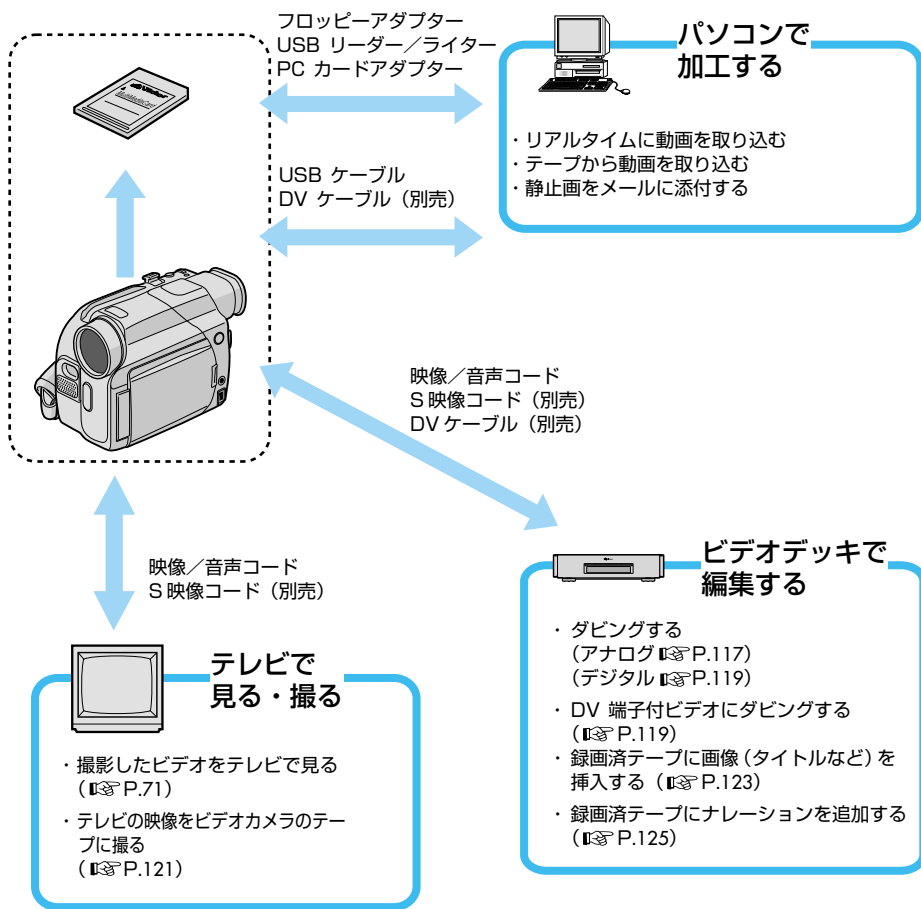
映像／音声コード
S 映像コード（別売）
DV ケーブル（別売）

ビデオデッキで編集する

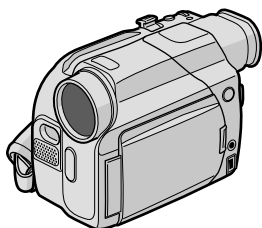
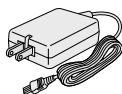
・ダビングする
（アナログ ☞P.117）
（デジタル ☞P.119）
・DV 端子付ビデオにダビングする
（☞P.119）
・録画済テープに画像（タイトルなど）を挿入する（☞P.123）
・録画済テープにナレーションを追加する
（☞P.125）

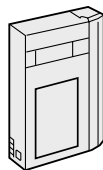
映像／音声コード
S 映像コード（別売）

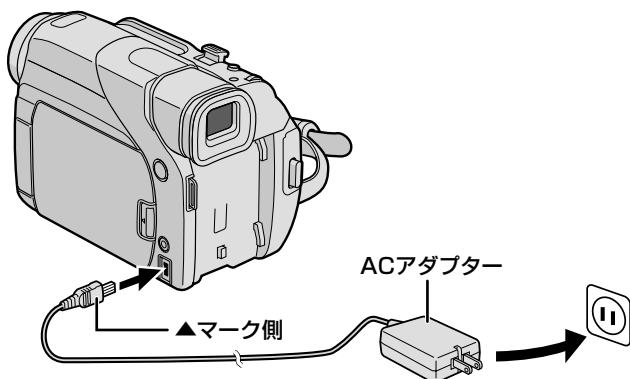
テレビで見る・撮る

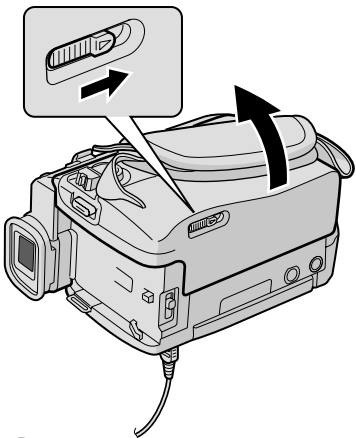
・撮影したビデオをテレビで見る
（☞P.71）
・テレビの映像をビデオカメラのテープに撮る
（☞P.121）

ここに紹介したものは、ほんの一例。ほかにも、いろいろな使いかた・楽しみかたがあります。「設定を変えて使いこなそう編」（☞P.134～P.144）をご覧ください。

いますぐ ビデオと静止画を撮影してみよう

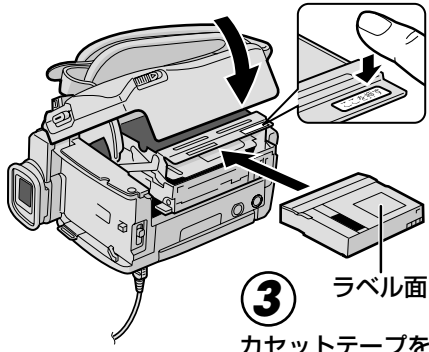
箱を開けたら、何はともあれビデオを撮影してみましょう！
最初はバッテリーが充電されていないので、コンセントにつないで撮影し、再生してみます。ボタンやランプの名前なんて知らなくても大丈夫。ともかく、この通り操作すれば撮影できます。
また、「これだけは知っておこう編」(☞P.28～P.75)には、撮影の基本操作や重要な情報が記載されています。必ずお読みください。

ビデオカメラ

ACアダプター
AP-V14

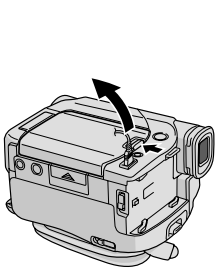
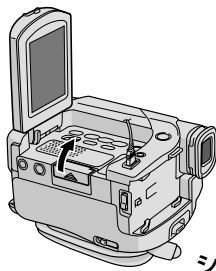
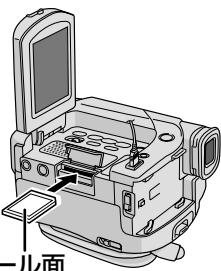
メモリーカード
（8MB）

ミニDV
カセットテープ
（別売）

コンセントにつなぐ

カセットテープを入れる

1 スライドさせたまま

2 カセットカバーを開く
中のホルダーが
自動的に開く

3 カセットテープを
奥まで入れる

4 ［ここを押す］ を押す
ホルダーが自動的に閉じる

5 カセットカバーを閉じる

メモリーカードを入れる

1 液晶画面
を開く

2 カバー
を開く

3 メモリーカード
を奥まで入れる

4 カバーをカチッと
音がするまで
押して閉じる

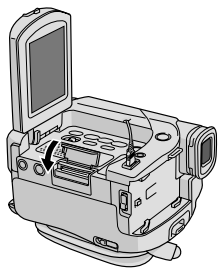
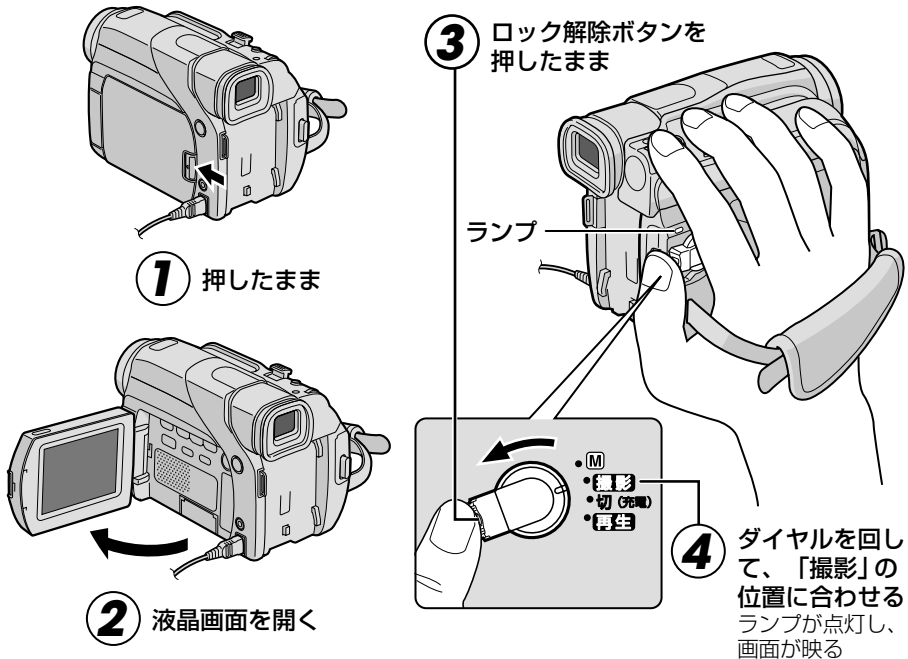
撮影できる状態にする

①押したまま

②液晶画面を開く

③ロック解除ボタンを押したまま

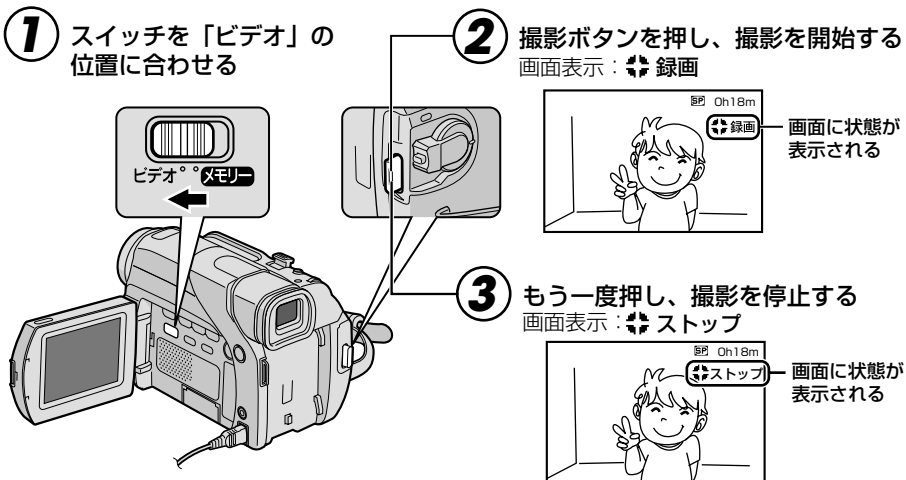
ランプ

M
撮影
切（充電）
再生

④ダイヤルを回して、「撮影」の位置に合わせる
ランプが点灯し、画面が映る

※はじめて使うときは、「日時を設定して下さい」と表示されます(☞P.47)。

ビデオを撮影する

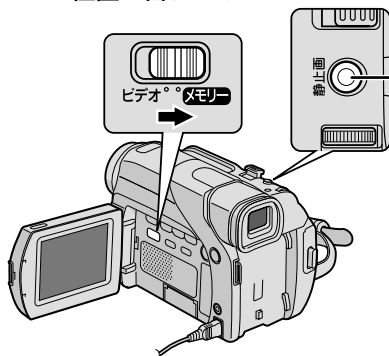
①スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

②撮影ボタンを押し、撮影を開始する
画面表示：録画

③もう一度押し、撮影を停止する
画面表示：ストップ

静止画を撮影する

1 スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

ビデオ メモリー

静止画

2 液晶画面でピントが合っていることを確認する

3 「静止画」ボタンを押す
静止画が撮影される
画面表示：➡P

画面に状態が表示される

PHOTO

4 手順2〜3を繰り返す

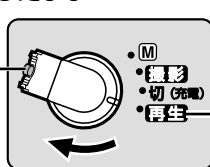
はじめに

撮ったビデオを見る

1 スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

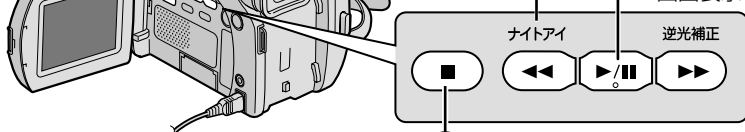
ビデオ メモリー

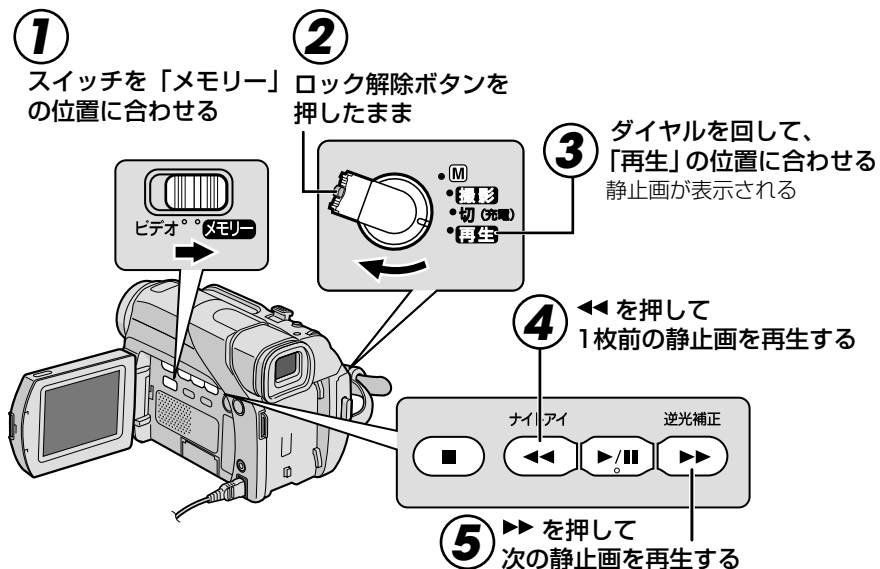
2 ロック解除ボタンを押したまま

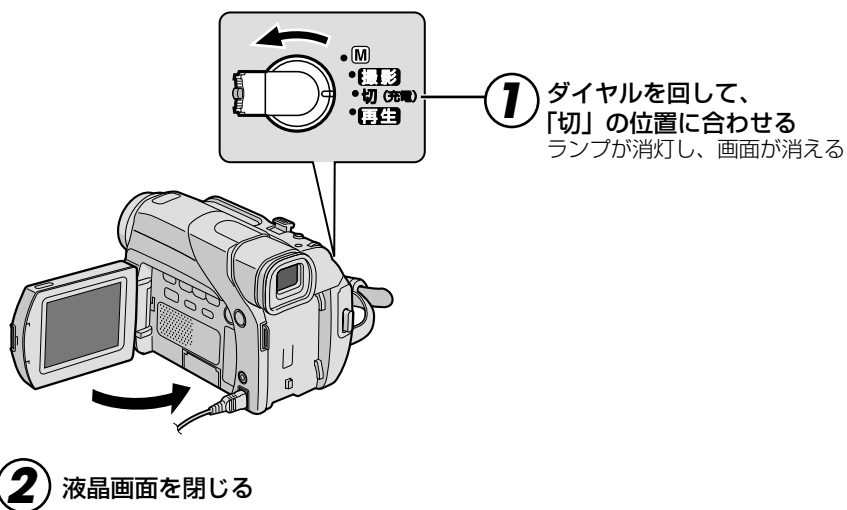
M
撮影
切（充電）
再生

3 ダイヤルを回して、「再生」の位置に合わせる

4 ◀◀ を押して巻き戻す
画面表示：◀◀
テープの先頭まで巻き戻ると、停止する

5 ▶/II を押して再生する
画面表示：▶

ナイトアイ 逆光補正

6 ■ を押して停止する

撮った静止画を見る

電源を切る

2 液晶画面を閉じる

機能デモを見てみよう

本機には、場面切替 (☞ P.96)やプログラム AE（☞ P.100)などの機能を確認するためのデモモードがあります。ビデオカメラをお使いになる前に、是非一度ご覧になってください。

機能デモを表示させるには

カセットテープを入れずに電源ダイヤルを「撮影」の位置に合わせてから３分経つと、液晶画面にビデオカメラの機能デモが自動的に表示されます。
機能デモを途中でやめるには、電源を切ってください。

機能デモを表示しないようにすることもできます ☞ P. 143、144

ビデオ撮影、本番へ GO!

とにかくすぐに撮影をしてみるステップはこれで終了。次は、いよいよ撮影本番！バッテリーを使い、いろいろなシーンを撮影しましょう。
バッテリーの充電には約９０分（BN-V408の場合）かかります。この待ち時間を利用して、まず「これだけは知っておこう」編のページに目を通してみてください。きっと撮影のときに役立ちます。

「これだけは知っておこう」編 ☞P. 28 ～ 75
バッテリーで撮影する ☞P. 37
日時を設定する ☞P. 47
上手に撮るコツ ☞P. 56 ～ 63

安全上のご注意

安全のために必ずお守りください

絵記号について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵記号が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵記号の意味をよく理解して本文をお読みください。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の説明

●注意（危険、警告を含む）が必要なことを示す記号

一般的注意

手がはさまれる

●してはいけない行為（禁止行為）を示す記号

禁止

水場での使用禁止

接触禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

水ぬれ禁止

●必ずしてほしい行為（強制、指示行為）を示す記号

一般的指示

プラグをコンセントから抜く

⚠危険

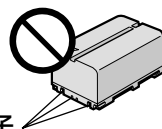
■バッテリーは絶対に分解、加工（はんだ付けなど）、加熱、火中投入などをしない

・液漏れ、発熱、破裂、発火し、火災やけがの原因となります。

■高温の場所（60℃以上）に置かない

・発熱、破裂、発火の原因となります。

■バッテリーの端子部に金属物（ネックレスやヘアピンなど）を接触させない

・ショートして発熱し、火災やけがの原因となります。
・持ち運びの際にはキャップを取り付けて、金属物と端子が接触しないようにしてください。

■電池の端子部（⊕ と⊖ ）に金属物（ネックレスやヘアピンなど）を接触させない

・液漏れ、発熱の原因となります。
・持ち運びの際にはビニール袋などに入れ、金属物と端子が接触しないようにしてください。

■電池は絶対に分解、加工（はんだ付けなど）、充電、加熱、火中投入などをしない

・液漏れ、破裂などの原因となります。

■ACアダプターは指定以外のビデオやビデオカメラやバッテリーに使わない

・性能や形状が異なると、火災や故障、感電の原因となることがあります。
・指定されたものか確かめ、ビデオカメラの取扱説明書もよくお読みください。

■ACアダプターの分解や改造をしない

・火災や感電の原因になります。
・お客様ご自身による点検、整備、修理は危険です。絶対におやめください。
・内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

■ACアダプターを指定の電源電圧以外で使用しない

・火災や感電の原因となります。

安全上のご注意

⚠警告

■液漏れを起こしたバッテリーを使わない

・液漏れを起こしたバッテリーはショートによる発熱で、さわるとやけどをする原因となります。
・バッテリーの液が漏れたときは、バッテリー取り付け部の液をよく拭き取ってから新しいバッテリーを取り付けてください。
・バッテリーの液が身体や衣服についたときには､水でよく洗い流してください。万一、目などに液が入った場合はきれいな水で洗った後、ただちに医師に相談してください。

■濡れたバッテリーは使わない

・故障、感電、発熱、発火の原因となります。

■煙が出たり、へんな臭いがするときなどは、バッテリーをはずす、または電源プラグを抜く

・販売店に修理を依頼してください。
・そのまま使用すると火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による修理は危険です。絶対におやめください。

■落としたり、壊れたときなどは、バッテリーをはずす、または電源プラグを抜く

・販売店に修理を依頼してください。
・そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による修理は危険です。絶対におやめください。

■内部に水や異物が入ったときは、バッテリーをはずす、または電源プラグを抜く

・販売店に修理を依頼してください。
・そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による修理は危険です。絶対におやめください。

■電源コードが傷んだときは、電源プラグを抜く

・販売店に修理を依頼してください。
・芯線が露出していたり、断線したままで使用すると、火災や感電の原因になります。

⚠警告

■指定以外の電池は使わない、また液漏れを起こした電池を使わない

・液漏れを起こした電池はショートによる発熱で、さわるとやけどをする原因となります。
・電池を入れる前に品番をよく確かめてください。
・電池の液が漏れたときは、電池取り付け部の液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
・電池の液が身体や衣服についたときには、水でよく洗い流してください。
万一、目などに液が入った場合はきれいな水で洗った後、ただちに医師に相談してください。

■電池は幼児の手の届かない所に置く

・万一、誤って飲み込んだときは、ただちに医師と相談してください。

■持ち運ぶときには、液晶画面やファインダーを持たない

・液晶画面、またはファインダーを持って運ぶと、故障したり落として、けがの原因となります。

■不安定な場所に置かない

・ぐらついた台の上や傾いた所には置かないでください。
・落ちたり、倒れたりして、故障やけがの原因となります。

■指定の電源電圧以外で使用しない

・火災や感電の原因となります。

■電源コードを傷つけない

・火災や感電の原因となります。
・次のようなことをすると、傷つく原因となります。ご注意ください。
加工する、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものをのせる、熱器具に近づける。

安全上のご注意

■内部に物を入れない

・カセットテープの出し入れ口などから、金属類や燃えやすいものなどを入れない でください。
・火災や感電の原因となります。
・特にお子様にご注意ください。

■内部の部品に触らない

・カセットテープの出し入れ口から見える部品に触らないでください。
・感電や故障の原因となります。

■機器を接続するときは、電源を切る

・電源を入れたまま接続すると、感電や故障の原因となります。

■分解や改造はしない

・火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による点検、整備、修理は危険です。絶対おやめください。
・内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

■自動車などの運転中に使用しない

・運転をしながら、撮影、再生をすることは絶対におやめください。
交通事故の原因になります。

■レンズやファインダーを太陽や強い光源に向けない

・レンズやファインダーを太陽に向けたまま放置しておくと、集光により内部部品が破損して発熱し、火災や故障の原因となります。

■ぬらさない

・火災や感電の原因となります。
・風呂場では使用しないでください。
・雨天、降雪中、海岸、水辺で使用するときは、ご注意ください。
・水などの入った容器（花びん、植木鉢、コップ、化粧水、薬品など）は、こぼれたりしますので、機器の近くに置かないでください。

⚠警告

■雷が鳴り出したら、電源プラグには触れない

・感電の原因となります。

■電源プラグが不完全な接続状態で使用しない

・接触不良で発熱し、火災や感電の原因となります。
・最後までしっかりと接続してください。

■電源プラグにほこりや金属物を付着させない

・ほこりや金属物を伝わって電気が流れ、ショートや絶縁不良で発熱し、火災や感電の原因となります。
・ほこりや金属物が付着しているときは、電源プラグを抜き、取り除いてください。

■上に乗らない

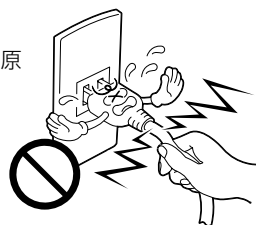
・倒れたり、こわれたりして、けがの原因になります。特に小さなお子様がいるご家庭ではご注意ください。

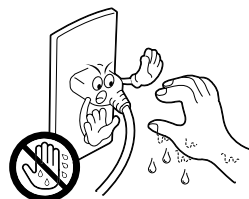
⚠注意

■充電中のバッテリーに長時間触れない

・温度が上がり、長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

■電源コードはコードの部分を持って抜かない

・コードの部分を持って抜くと、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
・プラグの部分を持って抜いてください。

■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

・感電の原因となることがあります。

■次のような場所には置かない、使わない

・砂浜などの砂ぼこりのある所
・湿気やほこりの多い所
・調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気の当たる所
・熱器具の近くなど
・真夏の車内など高温になる所
・直射日光の強い所
火災や感電、故障の原因となることがあります。

■上に重い物を置かない

・バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■カセットの出し入れ口に手を入れない、ファインダーの取り付け部に指を入れない

・手や指をはさまれてけがをする原因となります。
・特にお子様にご注意ください。

⚠注意

■電池を入れるときは、極性表示（⊕ と⊖ ）の向きに注意する

・機器の指示通りに電池を入れてください。間違えると電池の破壊、液漏れにより、火災やけが、周囲を汚す原因になることがあります。

■通電中の AC アダプターに長時間触れない

・温度が上がり、長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

■本体に衝撃を与えない

・けがをするおそれがあります。また、本機が故障する原因となります。

■指定以外のアクセサリーを使わない

・性能や形状が異なると、火災や故障、感電の原因となることがあります。
・本機に指定されたものか確かめてください。

■本機やアクセサリーなどを布などでおおった状態で使用しない

・熱がこもって変形したり、火災の原因となることがあります。

■コード類は正しく配置する

・ AC アダプターの電源コードや接続用コードなどは、足にひっかけると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。
・十分注意して接続、配置してください。

■長期間使用しないときはバッテリーをはずし､電源プラグを抜く

・電源が「切」でも本機に電気が流れていますので、安全のためにお守りください。

安全上のご注意

⚠注意

■別売の三脚を不安定な状態で使用しない

・足などの上に倒れる、けがをする原因となります。また、本機が故障する原因となります。
・足などを引っかけないようにご注意ください。強風にもご注意ください。

■移動するときは、電源プラグや接続コード類をはずす

・接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
・カセットテープも取り出しておいてください。

■バッテリーやグリップベルト、ストラップは正しく取り付ける

・正しく取り付けられていないと、落下によりけがや故障の原因となることがあります。

■お手入れするときは、バッテリーをはずし、電源プラグを抜く

・電源が「切」でも機器に電気が流れていますので感電の原因となることがあります。

■５年に一度は内部の点検を販売店に依頼する

・内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないで使用し続けると、火災や感電の原因となることがあります。
・湿気の多くなる梅雨期の前に点検すると、より効果的です。
・費用については、販売店にご相談ください。

■強い電波や磁気の発生する所、または雷が近いときは使用しない

・故障の原因となることがあります。
・テレビの上や近くでは使用しないでください。
・ AC アダプターを使用しているときは、なるべく本機から遠ざけてご使用ください。

■飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従う

・本機が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を与える原因となります。

⚠注意

■CD-ROMをオーディオ用CDプレーヤーで再生しない

・オーディオ用CDプレーヤーやCDラジカセでソフトウェアCD-ROMを再生しようとすると、過大な信号が流れて、回路やスピーカーに障害を与えることがあります。

■CD-ROMの鏡面（文字などが印刷されている面と反対の面）を汚したり、傷を付けない

・汚れたときは柔らかい布で中心孔から外側へ放射状に軽く拭き取ってください。

■CD-ROMに従来のレコード・クリーナーやスプレーは使わない

・変形の原因となります。

■CD-ROMの裏表どちらの面にも文字を書いたり、シールなどを貼らない

・読みとりができなくなる原因となります。

■CD-ROMディスクを曲げたり、鏡面に触れたりしない

・読みとりができなくなる原因となります。

■CD-ROMを次のような場所に長時間置かない

・湿気やほこりが多い所
・直射日光の当たる所

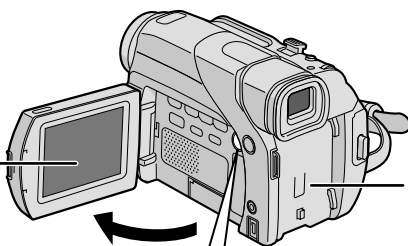
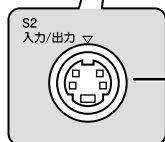
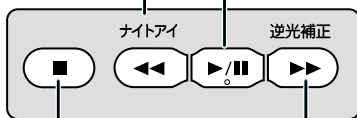
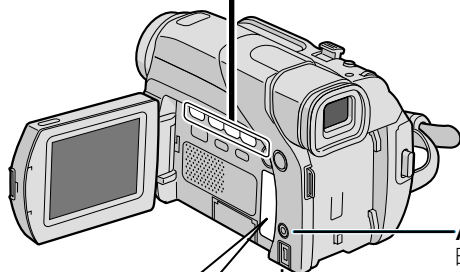
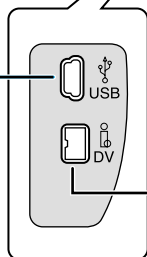
■リモコンを高温になる場所に置かない

・晴天の閉めきった車内など、高温になる場所に放置しないでください。

■リモコンを次のような場所に長時間置かない

・直射日光などにさらされる場所
・ゴムまたはプラスチック製品に接触する場所

各部の名前とはたらき

レンズフード
別売のワイドコンバージョンレンズやテレコンバージョンレンズをご使用になるときは、フードを回しながら取りはずしてください。
LEDライト
暗いところで撮影するとき、点灯して明るさを補います。
ステレオマイク
撮影時とアフレコ編集時に音声を吹き込みます。
リモコン受光部
ここに向けてリモコンを操作してください。
カメラセンサー
撮影に必要なセンサーです。指などでふさがないようにしてください。
ファインダー
撮影するときに引き出します。撮影中、再生中に映像が映ります。
ライトボタン
LEDライトを使い、被写体を明るくして撮影するときに使用します。
押−開ボタン
液晶画面を開けます。
製造年表示
本体底面に表示されています。
液晶画面
撮影中、再生中に映像が映ります。また、メニューもここに表示されます。
バッテリー取り付け部
S2
入力/出力
S2入力／出力端子
S映像コードでテレビやビデオデッキを接続します。

＊：i-LINKは、IEEE1394-1995仕様
およびその拡張仕様です。
はi-LINKに準拠した商品につけられる
ロゴマークです。

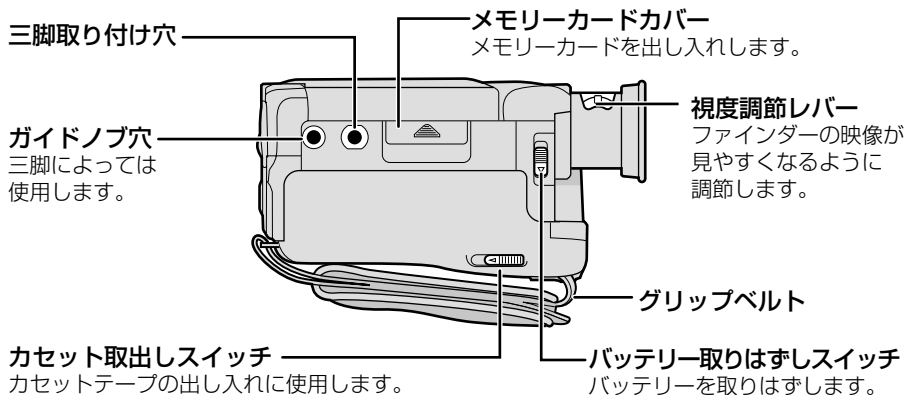
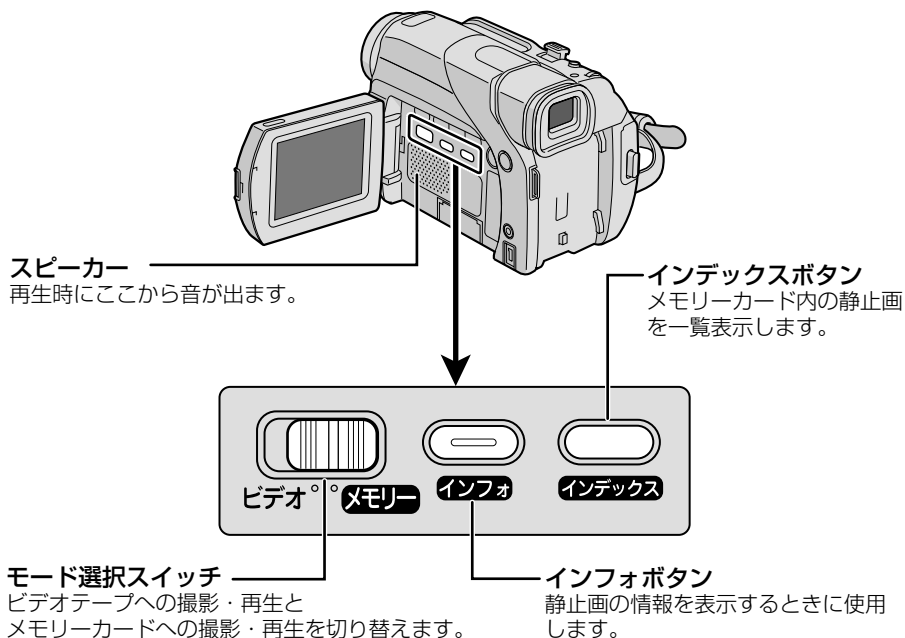
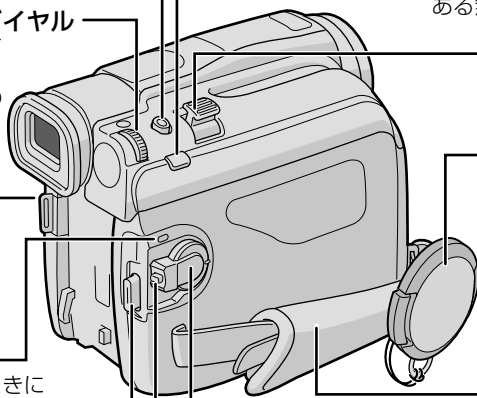
各部の名前とはたらき

スピーカー
再生時にここから音が出ます。

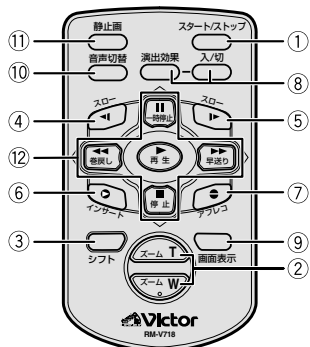
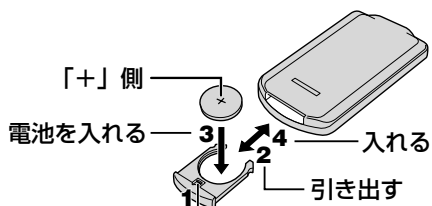
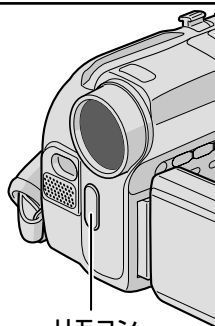
インデックスボタン
メモリーカード内の静止画を一覧表示します。

ビデオ
メモリー
インフォ
インデックス

モード選択スイッチ
ビデオテープへの撮影・再生とメモリーカードへの撮影・再生を切り替えます。

インフォボタン
静止画の情報を表示するときに使用します。

静止画ボタン
メモリーカードに静止画を撮影する、またはテープに静止画を撮影します。
メニュー／決定ダイヤル
メニューを表示して操作します。
また、スピーカーの音量を調節します。
ショルダーストラップ取り付け部
電源ランプ
電源が入っているときに点灯し、充電中に点滅します。
撮影ボタン
ビデオの撮影を開始または終了します。
ロック解除ボタン
電源ダイヤルを切り替えるときに押します。
フォーカス／ブランクサーチボタン
ピント合わせに使用します。また、ビデオテープの中にある無記録部分を探します。
ズームスイッチ
撮影中、映像のズームを行います。
レンズキャップ
撮影しないときはレンズ部に取り付けてください。撮影中はパッドに取り付けてください。
パッド
電源ダイヤル
電源の入切、撮影と再生などを切り替えます。
M ･････････ 撮影方法を細かく設定して撮影できます。
撮影･････････ 全自動で撮影できます。
切 ･････････ 電源が切れます。
再生･････････ ビデオや静止画を見るときに切り替えます

各部の名前とはたらき

リモコン

付属品のリモコンを使うと、ビデオカメラをはなれたところから操作できます。

リモコン電池の入れかた（リモコンの裏側）

※お買い上げ時は、シートを引き
出してから使用できます。

リモコンの操作方法

操作範囲は屋内で約5mです。
ビデオカメラのリモコン受光部に向けて操作してください。角度によっては操作できない場合があります。また、ビデオカメラのリモコン受光部に直射日光や照明の強い光が当たると、ビデオカメラが誤動作したり、動作しないことがあります。

ビクターのデジタルビデオカメラを使う人が近くにいるときは

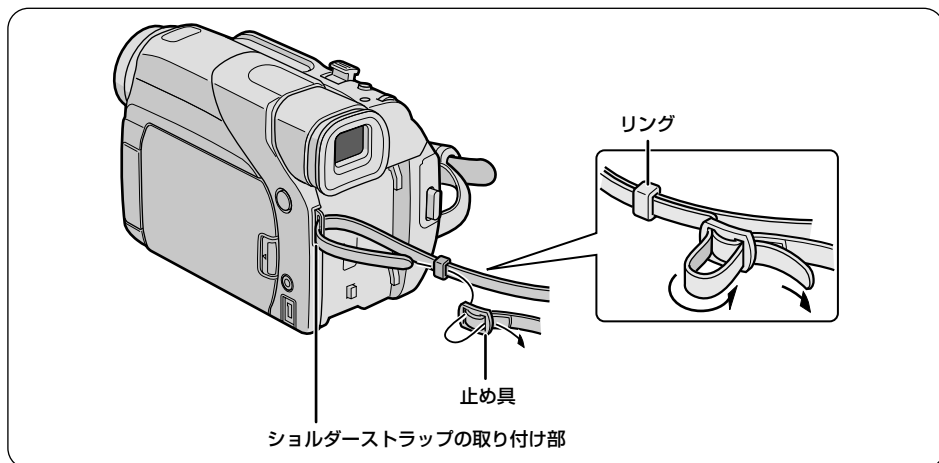
運動会など、半径約５m以内にビクターのデジタルビデオカメラをリモコンで操作する人がいる場合、ビデオカメラがつられて動作してしまうことがあります。このようなときは、システム設定メニューの「リモコン」（☞P.143）を「切」に設定することをお勧めします。

		ボタン名	ボタンの機能	参　照
①		スタート/ストップボタン	撮影をスタートまたはストップする。	P.58
②	T W	ズームボタン ズームボタン	撮影または再生時に映像が大きくなる。 大きくした映像が元に戻る。	P.57,110
③		シフトボタン	拡大した再生映像を上下左右に動かす。	P.110
④	◀❚	スロー(逆転)ボタン	テープをスローで巻き戻し再生する*。	P.66
⑤	❚▶	スロー(正転)ボタン	テープをスローで再生する*。	P.66
⑥	▶	インサートボタン	インサート編集を行う。	P.123
⑦	⊖	アフレコボタン	アフレコ編集を行う。	P.125
⑧		演出効果ボタン	再生中にプログラムAEの効果を選択する。	P.112
		演出効果　入/切ボタン	再生映像にプログラムAEの効果を加える。	P.112
⑨		画面表示ボタン	テレビに日時を表示する、または消す。	P.113
⑩		音声切替ボタン	再生中の音声を切り替える。	P.127
⑪		静止画ボタン	静止画を撮影する。	P.61, 81
⑫	◀◀	巻戻しボタン/左ボタン	テープを巻き戻す。 前の静止画を再生する。 再生ズームした映像を左に動かす。	P.66 P.69 P.110
	▶	再生ボタン	テープを再生する。 静止画を連続再生で再生する。	P.65 P.69
	▶▶	早送りボタン/右ボタン	テープを早送りする。 次の静止画を再生する。 再生ズームした映像を右に動かす。	P.66 P.69 P.110
	■	停止ボタン/下ボタン	テープを停止する。 連続再生をやめる。 再生ズームした映像を下に動かす。	P.65 P.69 P.110
	❚❚	一時停止ボタン/上ボタン	テープを一時停止する。 再生ズームした映像を上に動かす。	P.66 P.110

＊1回ずつ押すことでコマ送り再生になります。スロー再生するには、約2秒間押し続けます。

準備する

Step1　ショルダーストラップを取り付ける

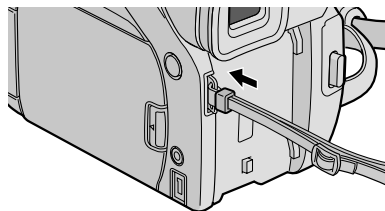
移動中に肩にかけられるようになります。落下することがないように、しっかりと取り付けてください。

1 ショルダーストラップの先を取り付け部に通す

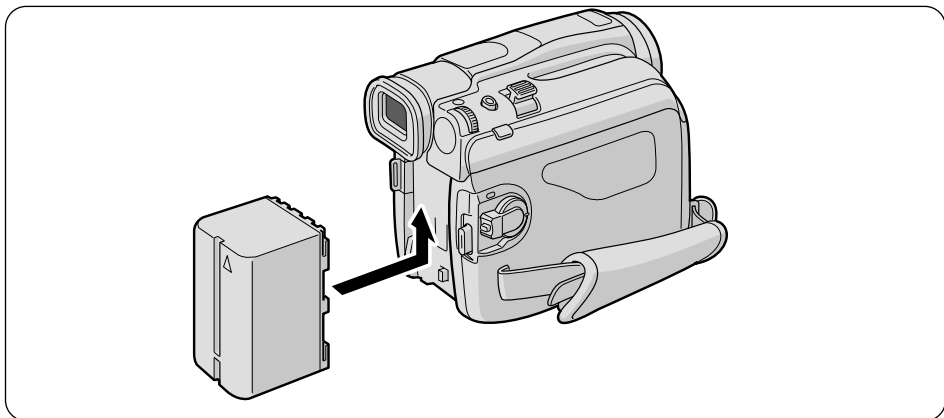
2 リングに通す

3 長さを調節し、止め具で固定する

- 止め具を通っているショルダーストラップを少しゆるめて調節します。

4 リングをショルダーストラップの取り付け部によせる

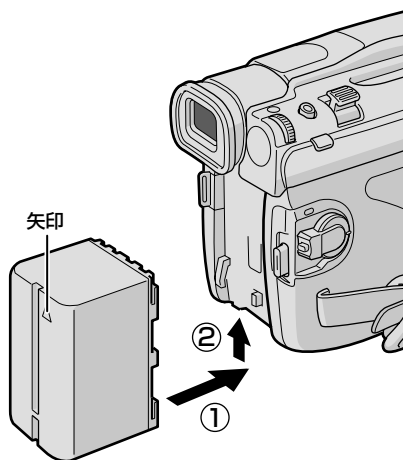
- ショルダーストラップを引っぱり、確実に取り付けられたか確認してください。

Step2　バッテリーを取り付ける

バッテリーはお買い上げ時には充電されていません。ACアダプターで充電してからお使いください。充電が終わっていない場合など、必要に応じてACアダプターを取り付けて使用することもできます（☞P.70）。
バッテリーを取り付けるときは、バッテリーのキャップを取りはずしてください。

1 バッテリーを取り付ける

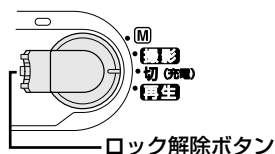
①バッテリーの矢印を上向きにしてビデオカメラに押しつけます。

②カチッと音がするまで上へスライドさせて取り付けます。

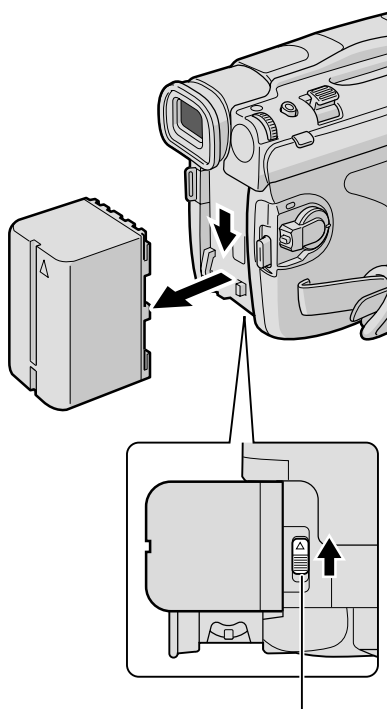
ご注意

● バッテリーはカチッと音がするまで確実に取り付けてください。確実に取り付けられていないと、使用中にバッテリーが落下することがあります。

バッテリーを取りはずすには

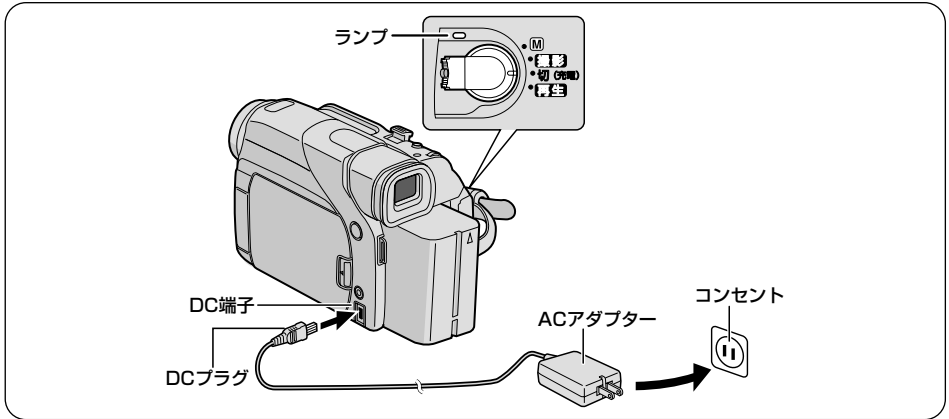
1 **電源ダイヤルが「切」の位置に合っていることを確認する**

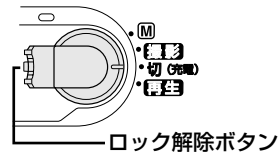
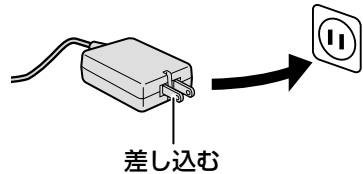
- 合っていないときは、ロック解除ボタンを押しながら、「切」の位置に合わせてください。

ご注意
- 電源を切らずにバッテリーを取りはずすと、故障する恐れがあります。

2 **バッテリー取りはずしスイッチを矢印の方向にスライドさせたまま、バッテリーを取りはずす**

- 上から下へスライドさせ、手前に引いて取りはずしてください。

- 取りはずしたバッテリーを持ち運んだり、保管したりするときには、キャップを取り付けてください。

Step3　バッテリーを充電する

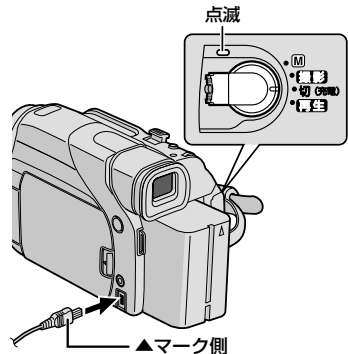
バッテリーをビデオカメラに取り付け、AC アダプターを使用して充電します。

1 ロック解除ボタンを押したまま電源ダイヤルを回し、「切」の位置に合わせる

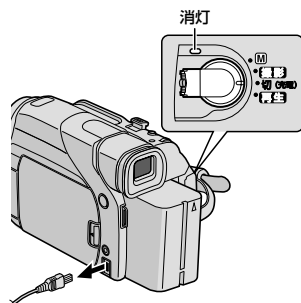
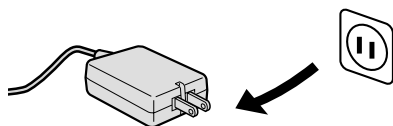
ロック解除ボタン

2 AC アダプターをコンセントに差し込む

差し込む

3 AC アダプターの DC プラグをビデオカメラの DC 端子に差し込む

ランプが点滅し、充電がはじまります。

これだけは知っておこう編

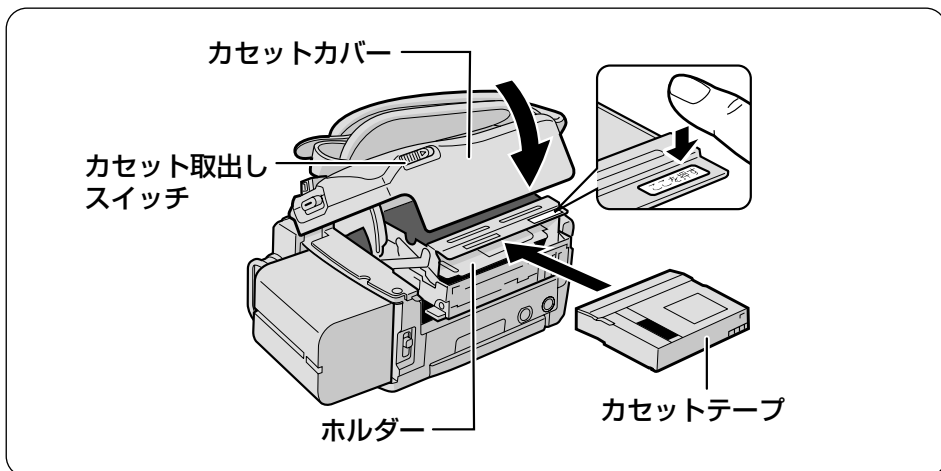
次へ続く

4 電源ランプの点滅が終わり消灯したら、DC プラグをビデオカメラから抜く

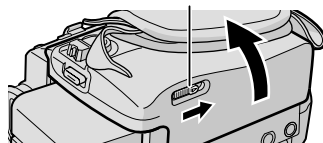
充電が完了しました。

5 AC アダプターをコンセントから抜く

- ビデオカメラの DC 端子内や DC プラグの端子間を金属などでショートさせないでください。
  故障の原因になります。

- 充電時間の目安（室温 10 ℃～ 35 ℃）
  ：標準バッテリー(BN-V408)で約 90 分
  ：長時間バッテリー(BN-V416/V416-H)で約 180 分
  ：長時間バッテリー(BN-V428)で約 300 分
  ：長時間バッテリー(BN-V438)で約 390 分

- 海外でもバッテリーを充電できます（☞P.168）。
- 十分に充電しても撮影できる時間が短くなったときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーに交換してください（☞P.8）。

Step4　カセットテープを入れる

ビデオを撮影するには、ミニ DV カセットテープを使用します。

1 カセット取出しスイッチを矢印の方向にスライドさせたまま、カセットカバーを手で開ける

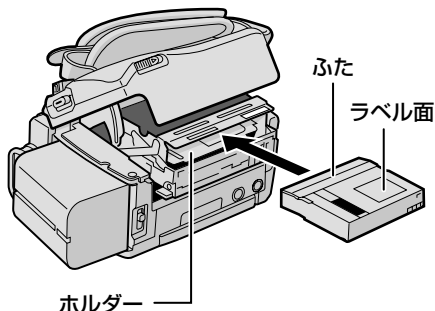
本体内部のホルダーが自動的に開きます。

2 カセットテープをホルダーに入れる

- カセットテープのラベル面をカセットカバー側に、カセットテープのふたの部分を奥にして入れます。

  カセットテープを指で軽く押して、ホルダーの奥まで確実に入れてください。

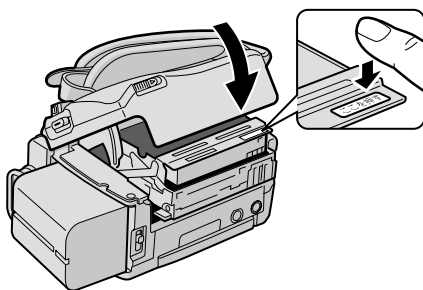
ご注意

- テープがからまるなど、一度トラブルのあったカセットテープは使用しないでください。故障の原因となります。

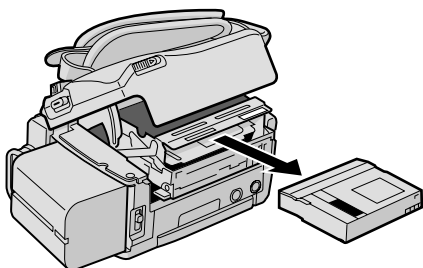
次へ続く

3 ホルダーの「ここを押す」を押す

ホルダーが自動的に収納されます。

- ホルダーが収納されない場合、カセットカバーを完全に開いてカセットテープを取り出し、少し待ってから入れ直してください。

- 指などをはさまれないようにご注意ください。

4 カセットカバーをカチッと音がするまで押して閉める

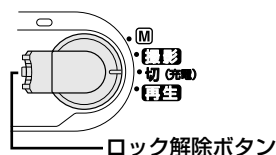
カセットテープを取り出すには

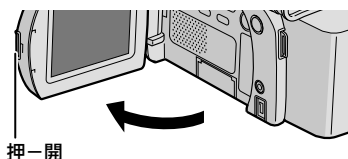
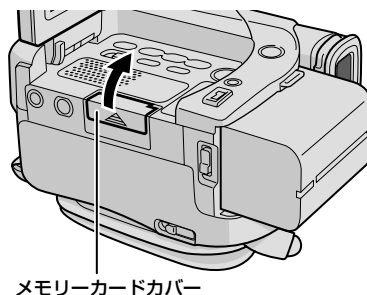
1 前ページの手順２で、カセットテープを引き上げて取り出す

- カセットテープを出し入れするには、電源が必要です。バッテリーまたはACアダプターをお使いください。

Step5　メモリーカードを入れる

静止画を撮影するには、メモリーカード（マルチメディアカード、または SD メモリーカード）を使用します。

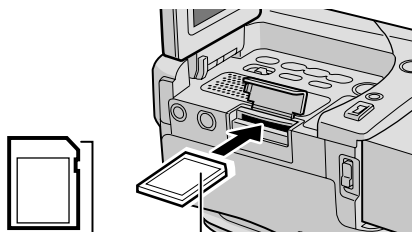
1 電源ダイヤルが「切」の位置に合っていることを確認する

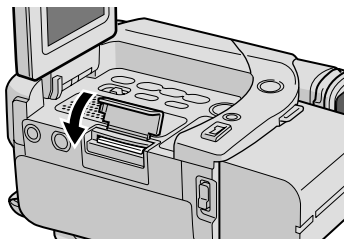
- 合っていないときは、ロック解除ボタンを押しながら、「切」の位置に合わせてください。

- 電源を切らずにメモリーカードを出し入れすると、故障する恐れがあります。

2 「押－開」ボタンを押して液晶画面を開く

3 メモリーカードカバーを開ける

次へ続く

4 メモリーカードの切り欠き部分を奥にして図の方向に差し込む

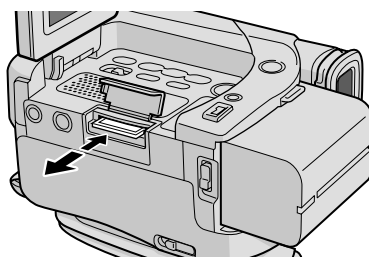
- 奥までしっかりと、まっすぐ差し込んでください。

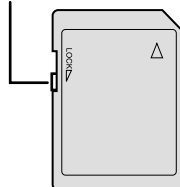
ご注意
- メモリーカードの金属部分を触らないでください。

5 メモリーカードカバーを、カチッと音がするまで押して閉める

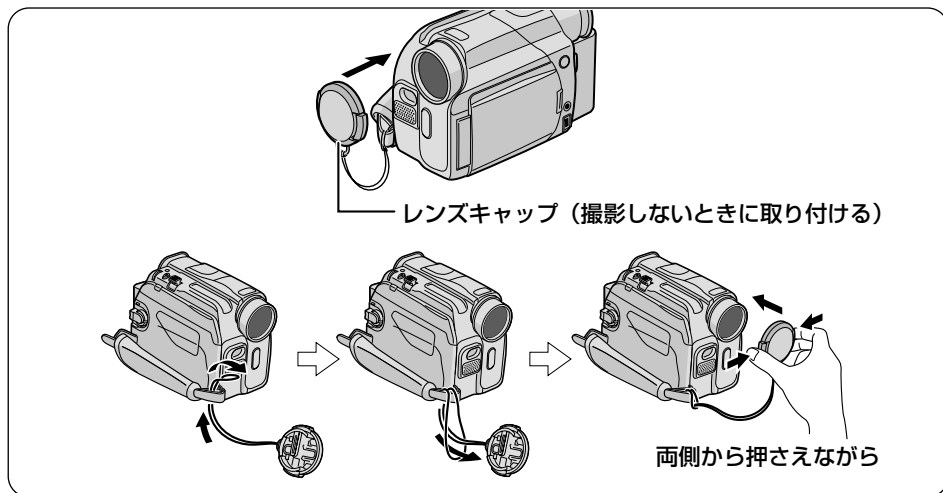
ご注意
- 新たに購入したメモリーカードを使用するときは、本機で初期化（フォーマット）してください（☞P.152）。

メモリーカードを取り出すには

1 上の手順４でメモリーカードを押す

メモリーカードが少し出てきます。

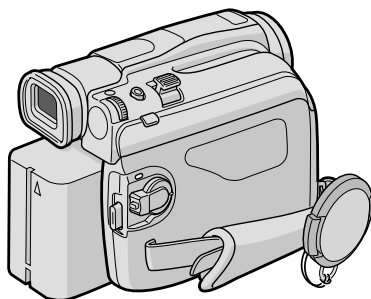
2 出てきたメモリーカードを引き抜く

- **SD メモリーカードについて**

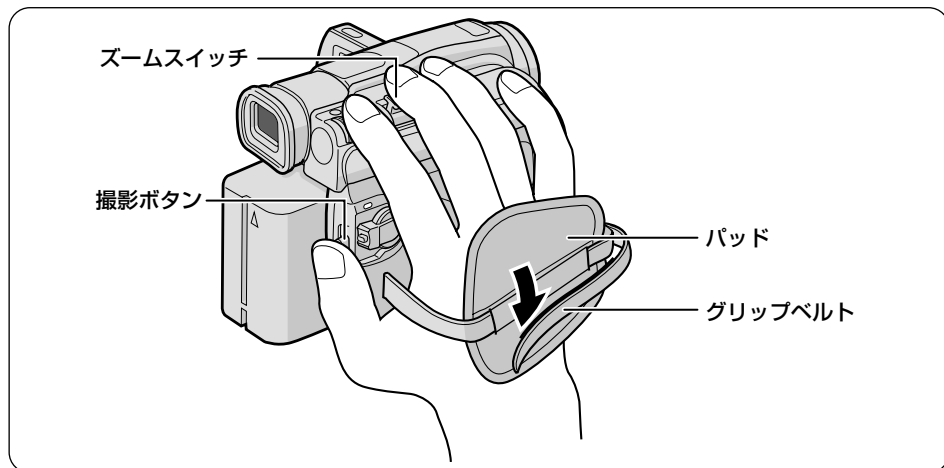
大切な画像を消してしまわないように、SD メモリーカードへ記録できなくすること（ライトプロテクト）ができます。ライトプロテクトをかけるには、SD メモリーカード側面のスイッチを「LOCK」の位置に合わせてください（スイッチを戻すと、記録できるようになります）。

Step6　レンズキャップを取り付ける

撮影しないときは、レンズキャップを取り付けます。

1 レンズキャップをグリップベルトに取り付ける

2 レンズキャップの両側を押さえながらレンズに取り付ける

- **レンズキャップについて**

  撮影中はレンズキャップをパッドに取り付けてください。

Step7　グリップベルトを調節する

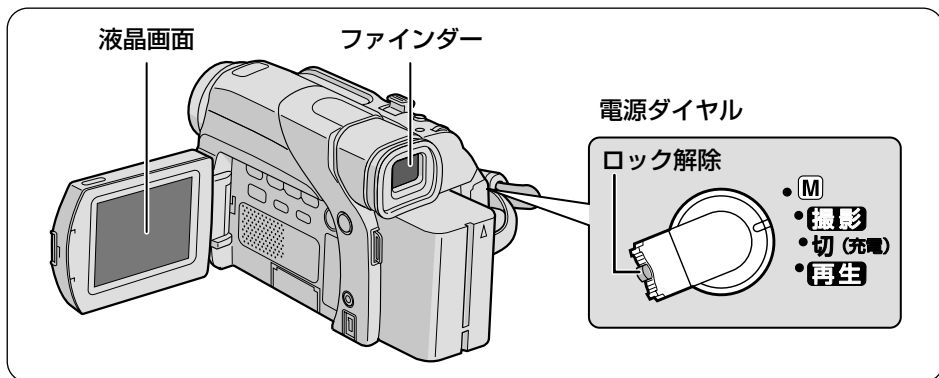
手の大きさに合わせて安定して撮影するため、グリップベルトの長さを調節します。

1 パッドをはがす

2 グリップベルトの長さを調節する

- 親指を撮影ボタンの位置に合わせ、同時に中指をズームスイッチの位置に合わせて構えたときに、本体がぐらつかない程度にベルトを締めてください。

3 パッドを貼り付ける

Step8　電源を入れる

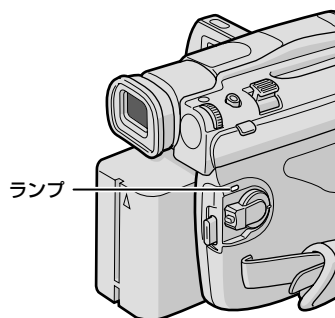
電源は液晶画面やファインダーと連動しています（クイックパワーオフ機能）。
液晶画面を開く（またはファインダーを引き出す）とすぐに撮影を始められ、液晶画面とファインダーを元に戻すだけで電源を切れます。

電源を入れるには

撮影する前にレンズキャップを取りはずしてください。
つぎの 2 つの条件が揃ったときに電源が入り、ランプが点灯します。どちらを先にしても構いません。

■電源ダイヤル

ロック解除ボタンを押したまま、電源ダイヤルを回して、「撮影」または「M」の位置に合わせる。

■液晶画面とファインダー

液晶画面を開く、またはファインダーを引き出す。

- レンズキャップを取り付けたまま電源を入れると、液晶画面またはファインダーに「レンズキャップ」と表示されます。レンズキャップを取りはずしてください。

準備する

電源を切るには

電源ダイヤルを回して「切」の位置に合わせ、ランプの消灯を確認する。
または、液晶画面とファインダーを元に戻し、ランプの消灯を確認する。

- 液晶画面を開いて、さらにファインダーを引き出した場合、液晶画面とファインダーのどちらに映像や文字、記号を表示させるかを選ぶことができます（☞P.143）。
お買い上げ時には、液晶画面が優先されるように設定されています。

ご注意

- ファインダーを元に戻すときは、指をはさまないようにご注意ください。
- ファインダーを元に戻すときは、奥まで戻してください。気づかずにバッテリーを消費します。必ずランプが消灯していることを確認してください。
- 長期間使わないときは、バッテリーとACアダプターを取りはずしてください（☞P.36、37）。

再生するには

撮影とは異なり、次の操作だけで電源が入り、ランプが点灯します。

■電源ダイヤル

ロック解除ボタンを押したまま、電源ダイヤルを回して「再生」の位置に合わせる。

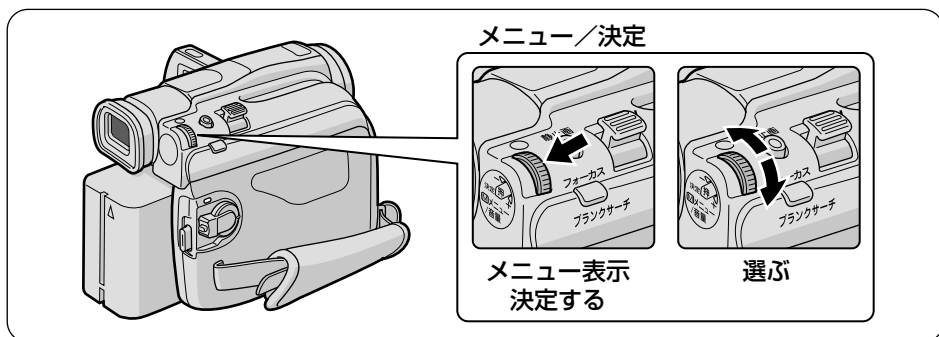
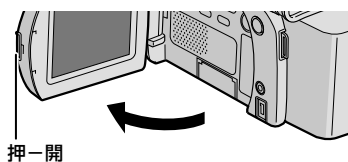
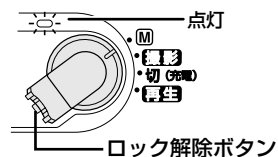
電源を切るには

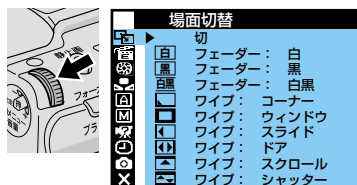
電源ダイヤルを回して「切」に合わせ、ランプの消灯を確認する。

ご注意

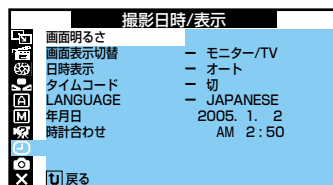
- 液晶画面を閉じていても電源が入ります。気づかずにバッテリーを消費します。必ずランプが消灯していることを確認してください。
- 長期間使わないときは、バッテリーまたはACアダプターを取りはずしてください（☞P.36、37）。
- ビデオカメラをカバンにしまうときや使わないときには、レンズ保護のためにレンズキャップを取り付けてください（☞P.43）。
- レンズキャップを取り付けるときは、レンズに触らないようにしてください。

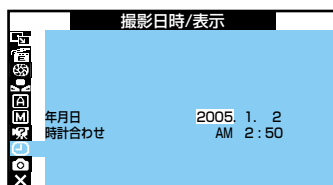
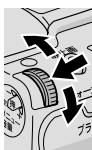
Step9　日付・時刻を合わせる

お買い上げになったばかりのビデオカメラには、日付と時刻が設定されていません。そのままでも撮影できますが、正しい日時を設定することをお勧めします。また、国外へ旅行するときは、現地の時刻にあわせることをお勧めします。
日時を設定したあとも「日時を設定して下さい」と表示されるときは、時計用の内蔵電池が空になっています。内蔵電池を交換するには、最寄りの「ビクターサービス窓口」にご相談ください（☞P.166）。

1 「押ー開」ボタンを押して液晶画面を開く

2 ロック解除ボタンを押したまま、「Ⓜ」の位置に合わせる

ランプが点灯し、液晶画面に映像が表示されます。

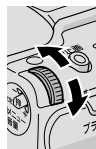
3 「メニュー／決定」ダイヤルを押して、メニューを表示する

次へ続く

4 「メニュー／決定」ダイヤルを回して「」を選び、押して決定する

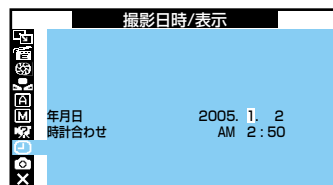
撮影日時／表示設定メニューが表示されます。

5 「メニュー／決定」ダイヤルを回して「年月日時計合わせ」を選び、押して決定する

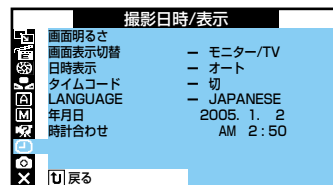
年が変更できるようになります。

6 「メニュー／決定」ダイヤルを回して正しい年に合わせる

- 数値を大きくする →「+」側
- 数値を小さくする →「−」側

小さくする

大きくする

7 「メニュー／決定」ダイヤルを押して年を決定する

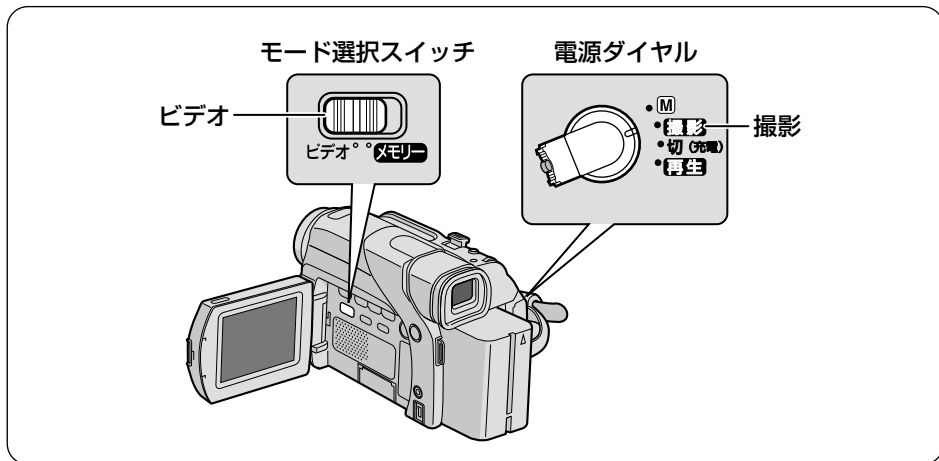
月が変更できるようになります。

8 同様にして、月日と時刻を合わせ、「メニュー／決定」ダイヤルを押して決定する

「戻る」が反転します。

9 「メニュー／決定」ダイヤルを２回押す

メニューが終了し、撮影画面に戻ります。

撮影する

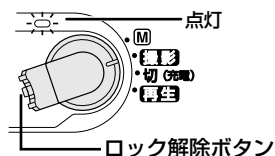
Act.1　設定を確認する

撮影前に、撮影モードなどの設定とテープやメモリーカード、バッテリーの残量を確認します。まず、電源ダイヤルとモード選択スイッチの設定を確認します。

上図のように設定されていないときは、下記の手順で設定してください。この取扱説明書では、特に断りがないときは上図の設定で操作しています。

1　モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

- モードについては、次ページの「モードごとの特徴」で説明します。

2　ロック解除ボタンを押したまま電源ダイヤルを回し、「撮影」の位置に合わせる

これだけは知っておこう編

撮影する

モードごとの特徴

ビデオ

特徴：ビデオを撮影し、テープに記録します。

● ビデオ映像の中に、写真のような場面（静止画）を約６秒間挿入することもできます(☞P.81)。

● メニューで設定を変更すると、静止画をビデオテープに挿入するのと同時に、メモリーカードにも記録することができます（☞P.139）。このときの静止画の画像サイズは、640 × 480 ドットになります。

メモリー

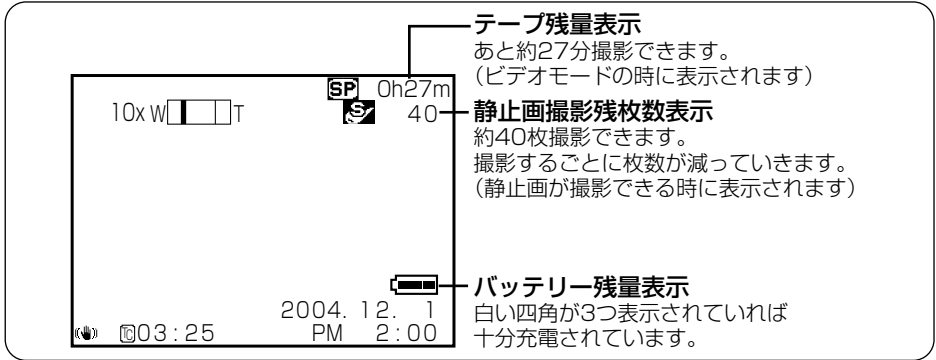
特徴：静止画を撮影し、メモリーカードに記録します（☞P.61）。

● 静止画には４種類の画像サイズがあります。

● メモリーカードに記録される静止画には、画質の良いファイン（F）とたくさん撮れるスタンダード（S）の２種類があります（☞P.87、139）。

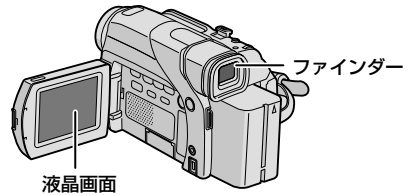
● 静止画の画像サイズには、640 × 480 ドット、1024 × 768 ドット、1280 × 960 ドット、1600 × 1200 ドットの４種類があり、数字が大きなものほど画像サイズが大きいことを表します（☞P.87、139）。一般に画像サイズが大きくなるほどきれいに印刷できますが、メモリーカードに記録できる枚数は少なくなります。印刷を目的としない場合には、小さな画像サイズに設定しておけば、より多くの枚数を撮ることができます。

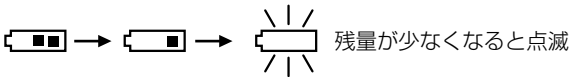
画面表示を確認する

テープやバッテリーなどの残量を確認します。

1 液晶画面を開くか、ファインダーを引き出す

撮影画面が表示されます。

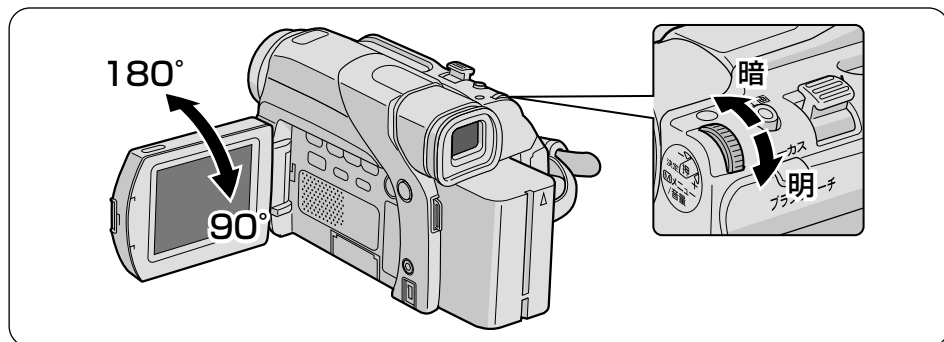
ファインダー

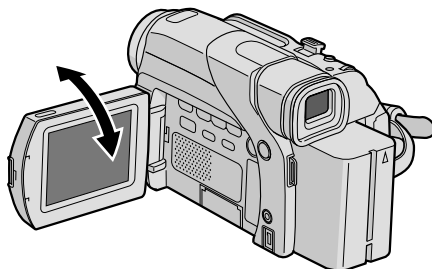
液晶画面

2 画面表示を確認する

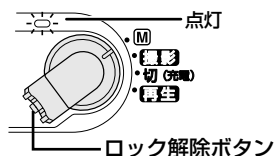
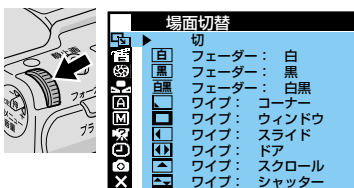
- バッテリー残量が少なくなったときは、バッテリーを充電してください（☞P.37）。

- テープ残量が足りない場合は、テープを交換するか、または録画モードをLPにしてください（☞P.39、137）。
- 入れたばかりのテープでは、テープ残量は表示されません。テープを10秒間ほど走行させて表示してください。
- テープ残量は目安としてお使いください。
  使用するカセットテープによっては、正しく表示されない場合があります。80分テープの巻き始めでは、正しい残量表示が出るまでに多少時間のかかることがあります。
- メモリーカードの静止画撮影可能枚数が足りない場合は、メモリーカードを交換してください。または、不要な静止画を削除してください（☞P.41、73）。
- 静止画撮影可能枚数は、撮影画像、画像サイズ、画質モードの変更などによって増減します（☞P.62）。

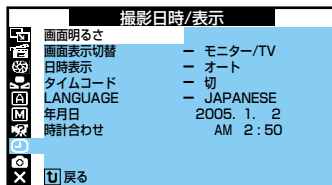
Act.2　液晶画面やファインダーを調節する

液晶画面を使うとき

画面表示や映像を見やすいように、液晶画面を調節します。

1 液晶画面の角度を調節する

- 液晶画面枠の上下に手を添えて、見やすい角度に傾けてください。
- 液晶画面はレンズ側へ180°、ファインダー側へ90°回転できます。

2 ロック解除ボタンを押したまま、「Ⓜ」の位置に合わせる

ランプが点灯し、液晶画面に映像が表示されます。

3 「メニュー／決定」ダイヤルを押して、メニューを表示する

4 「メニュー／決定」ダイヤルを回して「🕘」を選び、押して決定する

撮影日時／表示設定メニューが表示されます。

5 「メニュー／決定」ダイヤルをもう一度押す

画面の明るさを変更できるようになります。

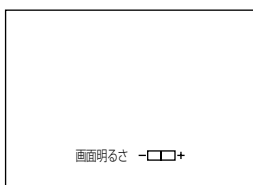
6 「メニュー／決定」ダイヤルを回して、明るさを調節する

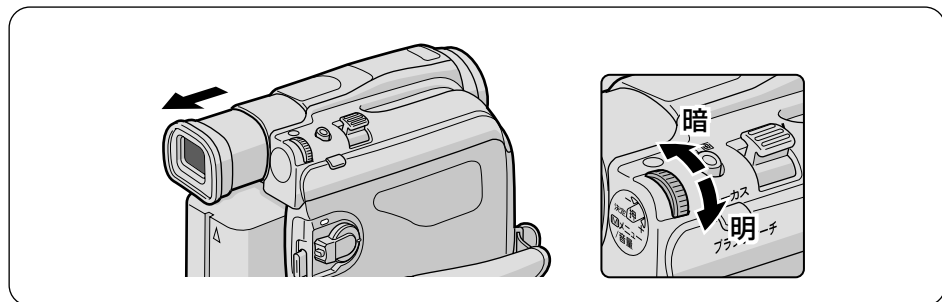
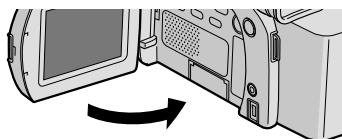
- 見やすい明るさに調節してください。

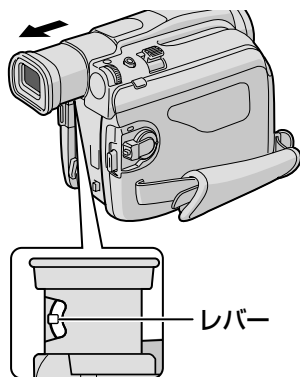
  明るくする　→　「+」側

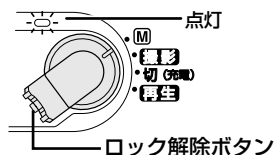
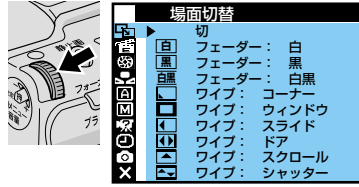
  暗くする　　→　「−」側

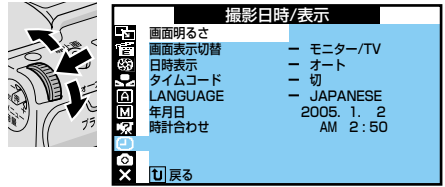
7 「メニュー／決定」ダイヤルを押して決定する

これだけは知っておこう編

ファインダーを使うとき

周りが明るすぎて液晶画面が見えにくいときや、バッテリーで長時間撮影したいときは、ファインダーを使って撮影することをお勧めします。

1 液晶画面を閉じる

2 ファインダーを引き出し、ファインダー内の画面の見えかたを調節する

- ファインダーをのぞきながらレバーを動かし、文字がはっきり見えたところで止めてください。

3 ロック解除ボタンを押したまま、「Ⓜ」に合わせる

ランプが点灯し、ファインダー画面に映像が表示されます。

4 「メニュー／決定」ダイヤルを押して、メニューを表示する

5 「メニュー／決定」ダイヤルを回して「◙」を選び、押して決定する

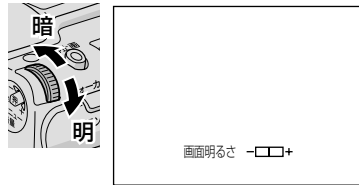
撮影日時／表示設定メニューが表示されます。

6 「メニュー／決定」ダイヤルをもう一度押す

ファインダーの明るさを変更できるようになります。

7 「メニュー／決定」ダイヤルを回して、明るさを調節する

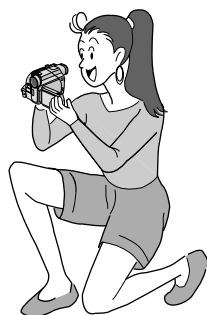
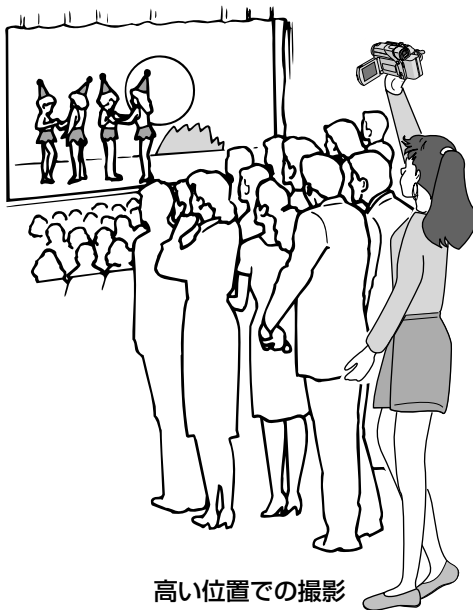
- 見やすい明るさに調節してください。

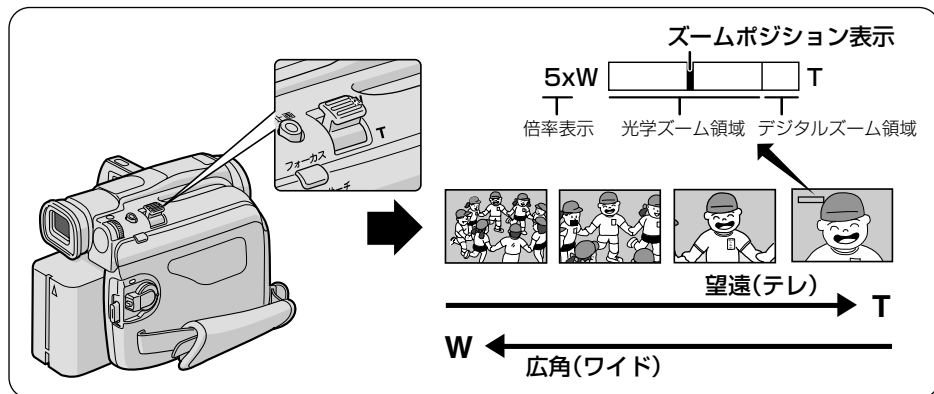
明るくする → 「+」側

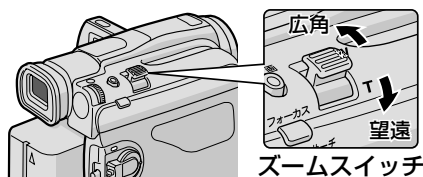
暗くする → 「−」側

8 「メニュー／決定」ダイヤルを押して決定する

- 液晶画面の表示とファインダー画面の表示は同じです。この取扱説明書では、液晶画面を使う場合を例にとって説明します。

Act.3　カメラをかまえる

安定した映像を撮るためのコツは、画面に映っている人が動いてもビデオカメラは動かさないことです。ビデオカメラがふらつかないように、安定した姿勢をとりましょう。

Act.4　撮影する範囲を調節する［ズーム］

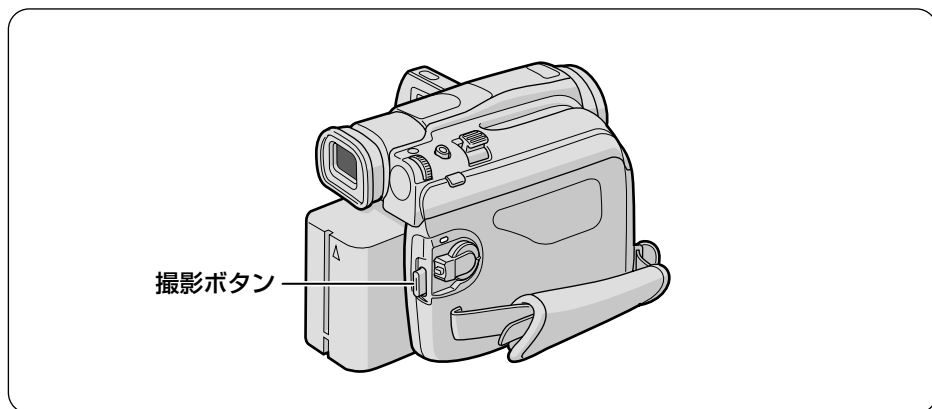
ズームスイッチを使って、撮影する範囲を調節できます。画面に被写体が小さく見えているときは望遠側（T）へ調節し、より広い範囲を画面に収めたいときは広角側（W）へ調節します。

1 ズームスイッチをスライドさせる

- 望遠（遠くのものを大きくする）→「T」
- 広角（撮影範囲を広げる）→「W」

- 可変速ズーム：ズームスイッチは少しスライドするとゆっくり、いっぱいまでスライドすると早くズームできます。
- 最大ズーム倍率：何倍までズーム可能にするかを変更できます。（☞ P.137）。
- 10倍以上のズーム（デジタルズーム）：10倍までの映像に比べて、デジタル処理をするため多少映像品質が劣化します。
- 接写したいとき（マクロ撮影）：W側にいっぱいまで押すと、レンズから約5cmまで被写体に近づいて撮影できます。

- 10倍以上のズームが使用できない：メモリーモードに設定すると使用できません。
- 勝手に広角（W）になる：T側にいっぱいまで押すと、レンズから被写体を1m以上離さないとピントが合いません。ピントが合わないときは、自動的にW側に調節されます。

  テレマクロ機能を設定すると、T側で約60cmまで近づいて撮影できます（☞ P.140）。

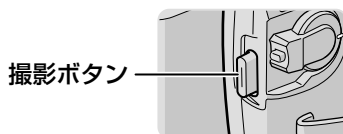
Act.5A　ビデオを撮影する

ボタン1つで、簡単に撮影できます。

1 撮影ボタンを押し、撮影をはじめる

- 「ポン」と音がするまで押してください。

画面に「録画」と表示されます。

撮影中の画面

SP 0h18m
録画

2 撮影をやめるには、もう一度撮影ボタンを押す

- 「ポポン」と音がするまで押してください。

画面に「ストップ」と表示されます。

撮影を停止した画面

SP 0h17m
ストップ

・実撮影時間の目安

バッテリー	ファインダー使用時	液晶画面使用時
BN-V408（付属）	約45分	約30分
BN-V408-H(別売)	約45分	約30分
BN-V416/V416-H(別売)	約1時間30分	約1時間5分
BN-V428(別売)	約2時間40分	約2時間
BN-V438(別売)	約3時間35分	約2時間40分
VU-V840KIT※(別売)	約3時間40分	約2時間45分
VU-V856KIT※(別売)	約5時間15分	約4時間

バッテリー	ファインダー＋LEDライト使用時	液晶画面＋LEDライト使用時
BN-V408（付属）	約40分	約30分
BN-V408-H(別売)	約40分	約30分
BN-V416/V416-H(別売)	約1時間20分	約1時間
BN-V428(別売)	約2時間25分	約1時間50分
BN-V438(別売)	約3時間20分	約2時間30分
VU-V840KIT※(別売)	約3時間25分	約2時間35分
VU-V856KIT※(別売)	約4時間55分	約3時間45分

・連続撮影時間の目安（最大撮影時間）

バッテリー	ファインダー使用時	液晶画面使用時
BN-V408（付属）	約1時間30分	約1時間5分
BN-V408-H(別売)	約1時間30分	約1時間5分
BN-V416/V416-H(別売)	約3時間	約2時間15分
BN-V428(別売)	約5時間20分	約4時間
BN-V438(別売)	約7時間10分	約5時間25分
VU-V840KIT※(別売)	約7時間25分	約5時間35分
VU-V856KIT※(別売)	約10時間30分	約8時間

バッテリー	ファインダー＋LEDライト使用時	液晶画面＋LEDライト使用時
BN-V408（付属）	約1時間20分	約1時間5分
BN-V408-H(別売)	約1時間20分	約1時間5分
BN-V416/V416-H(別売)	約2時間45分	約2時間5分
BN-V428(別売)	約4時間55分	約3時間45分
BN-V438(別売)	約6時間40分	約5時間5分
VU-V840KIT※(別売)	約6時間50分	約5時間15分
VU-V856KIT※(別売)	約9時間50分	約7時間30分

次へ続く

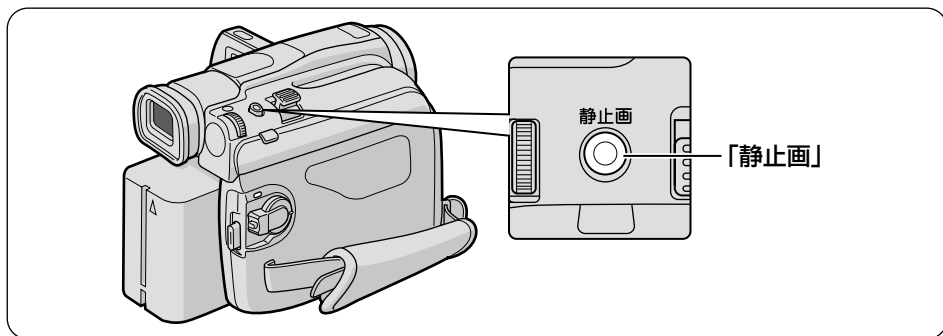
※VU-V840KIT および VU-V856KIT は、バッテリーを付属のバッテリーポーチに入れ、別売のDC コード（VC-VBN800）でバッテリーポーチとビデオカメラを接続して使用します。バッテリーをビデオカメラに直接取り付けることはできません。

撮影時間は、ズームを使ったり、撮影／撮影停止を繰り返すなどで短くなります。バッテリーは撮影予定時間の約３倍分ご用意されることをお勧めします。
実撮影時間は撮影、撮影停止、電源の入／切、ズーム動作などを繰り返したときの撮影時間です。実際には、これよりも短くなることがあります。

- **あとでインサート編集やアフレコ編集をするときは**
  録画モードを SP にして撮影してください（☞ P.137)。
  アフレコ編集をするときは、音声モードも 12bit にして撮影してください（☞ P.127、137)。
  お買い上げ時には録画モードは SP、音声モードは 12bit に設定されています。

- **電源が切れてしまったら**
  撮影を停止してから５分経つと、ビデオカメラの節電とテープ保護のため自動的に電源が切れます。再び撮影したいときは、ファインダーを一度入れ、再び引き出してください。液晶画面をお使いのときは、液晶画面を一度閉じ、再び開いてください。
- **バッテリー残量表示（ が点滅）が出たら**
  バッテリーが少なくなっています。バッテリーがなくなると自動的に電源が切れます（☞ P.51）。
  電源が切れる前にバッテリーを交換してください。
- **正常に録画できない**
  ビデオヘッドが汚れているかもしれません（☞ P.158）。大切な撮影の前には試し撮りをして、正常に録画、録音されていることをご確認ください。

Act.5B　静止画を撮影する

静止画の撮影も、ボタン1つでできます。

1 モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

2 液晶画面でピントが合っていることを確認する

3 「静止画」ボタンを押す

シャッター音がして、静止画が記録されます。

➡🄿 の矢印が点滅して静止画をメモリーカードに取り込みます。

これだけは知っておこう編

次へ続く

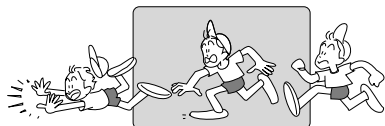
撮影枚数の目安

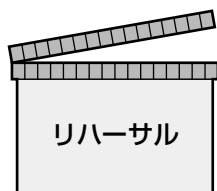
画像サイズ	画質モード	マルチメディアカード			SD メモリーカード			
		8MB（付属）	16MB（市販）	32MB（市販）	8MB（市販）	16MB（市販）	32MB（市販）	64MB（市販）
640×480	ファイン	約55枚	約105枚	約215枚	約47枚	約95枚	約205枚	約425枚
	スタンダード	約190枚	約320枚	約645枚	約160枚	約295枚	約625枚	約1285枚
1024×768	ファイン	約25枚	約50枚	約100枚	約21枚	約47枚	約95枚	約200枚
	スタンダード	約75枚	約160枚	約320枚	約65枚	約145枚	約310枚	約640枚
1280×960	ファイン	約16枚	約32枚	約60枚	約13枚	約29枚	約60枚	約125枚
	スタンダード	約50枚	約105枚	約215枚	約45枚	約95枚	約205枚	約425枚
1600×1200	ファイン	約10枚	約21枚	約42枚	約8枚	約19枚	約41枚	約80枚
	スタンダード	約34枚	約65枚	約135枚	約28枚	約60枚	約130枚	約275枚

- 画質設定（モード）には、画質の良い順にファイン、スタンダードの2種類があります。画質設定を変更するときには（☞ P.87、139）
- 画像サイズを変更するときには（☞ P.87、139）
- ナイトアイ（☞ P.79）やプログラムAEの「夜景」（☞ P.100）を使用しているときには、ピントが合わないことがあります。このようなときは、マニュアルフォーカスをお勧めします（☞ P.91）。
- 以下のようなピントが合いにくい被写体を撮影するときには、マニュアルフォーカスをお勧めします（☞ P.91）。
  - 平らな壁や青空など、コントラスト（明暗差）のほとんどない被写体
  - 金網などの障害物が被写体との間にあるとき
  - 細かい模様や同じ模様が規則正しく並んでいる被写体
  - 蛍光灯などのちらつきのある光源の下にある被写体

- 静止画撮影時は、手ぶれ補正機能が働きません。

上手に撮るコツは

ビデオカメラを動かさない

安定した映像を撮るためのコツは、画面に映っている人が動いてもビデオカメラは動かさないことです。
左右に動くものを撮影したいときは水平に、高さのあるものは垂直にゆっくり動かします。そのときのコツは、撮り始めと撮り終わりでカメラをピタッと止めることです。

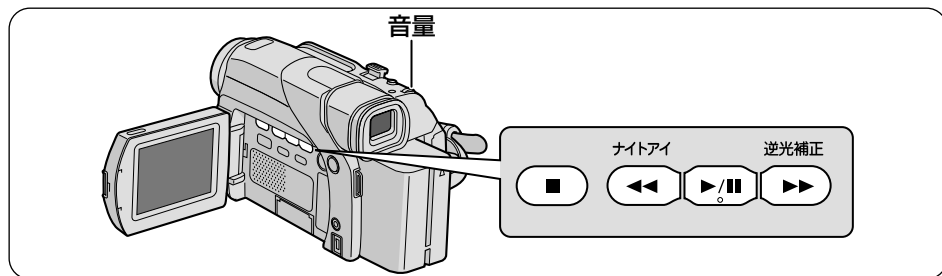
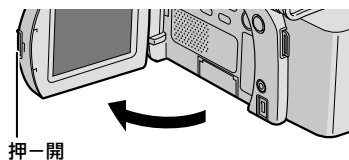
カメラリハーサルを行う

撮影を始める前にカメラリハーサルをして、ビデオカメラの操作に慣れておきましょう。どのタイミングでどんな操作をするかシナリオを書いておくことで、本番の撮影がスムーズになります。
また、周りの明るさや被写体との距離なども事前にチェックして、それぞれ適切な状態で撮影できるように準備しておきます。

いろいろなアングルで撮影する

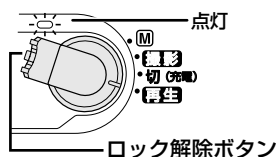
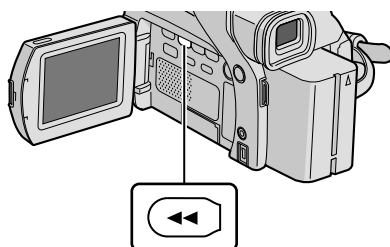
正面からだけでなくいろいろなアングルで撮影すると、同じ被写体でも印象の違う映像を撮影できます。液晶画面の傾きを、見やすいように調節してください。
また、液晶画面をレンズ側へ180゜回転させて画面で確認しながら自分自身を撮影(セルフ撮影)できます。

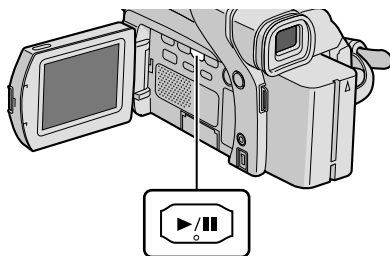
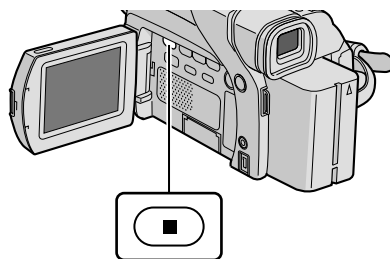
再生する

ビデオを再生する

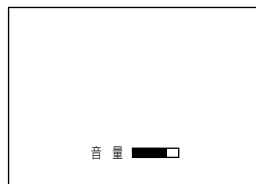
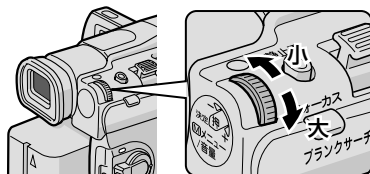
撮影した映像を、ビデオカメラの液晶画面で見ることができます。

1 「押ー開」ボタンを押して液晶画面を開く

2 モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

3 ロック解除ボタンを押したまま、「再生」の位置に合わせる

ランプが点灯し、液晶画面に青い画面が表示されます。

4 「◀◀」ボタンを押して、テープを巻戻す

5 「▶/Ⅱ」ボタンを押して、再生する

ビデオが再生されます。

6 見終わったら「■」ボタンを押して、テープを停止する

スピーカーの音量を調節するには

ビデオの再生中に「メニュー／決定」ダイヤルを回すと、スピーカーの音量を調節できます。

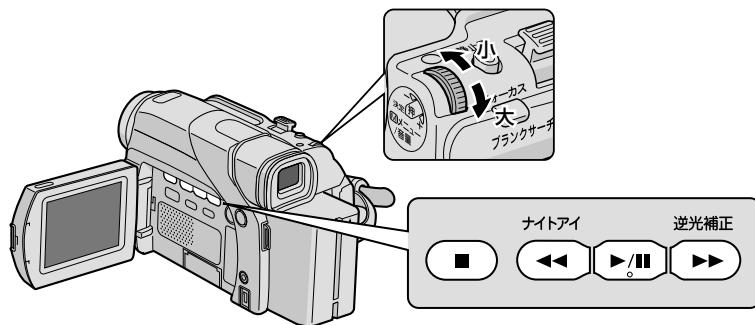
- 大きくする → 「＋」側
- 小さくする → 「－」側

- 映像／音声コードがビデオカメラにつながっていると、スピーカーからは音がでません。

再生する

ビデオの操作方法について

早送り再生やコマ送り再生をするには、再生中に次の操作を行います。

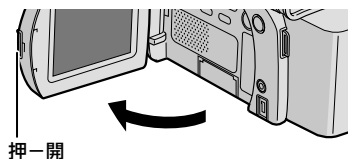
早送り再生	▶▶ を押す　または　押し続ける
巻戻し再生	◀◀ を押す　または　押し続ける
一時停止	▶/Ⅱを押す
コマ送り再生	▶/Ⅱを押したあとリモコンのスローボタンを1回ずつ押す Ⅰ▶　正転コマ送り ◀Ⅰ　逆転コマ送り

通常の再生に戻すには、「▶/Ⅱ」ボタンを押します。
リモコンでも操作できます（☞ P. 32）。
リモコンを使うと、スロー再生もできます（☞ P. 33）。

- 早送り再生、巻戻し再生は９倍速で再生します。
- 一時停止の状態が約３分続くと、自動的に停止します。
- 停止の状態が約５分続くと、自動的に電源が切れます（ACアダプターを使用していない場合）。

- 早送り／巻戻し再生中やスロー再生中は、映像がみだれることがあります。
- 正転スロー再生を約５分、または逆転スロー再生を約５分（80分テープのときは20秒）続けると自動的に通常再生に戻ります。
- 「▶/Ⅱ」ボタンを押すと、映像が一時停止します。その後、青い画面が表示されることがあります。
- モザイク状のノイズが出たり、青い画面のまま映像が出ないときは、ビデオカメラのヘッドを清掃してください（☞ P.158）。

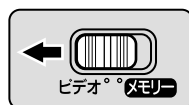
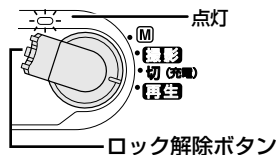
無記録部分を探す［ブランクサーチ］

ビデオテープの中にある５秒間以上の無記録部分を探します。
途中まで記録したビデオテープを取り出したり、再生してしまったときなどに、撮影開始点を効率よく見つけることができます。

1 「押ー開」ボタンを押して液晶画面を開く

2 モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

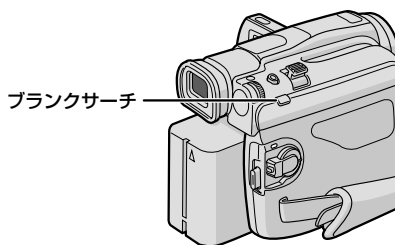
3 ロック解除ボタンを押したまま、「再生」の位置に合わせる

ランプが点灯し、液晶画面に青い画面が表示されます。

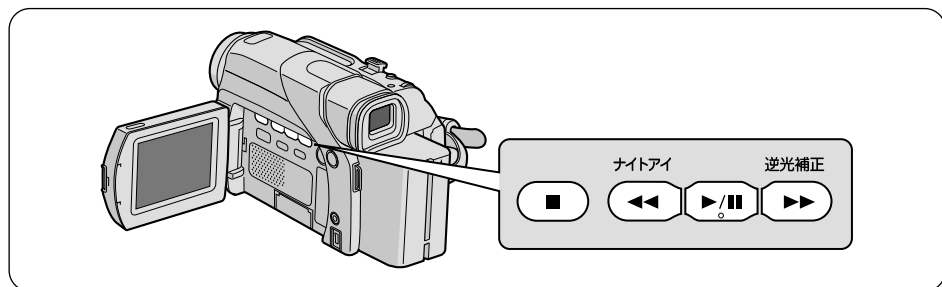
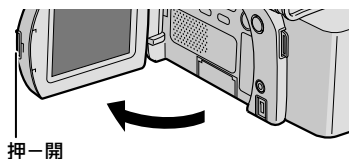
点灯
M
撮影
切（充電）
再生
ロック解除ボタン

4 「ブランクサーチ」ボタンを押す

ブランクサーチがスタートします。

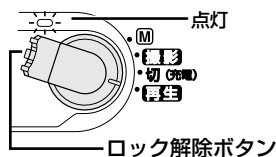
無記録部分の約３秒手前で自動的に停止します。

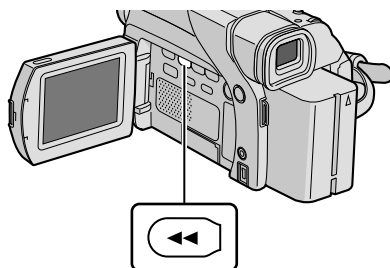
- ブランクサーチを中止するには、「■」ボタンを押します。

- ５秒間以上の無記録部分があると、その先に映像があっても停止します。停止した位置以降に映像が記録されていないか、録画を開始する前によく確認してください。
- ブランクサーチを映像の記録された部分からスタートすると早送り方向に、無記録部分からスタートすると巻き戻し方向にブランクサーチを行います。
- 無記録部分の約３秒手前で停止しますので、そこから録画をスタートすると、約３秒間映像が上書きされてしまいます。必要に応じて再生し、録画スタート位置を確認してください。

静止画を再生する

撮ったその場で静止画を確認できます。

1 「押ー開」ボタンを押して液晶画面を開く

2 モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

3 ロック解除ボタンを押したまま、「再生」に合わせる

ランプが点灯し、液晶画面に最後に撮影した静止画が再生されます。

4 「◀◀」ボタンを押して、前の静止画を再生する

- 次の静止画を再生するには「▶▶」ボタンを押してください。

連続再生の操作方法について

静止画を連続して再生するには、手順４で次の操作を行います。

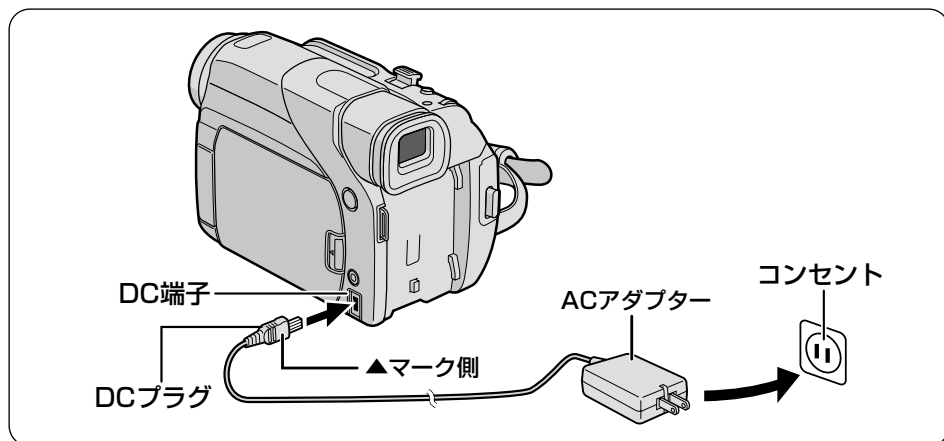
連続再生（正方向）	▶/IIを押す
連続再生（逆方向）	連続再生（正方向）中に ◀◀ を押す
停止	連続再生中に■を押す

リモコンでも操作できます。（☞ P.32）

これだけは知っておこう編

- 静止画を再生したあとに撮影を行った場合、最後に撮影された画像の次に撮影されます。すでに撮影した画像に上書きされることはありません。
- メモリーカードに記録された静止画像ファイルはDCF（Design rule for Camera File systems）に対応しています。DCF対応していない機器との互換性はありません。

コンセントの電源で使う

室内で撮影または再生するときは、ACアダプターを使ってコンセントから電源を取ると、バッテリーの消費を気にせず使用できます。

1 ACアダプターをコンセントに差し込む

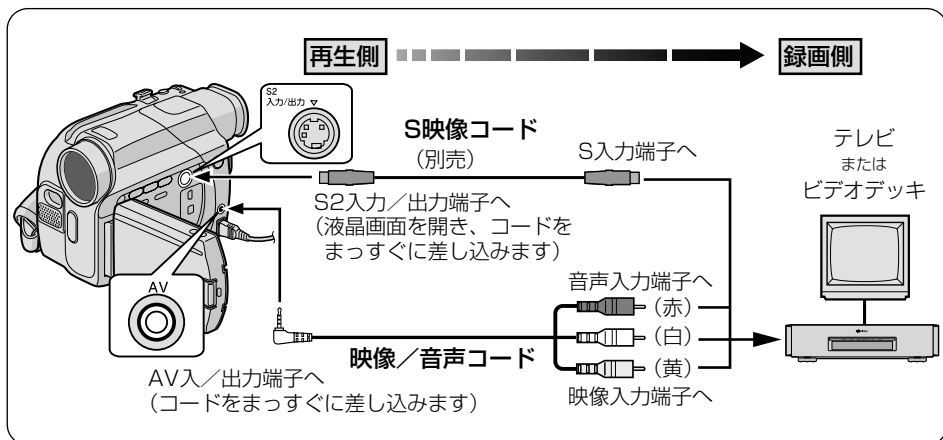
2 ビデオカメラのDC端子に、ACアダプターのDCプラグを差し込む

- ビデオカメラのDC端子内や、DCプラグの端子間を金属などでショートさせないでください。
  故障の原因になります。

- ACアダプターは、海外でも使用できます（☞ P.168）。

テレビで見る

みんな揃ってビデオを見たいときには、ご家庭のテレビなどにビデオカメラを接続すると便利です。

- ご使用になるテレビやビデオデッキによって、入力モードの設定方法は異なります。詳しくはテレビやビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。

接続する

ビデオカメラをテレビやビデオデッキに接続するには、付属品の映像／音声コードを使用します。

1 ビデオカメラの電源を切り、AC アダプターを接続する

- AC アダプターの取り付け（☞ P.70）

2 AV 入／出力端子に、映像／音声コードを接続する

3 テレビやビデオデッキの映像入力端子と音声入力端子に、映像／音声コードを接続する

- テレビやビデオデッキに S 入力端子があるときは別売の S 映像コードも接続します。より高画質の映像をお楽しみいただけます。

再生する

再生する

1 ロック解除ボタンを押したまま、電源ダイヤルを「再生」の位置に合わせる

2 テレビの電源を入れる

- ビデオデッキに接続している場合は、ビデオデッキの電源も入れます。

3 テレビのチャンネルやビデオデッキの入力モードを設定する

- テレビに接続したとき
  テレビの入力モードを、ビデオカメラを接続した端子に切り替えます（例えば「ビデオ 1、ビデオ 2、ビデオカメラ」など）。
- ビデオデッキに接続したとき
  テレビを、ビデオを見るチャンネルに合わせ、ビデオデッキの入力モードを外部入力に設定します。

テレビ画面が青くなります。

4 再生する

- ビデオを再生するには（☞P.64）
- 静止画を再生するには（☞P.68）

画面の文字や記号を隠すには

再生日時／表示設定メニューで、次のように設定してください（☞P.135）。

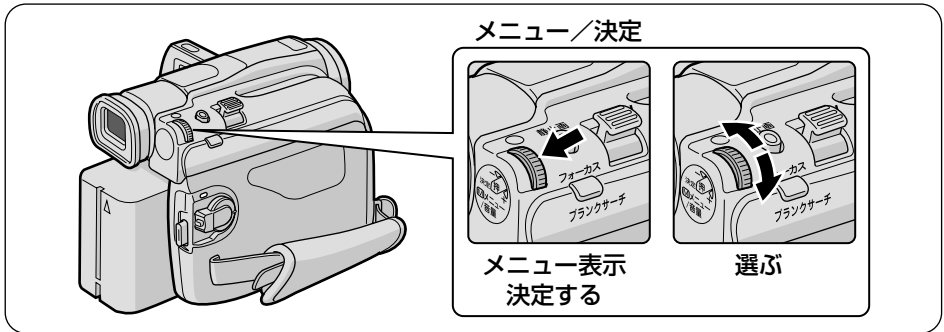
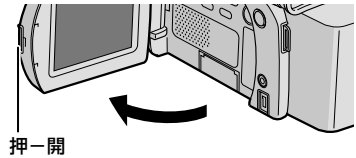
- 画面表示切替→モニター、または切
- 日時表示　　→切
- タイムコード→切

- 再生映像をズームしたい（☞P.110、111）
- 再生映像に変化を付けたい（☞P.112）

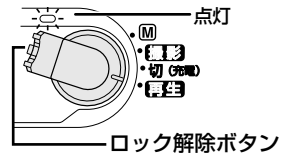
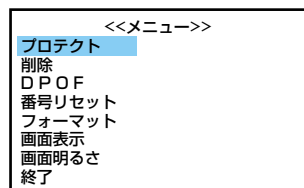
- モザイク状のノイズが出たり、青い画面のまま映像が出ないときは、ビデオカメラのヘッドを清掃してください（☞ P.158）。

メモリーカードの静止画を削除する

静止画を選択して削除する

メモリーカードに空きがなくなると静止画を撮れなくなります。新しいメモリーカードと交換するか、不要な静止画を削除してください。
ここでは、静止画を削除してメモリーカードの空きを増やす方法を説明します。

1 「押ー開」ボタンを押して液晶画面を開く

2 モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

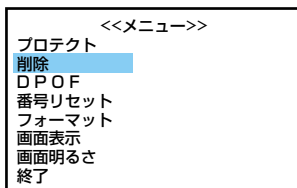
3 ロック解除ボタンを押したまま、「再生」の位置に合わせる

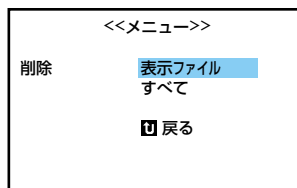
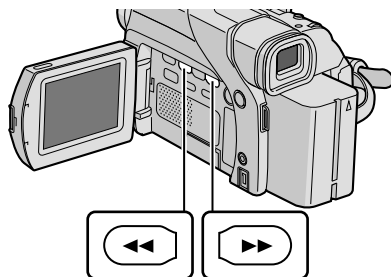
液晶画面に静止画が表示されます。

4 「メニュー／決定」ダイヤルを押して、メニューを表示する

次へ続く

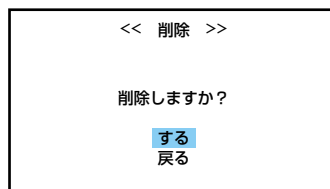
メモリーカードの静止画を削除する

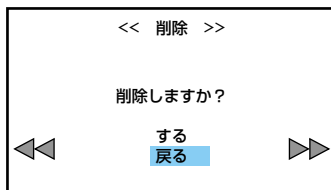
5 「メニュー／決定」ダイヤルを回して「削除」を選び、押して決定する

「表示ファイル」「すべて」が表示されます。

<<メニュー>>
プロテクト
削除
ＤＰＯＦ
番号リセット
フォーマット
画面表示
画面明るさ
終了

6 「メニュー／決定」ダイヤルをもう一度押して決定する

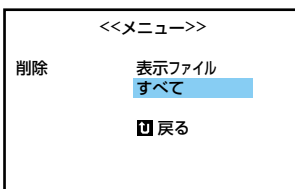
削除画面が表示されます。

7 「◀◀」または「▶▶」ボタンを押して、削除したい静止画を表示する

8 「メニュー／決定」ダイヤルを回して「する」を選び、押して決定する

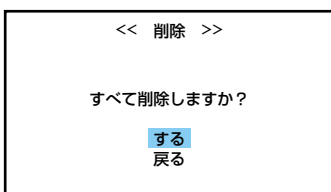
表示されている静止画が削除されます。

9 他の静止画も削除したいときは、手順７～８を繰り返す

10 静止画の削除を終了するときは、「戻る」が選ばれていることを確認して、「メニュー／決定」ダイヤルを３回押す

静止画の再生画面に戻ります。

すべての静止画を削除する

ここでは、すべての静止画を削除してメモリーカードを空にする方法を説明します。

1 「静止画を選択して削除する」(☞P.74)の手順６で「メニュー／決定」ダイヤルを回して「すべて」を選び、押して決定する

削除画面が表示されます。

2 「メニュー／決定」ダイヤルを回して「する」を選び、押して決定する

静止画がすべて削除されます。

● 削除をやめるには「戻る」を選びます。

● SDカードのライトプロテクトスイッチを「LOCK」の位置に合わせていると、静止画は削除できません（☞P.42）。

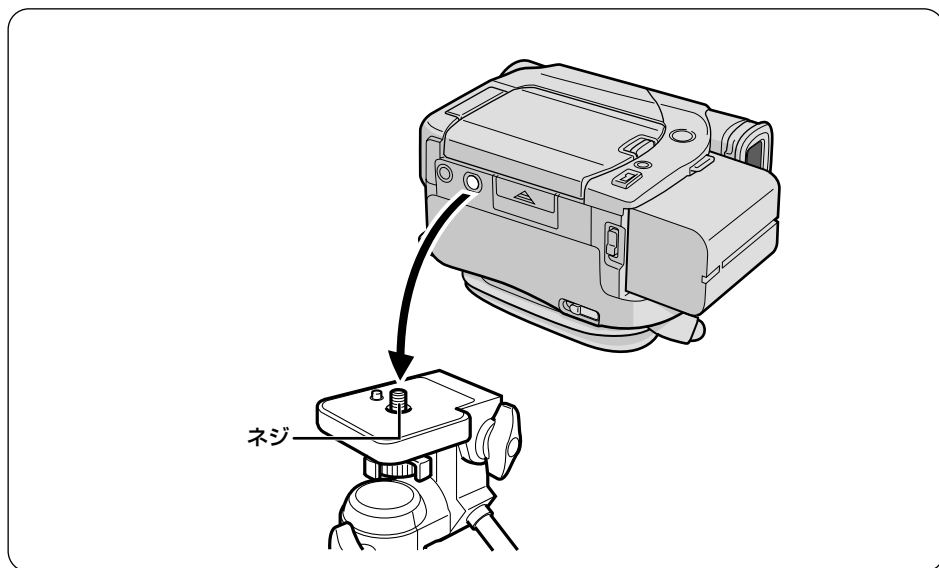
● プロテクトした静止画は、上記の操作で削除されません（☞P.131）。プロテクトした静止画を削除するには、あらかじめプロテクトを解除しておきます（☞P.133）。

ご注意

● 削除中はメモリーカードを取り出したり、電源を切らないでください。故障などの原因となることがあります。
また、ACアダプターをお使いになることをお勧めします。途中でバッテリーがなくなると、故障の原因となります。

● 削除した静止画は元に戻せません。削除する前に内容を確認してください。

三脚を使って撮影する

三脚を使用するとビデオカメラが安定し、記念撮影やズーム機能を使った撮影で役立ちます。

1 三脚のネジと本体底面のネジ穴を合わせる

2 三脚のネジを回して固定する

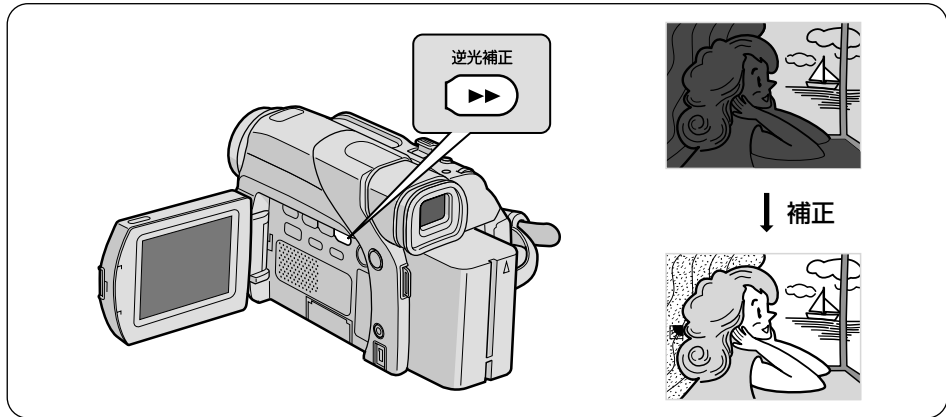
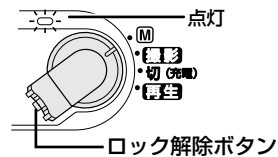
- ガイドピンのある三脚には、ビデオカメラのガイドノブ穴に合わせて取り付けます。

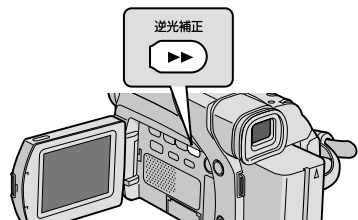
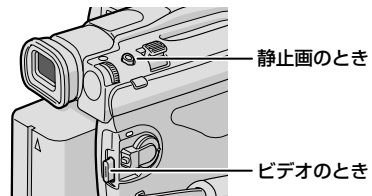
ご注意

- 三脚のネジの長さが、5.5 mm 以下のものをお使いください。

- ご使用になる三脚の取扱説明書もご覧ください。

被写体の後ろに太陽があるとき［逆光補正］

太陽に向かって撮影すると、太陽を背にした被写体（人物）が暗くなって撮影されます。
このようなときに「逆光補正」ボタンを押すと、被写体が明るく補正されます。

1 ロック解除ボタンを押したまま、「撮影」または「M」の位置に合わせる

2 「逆光補正」ボタンを押す

画面に逆光補正マーク（ ）が表示されます。

3 撮影ボタンまたは「静止画」ボタンを押して撮影する

4 逆光補正を解除するには、もう一度「逆光補正」ボタンを押す

- 「逆光補正」ボタンを使うと、被写体の周囲が明るくなりすぎて白くなることがあります。
- より適切な明るさに調節したいときは、明るさ補正メニューで設定してください（☞P.89）。

撮影・初級テクニック編

明るさを補って撮影する[LED ライト]

明るさが足りない場所で、被写体を明るく撮影したいときなど、LED ライトを点灯し、明るさを補って撮影することができます。

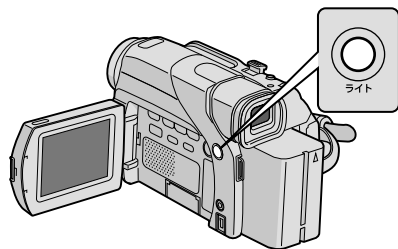
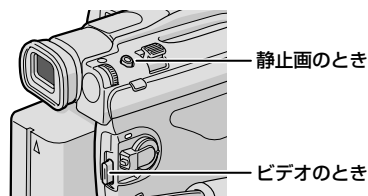
1 「ライト」ボタンを押す

画面にオートLEDライトマーク(☀A)が表示され、明るさが足りない場合にビデオカメラ前面のLEDライトが点灯します。

- 「ライト」ボタンを押すごとに、LEDライトの状態が次のように切り替わります。

「オフ」(表示なし) :常に消灯

「オン」(☀) :常に点灯

「オート」(☀A) :明るさが足りない時に点灯

2 撮影ボタンまたは「静止画」ボタンを押して撮影する

LED ライトを解除するには

「ライト」ボタンを押して、「オフ」を選択します。

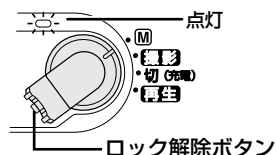
ご注意

- LED ライトは直視しないでください。特に、小さいお子様の目などに直接光が入らないようにご注意ください。

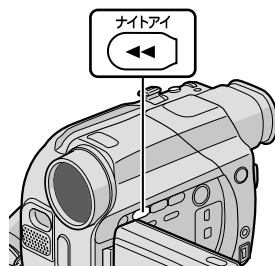
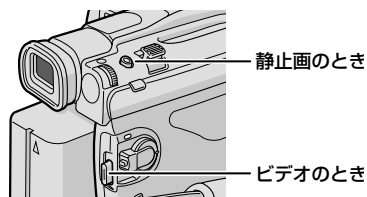
- 「オン」を選択した状態で、LED ライトの光が届かない場合はナイトアイになります(☞P.79)。
- LED ライトの光の中心と周辺では明るさが異なります。(周辺が暗くなります。)
- 「オン」を選択した場合、スローシャッターが働くため被写体がブレて撮影されます。

暗い場所で撮影する［ナイトアイ］

赤ちゃんの寝顔を撮影したいときなど、暗い場所で撮影したいときに効果的です。
シャッタースピードを自動的に調節し、被写体を通常より最大30倍まで明るく浮かび上がらせて撮影できます。真っ暗な場所では撮影できません。

1 ロック解除ボタンを押したまま、「Ⓜ」の位置に合わせる

2 「ナイトアイ」ボタンを押す

画面にナイトアイマーク（ A ）が表示されます。

- 明るい場所では、一時的に通常の撮影に戻ります（通常の撮影に戻っている間は「 」の横の「A」が消えます）。

3 撮影ボタンまたは「静止画」ボタンを押して撮影する

ナイトアイを解除するには

「ナイトアイ」ボタンを押します。
電源ダイヤルを「撮影」の位置に合わせると、ナイトアイは一時的に解除されます。

撮影・初級テクニック編

暗い場所で撮影する［ナイトアイ］

暗い場所で撮影する、いろいろな方法

このビデオカメラには、ナイトアイのほかにも暗い場所で撮影するための機能があります。

夜景など、遠い場所にある被写体を撮影するときには

プログラム AE の「夜景」を使用すれば、映像がザラザラせず、より自然な感じの映像を記録することができます（☞P.100）。

薄暗い場所にある被写体を撮影するときには

フルオート設定メニューの「感度アップ」を使用します。（☞P.137）。
「AGC」で撮影した画面は、デジタル映像を処理して実際よりも明るい映像を記録します。ただし、映像がザラザラした感じになります。
「オート」で撮影した画面は、自動的にシャッタースピードを調節して、実際よりも明るい映像を記録します。ただし、被写体の動きは多少不自然になります。

ビデオまたは静止画を撮影するときは

LED ライトを点灯させると、被写体を明るく撮影できます。

- ナイトアイ機能を有効にした場合、暗い場所では被写体がブレて撮影されることがあります。また、ピントが合いにくくなります。ブレを防ぐためにビデオカメラを三脚などで固定し（☞P.76）、ピントを手動で合わせて（☞P.91）撮影してください。

ビデオテープに静止画を撮る [記念写真モード]

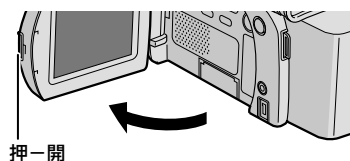
ビデオの中に写真のような静止画を挿入できます。被写体の表情を印象的に撮影したいときなどに効果的です。
記念写真モードは、次の３種類から選択できます。

フルモード

ピンナップモード

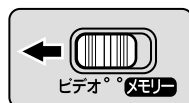
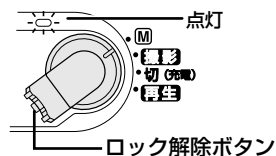
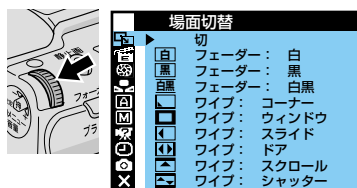
フレームモード

静止画の見せかたを変更する

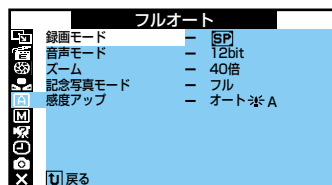
1 「押ー開」ボタンを押して液晶画面を開く

2 モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

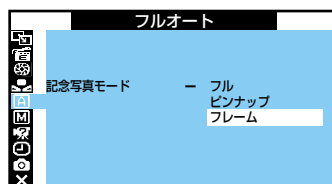
3 ロック解除ボタンを押したまま、「Ⓜ」の位置に合わせる

4 「メニュー／決定」ダイヤルを押してメニューを表示する

次へ続く

ビデオテープに静止画を撮る［記念写真モード］

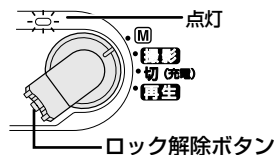
5 ダイヤルを回して「A」を選び、押して決定する

フルオート設定メニューが表示されます。

6 ダイヤルを回して「記念写真モード」を選び、押して決定する

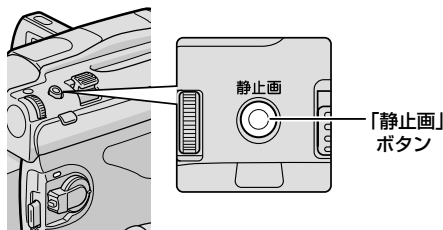
7 ダイヤルを回して使用する記念写真モードを選び、押して決定する

8 ダイヤルを２回押して撮影画面に戻る

ビデオテープに静止画を記録する

1 モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

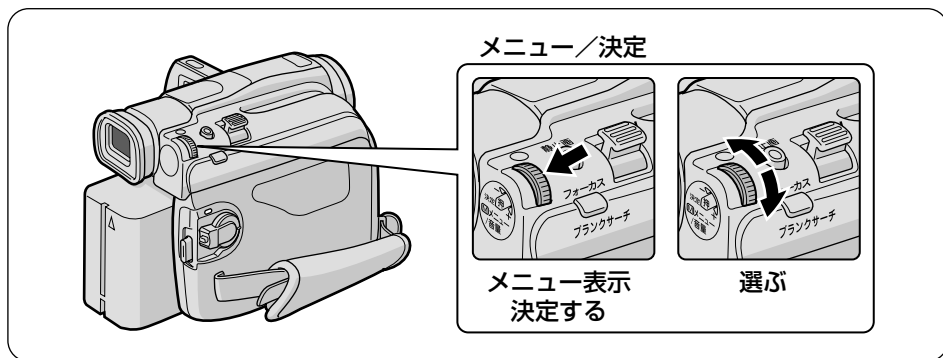
2 ロック解除ボタンを押したまま、「撮影」または「Ⓜ」の位置に合わせる

3 「静止画」ボタンを押す

液晶画面の映像が約6秒間停止し、指定したモードで音声とともにテープに記録されます。

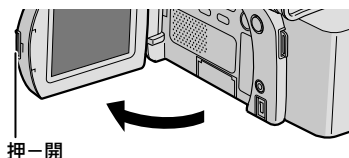
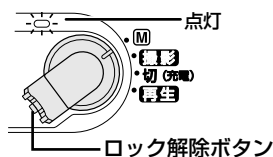
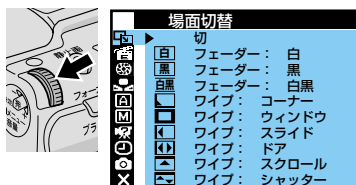
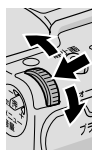
- 押し続けると、約1秒ごとに連写します。
- ビデオの撮影停止中でも、ビデオテープに静止画を記録することができます。

- 記録選択設定を「➡ ／➡ 」に変更すると、ビデオテープへの記録と同時にメモリーカードにも静止画が記録されます（☞P.139）。
- ビデオ再生中の映像に記念写真モードの効果を加えることもできます。「 ➡ コピー設定」（☞ P.108）を「切」にしてご使用ください。

- 静止画撮影ができないときは、静止画ボタンを押したときに「PHOTO」が点滅します。
- プログラム AE（☞ P.100）の中には、静止画撮影時に働かないものがあります。このようなときは、プログラム AE アイコンが青く点滅してお知らせます。

動きの速いものを撮影する［スポーツモード］

被写体の明るさに合わせてシャッター速度を自動的に調節して、走っている人物など動きの速い被写体をブレなく鮮明に撮る方法を説明します。

1 「押ー開」ボタンを押して、液晶画面を開く

2 モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

ビデオ メモリー

3 ロック解除ボタンを押したまま、「Ⓜ」の位置に合わせる

4 「メニュー／決定」ダイヤルを押して、メニューを表示する

5 ダイヤルを回して「」を選び、押して決定する

プログラム AE メニューが表示されます。

6 ダイヤルを回して「スポーツ」を選び、押して決定する

7 ダイヤルを押して撮影画面に戻る

画面の左側に「 」と表示されます。

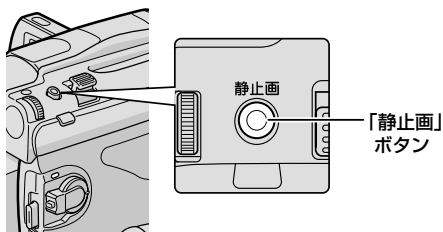
スポーツモードの設定を解除するには

手順６で「切」を選んでください。
電源ダイヤルを「撮影」の位置に合わせると、スポーツモードは一時的に解除されます。

動きの速いものを撮影する［スポーツモード］

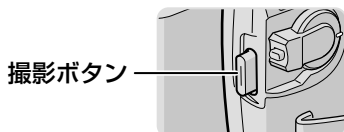
撮影する

静止画を撮る

1 「静止画」ボタンを押して、静止画を撮影する

ビデオを撮る

1 モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

2 撮影ボタンを押して、ビデオを撮影する

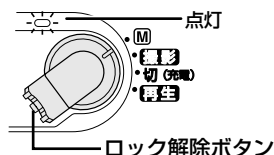
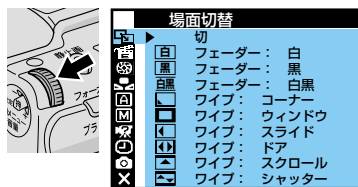
- ビデオの場合は、再生時に一時停止したときのブレが抑えられます。

- スポーツモードを使うときは、高速スピードで撮影するために、通常より画面が暗くなります。明るい場所で撮影してください。

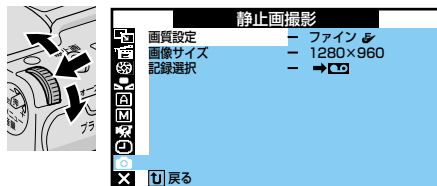
静止画のサイズや画質を変更する

静止画のサイズには、640 × 480 ドット、1024 × 768 ドット、1280 × 960 ドット、1600 × 1200 ドットの４種類があります。また、４種類のそれぞれに高画質のファインと、たくさんの枚数が撮影できるスタンダードがあります。
お買い上げ時は 1280 × 960 ドットのファインに設定されていますので、静止画の用途や目的に合わせて設定を変更してください。

静止画のサイズを変更する

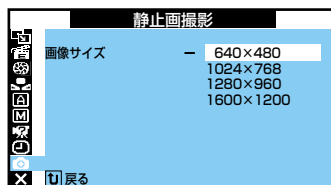
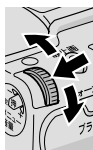
1 モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

2 「Ⓜ」の位置に合わせる

3 「メニュー／決定」ダイヤルを押してメニューを表示する

4 「📷」を選び、ダイヤルを押す

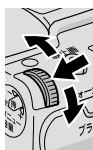
静止画撮影設定メニューが表示されます。

5 「画像サイズ」を選び、ダイヤルを押す

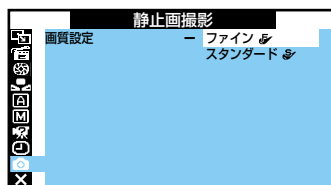
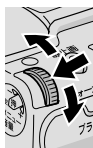
「640 × 480」「1024 × 768」
「1280 × 960」「1600 × 1200」
が表示されます。

次へ続く

6 使用する静止画のサイズを選び、ダイヤルを押す

7 ダイヤルを２回押して撮影画面に戻る

静止画の画質を変更する

1 「静止画のサイズを変更する」の手順５で「画質設定」を選び、ダイヤルを押す

「ファイン」「スタンダード」が表示されます。

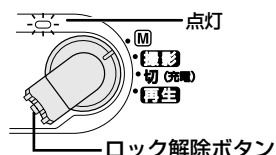
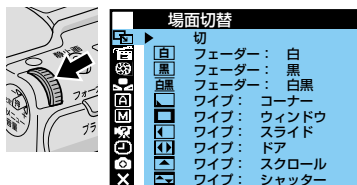
2 使用する画質を選び、ダイヤルを押す

3 ダイヤルを２回押して撮影画面に戻る

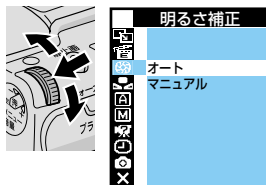
- 撮影画面では、ファインモードは F、スタンダードモードは S と表示されます（☞ P.178）。
- 1600 × 1200 ドットでは、1280 × 960 ドットで撮影した画像をデータ変換して保存しています。

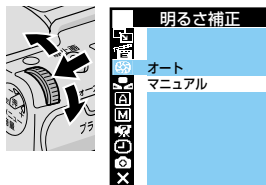
撮影方法を手動で設定する［マニュアル撮影］

画像の明るさを調節する［明るさ補正］

太陽が背景にあって被写体が暗くなったり、スポットライトなどがあたって被写体が明るくなりすぎるときは、「逆光補正」ボタン（☞P.77）やプログラムAEメニューの「スポットライト」機能（☞P.100）を使用すると簡単に明るさを調節できます。
しかし、周囲の明るさによっては、「逆光補正」ボタンや「スポットライト」機能では最適な結果を得られないことがあります。より詳細に調節したいときは、次の手順で設定してください。

1 「M」の位置に合わせる

2 「メニュー／決定」ダイヤルを押して、メニューを表示する

3 「 」を選び、ダイヤルを押す

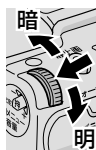
明るさ補正メニューが表示されます。

4 「マニュアル」を選び、ダイヤルを押す

次へ続く

撮影方法を手動で設定する［マニュアル撮影］

5 数値を変更し、ダイヤルを押す

明るくする　→「+」側(＋６まで)
暗くする　　→「−」側(−６まで)

撮影画面に戻ります。

- 「＋３」は、「逆光補正」ボタンと同じ効果です。
- 「−３」は、プログラム AE メニューの「スポットライト」機能と同じ効果です。

一定の明るさで撮影するには

動きのある被写体を撮影するときやズーム操作を行うときには、画面の明るさを一定に保ちたいことがあります。このようなときは次の操作をしてください。

1 上の手順５で数値を変更したあと、「メニュー／決定」ダイヤルを２秒以上押す

画面に L と表示されます。

- ここで数値を変更することもできます。数値を変更した場合は、再び「メニュー／決定」ダイヤルを２秒以上押します。

2 もう一度ダイヤルを押す

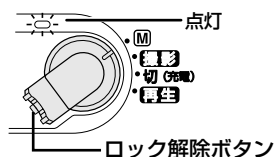
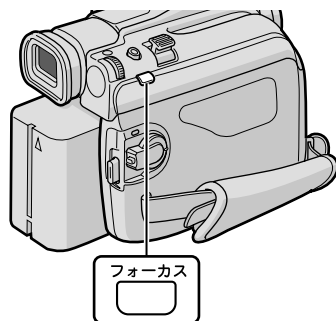
表示が L に変わり、明るさが固定されます。

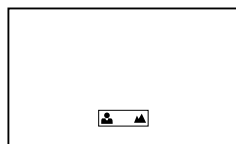
明るさ補正を自動調節に戻すには

前ページの手順 4 で「オート」を選びます。
電源ダイヤルを「撮影」の位置に合わせると、一時的に自動調節に戻ります。

ピントを手動で合わせる［マニュアルフォーカス］

このビデオカメラは、約５センチ（☞P.57）から無限遠まで自動的にピントを合わせるオートフォーカス機能を備えています。ただし、画面中央の被写体にピントを合わせるため、被写体が画面端にいるときは間違った距離にピントが合ってしまうことがあります。また、被写体や周囲の条件によっては、オートフォーカス機能が正しく動作しないこともあります。
このようなときは、ピントを手動で合わせてください。

1 「Ⓜ」の位置に合わせる

2 「フォーカス」ボタンを押す

3 「メニュー／決定」ダイヤルを回して、ピントを合わせる

- ピントを合わせたい被写体が
  遠くにある　→＋側（▲）
  近くにある　→－側（👤）

4 ダイヤルを押す

ピントが固定されます。

撮影方法を手動で設定する［マニュアル撮影］

オートフォーカスに戻すには

「フォーカス」ボタンを 2 回押します。
電源ダイヤルを「撮影」の位置に合わせると、一時的に自動調節（オートフォーカス）に戻ります。

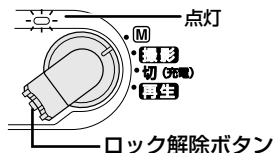
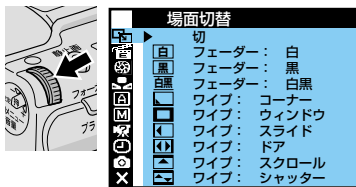
- ズーム操作をするときは、ピントを合わせる前に望遠（T）側に設定しておき、ピントを合わせてから広角（W）側に調節するとピントがずれません。
- **こんなときに手動でピントを合わせます**
  - 平らな壁や青空など、コントラスト（明暗差）のほとんどない被写体を撮るとき
  - 金網などの障害物が被写体との間にあるとき
  - 細かい模様や同じ模様が規則正しく並んでいる被写体を撮るとき
  - 蛍光灯などのちらつきのある光源の下で撮影するとき

画像の色合いを調節する[白バランス]

ビデオカメラは、通常、色のバランスを自動的に調節し、最も自然な色合いを再現します。ただし、天候や撮影用ライトなど、光源の状態によっては自然な色合いを再現できないことがあります。
液晶画面やファインダーで色合いが不自然なときは、白バランスを変更して撮影してください。白バランスの設定は、５種類のモードから選択できます。

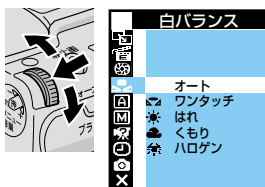
オート ･････････････自動的に色のバランスを調節します。
ワンタッチ ･･････被写体の色をより正しく撮影したいときに選択します（☞P.95）。
はれ ･････････････晴れた日に屋外で撮影するときに選択します。
くもり ･･･････････曇りの日や日陰で撮影するときに選択します。
ハロゲン ･･････撮影用ハロゲンライトなどで照明して撮影するときに選択します。

上記の設定は、電源ダイヤルを「M」に設定したときのみ有効です。「撮影」に設定しているときは「オート」と同じ動作をします。

1 「M」の位置に合わせる

2 「メニュー／決定」ダイヤルを押してメニューを表示する

3 「」を選び、ダイヤルを押す

白バランスメニューが表示されます。

次へ続く

撮影・上級テクニック編

4 モードを選び、ダイヤルを押す

- 「ワンタッチ」を選択するときは、次ページの「白バランスを正確に設定する」を参照してください。

5 ダイヤルを押して撮影画面に戻る

白バランスを自動調節に戻すには

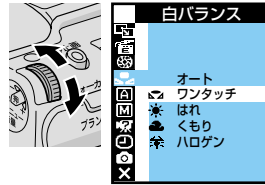
手順４で「オート」を選びます。
電源ダイヤルを「撮影」の位置に合わせると、一時的に自動調節（オート）に戻ります。

白バランスを正確に設定する

白バランスを調節すると、被写体をより正しい色で撮影できます。

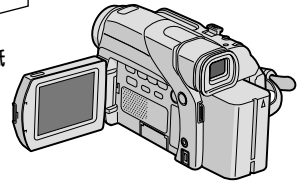
1 「画像の色合いを調節する」(☞P.93)の手順１～３を行う

白バランスメニューが表示されます。

2 「メニュー／決定」ダイヤルで「ワンタッチ」を選ぶ

3 ビデオカメラと被写体の間に白い紙を置き、画面全体に表示する

- 裏の透けない紙（コピー用紙など）をお使いください。

4 ダイヤルを押しつづけ、「」の点滅が止まったら指を離す

白バランスが記憶されました。紙を外してください。

5 ダイヤルを２回押して、撮影画面に戻る

- 被写体に当たっている光源によって画像の色合いも変わります。被写体に当たっている光源が変わったときは、再度白バランスを調節してください。
- 設定した白バランスは、再度白バランスを設定するまで有効です。

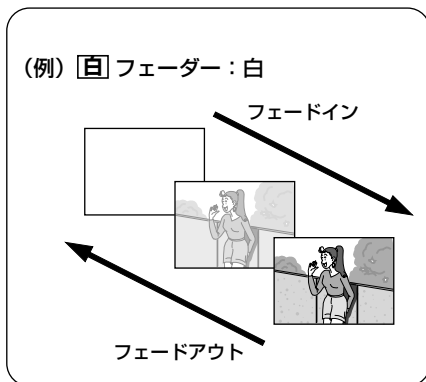
撮影・上級テクニック編

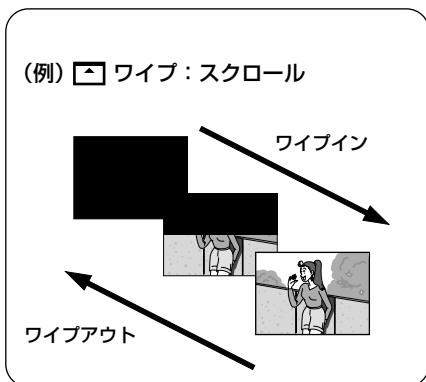
場面の切り替え部に効果を入れる

場面切替の種類［フェーダー］［ワイプ］

ビデオの場面と場面のつなぎ目に、効果を入れて変化をつける方法を説明します。まず、映像がどのようにつながるのかをイラストを使って説明します。

1）フェーダー効果

撮り始めは画面が徐々に浮かび上がり（フェードイン）、撮り終わりは徐々に消えていきます（フェードアウト）。

2）ワイプ効果

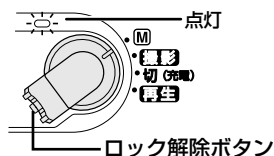
撮り始めは画面がある方向に向かってすべり込むように映し出され（ワイプイン）、撮り終わりは逆の方向に向かって消えていきます（ワイプアウト）。

場面切替には、次の９種類の効果があります。

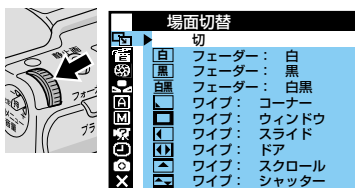
アイコン	機能名称	効　果
――	切	「場面切替」を使用しないときに選択します。
白	フェーダー：白	白い画面でフェードイン、フェードアウトします。
黒	フェーダー：黒	黒い画面でフェードイン、フェードアウトします。
白黒	フェーダー：白黒	白黒画面からカラー画面にフェードインし、カラー画面から白黒画面にフェードアウトします。
	ワイプ：コーナー	黒い画面の右上から左下に向かって映像が徐々にワイプインし、左下から右上に向かってワイプアウトします。
	ワイプ：ウィンドウ	黒い画面の中央から外に向かって映像が徐々にワイプインし、画面の外から中央に向かってワイプアウトします。
	ワイプ：スライド	黒い画面の右から左に向かって映像が徐々にワイプインし、左から右に向かってワイプアウトします。
	ワイプ：ドア	黒い画面の中央から左右にドアを開けるように映像が徐々にワイプインし、閉めるようにワイプアウトします。
	ワイプ：スクロール	黒い画面の下から上に向かって映像が徐々にワイプインし、上から下に向かってワイプアウトします。
	ワイプ：シャッター	黒い画面の中央から上下に向かって映像が徐々にワイプインし、上下から中央に向かってワイプアウトします。

場面の切り替え部に効果を入れる

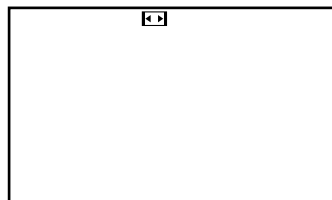
場面切替を設定する

場面切替の効果を設定する方法を説明します。

1 「Ⓜ」の位置に合わせる

2 「メニュー／決定」ダイヤルを押してメニューを表示し、もう一度押して決定する

場面切替メニューが表示されます。

3 使用する効果を選び、ダイヤルを押す

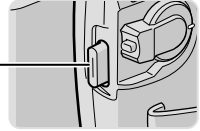
4 ダイヤルを押して撮影画面に戻る

選択した効果のアイコンが画面の上部に表示されます。

撮影する

1 **撮影ボタンを押して、撮影を開始する**

設定した場面切替の効果が挿入されます。

- 違う場面切替の効果を使いたいときは、前ページの手順２から設定をし直してください。

撮影ボタン

場面切替を解除するには

前ページの手順３で「切」を選んでください。
電源ダイヤルを「撮影」の位置に合わせると、一時的に場面切替が解除されます。

- **アイコンが青く点滅しているとき、またはアイコンが表示されないときは、その機能は動作しません（☞P.155）。**
- **場面切替設定とプログラム AE 設定（☞P.100）を一緒に使うと**
  さらに効果的なビデオ撮影をお楽しみいただけます。ただし、プログラム AE 設定と一緒に使えない場面切替があります。
  場面切替設定アイコンが青く点滅して、使えない機能であることをお知らせします。

映像に変化をつける[プログラムAE]

プログラムAEの種類

次にあげる10種類のプログラムAEを使って、映像に変化をつけて撮影できます。

アイコン	機能名称	効　果
——	切	「プログラムAE」を使用しないときに選択します。
1/60	シャッター1/60	シャッタースピードを1/60に固定します。テレビ画面などを撮影するときに出る黒い帯は細くなります。
1/100	シャッター1/100	シャッタースピードを1/100に固定します。蛍光灯や水銀灯の光で撮影するときに出るちらつきは少なくなります。(50Hz地域のみ)
	スポーツ	被写体の明るさに合わせてシャッタースピードを1/250から1/4000まで自動的に調節して撮影します。スポーツをしている人物やモータースポーツなど、動きの速い被写体を1コマ1コマ鮮明に撮ることができます。
	スノー	晴れた日の雪原など周囲が明るい場所で撮影するときに、被写体を明るく補正することができます。効果としては「逆光補正」(☞P.77)と同じですが、こちらの方がやや弱い効果になるので「逆光補正」では効果が強すぎる場合に便利です。
	スポットライト	スポットライトなどがあたって被写体(人物)が明るく写りすぎるときに、被写体を暗く補正することができます。
	夜景	夜景などを撮るとき、映像がザラザラせず、自然な感じで記録することができます。「白バランス」は ☀ になりますが、お好みの設定に変えることができます(☞P.93)。ピントは、10m〜無限遠の間では自動的に合います。10m以内の間では手動で合わせてください。
	セピア	古い写真のようなセピア色で映像を記録します。「ワイド効果」の「ワイド」や「シネマ」(☞P.140)と合わせて使うと、古い白黒映画のような雰囲気をお楽しみいただけます。
B/W	白黒	映像を白黒で記録します。「ワイド効果」の「ワイド」や「シネマ」と合わせて使うと、白黒映画のような雰囲気をお楽しみいただけます。

アイコン	機能名称	効　果
	映画効果	早いコマ落とし効果をつけて映像を記録します。 （ビデオモードのみ）
	ストロボ	コマ落としの効果で、連続写真のように記録します。 （ビデオモードのみ）

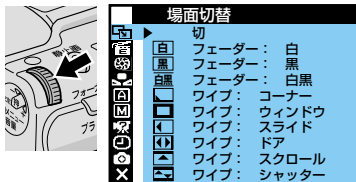
プログラム AE を設定する

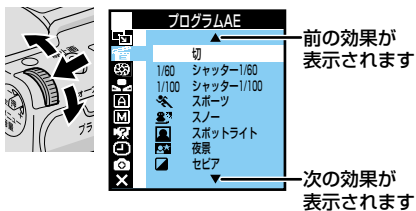
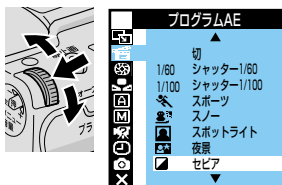
プログラム AE を設定する方法を説明します。

1 「Ⓜ」の位置に合わせる

2 必要に応じてモード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

- 「メモリー」では使えない効果があります。

3 「メニュー／決定」ダイヤルを押してメニューを表示する

4 「 」を選び、ダイヤルを押す

プログラム AE メニューが表示されます。

5 使用するプログラム AE を選び、ダイヤルを押す

6 ダイヤルを押して撮影画面に戻る

画面にプログラム AE の効果が加えられ、画面の左側にアイコンが表示されます。

プログラム AE を解除するには

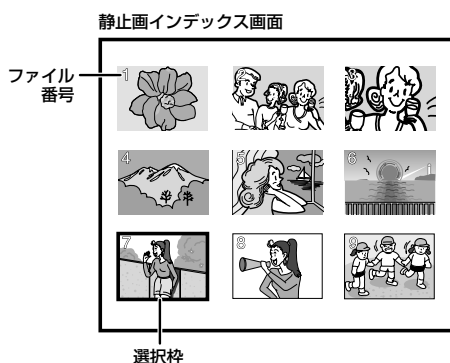
前ページの手順５で「切」を選んでください。
電源ダイヤルを「撮影」の位置に合わせると、一時的にプログラム AE が解除されます。

- **アイコンが青く点滅しているとき、またはアイコンが表示されないときは、その機能は使用できません（☞ P.155）。**
- **プログラム AE 設定と場面切替設定（☞ P.96）を一緒に使うと**
  さらに効果的なビデオ撮影をお楽しみいただけます。ただし、場面切替設定と一緒に使えないプログラム AE があります。プログラム AE 設定アイコンが青く点滅して、使えない機能であることをお知らせします。
- **シャッターモードを使うときは**
  シャッタースピードが速くなればなるほど画面が暗くなります（1/60、1/100 の順で暗くなります）。できるだけ明るい場所で撮影してください。
- **スポーツモードを使うときは**
  高速スピードで撮影するために、通常より画面が暗くなります。明るい場所で撮影してください。

メモリーカードの内容を一覧表示する

ここでは、メモリーカード内の静止画ファイルを一覧表示したり、静止画ファイルの情報を表示したりする方法を説明します。

インデックス画面

メモリーカード内の静止画ファイルを一覧表示します。
インデックス画面は再生したい静止画を選ぶときに使用します。
表示方法と操作については「インデックス画面の使いかた」（☞P.106）をご覧ください。

ファイル番号 ： メモリーカードに記録した順に番号が表示されます。
選択枠 ： 「メニュー／決定」ダイヤルを回すと枠線が移動します。ファイルを選ぶときには、この枠線を目的の静止画に移動します。

ファイル情報

静止画のファイル情報（日付や画像サイズなど）を確認することができます。
表示方法と操作方法については、次の「インデックス画面の使いかた」をご覧ください。

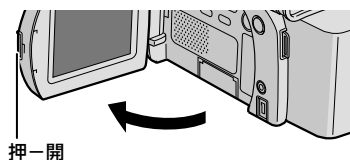
静止画のファイル情報

フォルダ　：メモリーカード内のフォルダ名が表示されます。
ファイル　：ファイル名が表示されます
日付　：撮影した日付、またはファイルを作成した日付が表示されます。
サイズ　：画像サイズが表示されます。
画質　：記録した静止画の画質が表示されます。
画質モードには、画質の良い順にファインとスタンダードの2種類があります（☞P.87、139）。
プロテクト　：ファイルにプロテクトをかける（間違って削除しないようにする）と、「ON」と表示されます（☞P.131）。

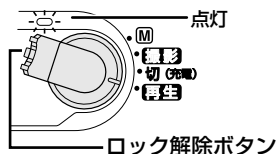
- ほかのビデオカメラで撮影した静止画の場合、画質が「－－－」と表示されることがあります。

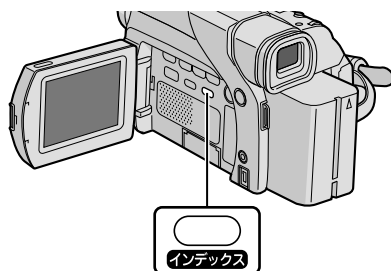
メモリーカードの内容を一覧表示する

インデックス画面の使いかた

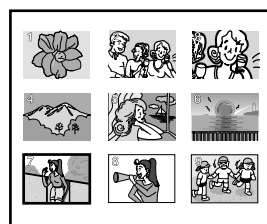
1 液晶画面を開く

2 モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

3 「再生」の位置に合わせる

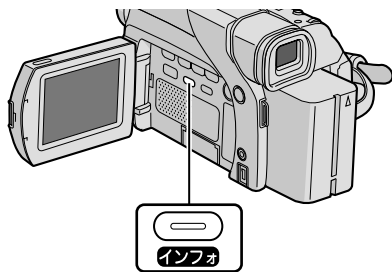
液晶画面に静止画が表示されます。

4 「インデックス」ボタンを押す

インデックス画面が表示されます。

5 ダイヤルで枠線を再生したい静止画に合わせ、ダイヤルを押す

選んだ静止画が画面全体に表示されます。

- 「◀◀」または「▶▶」ボタンを押すと、ページ単位で表示を切り替えられます。

6 ファイル情報を確認するには、「インフォ」ボタンを押す

ファイル情報が表示されます。

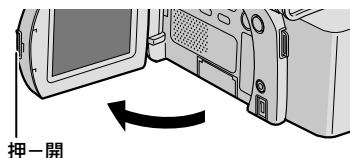
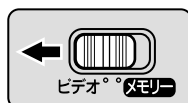
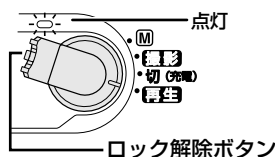
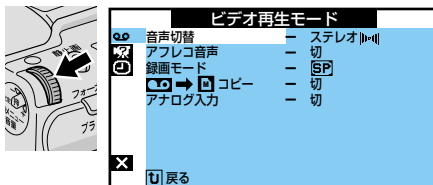
- ファイルの表示画面に戻るには、もう一度、「インフォ」ボタンを押します。
- インデックス画面でファイルを選んでいるときに「インフォ」ボタンを押すことでも、ファイル情報を表示できます。

ファイルを削除するには

削除するファイルを手順５で選び、「メニュー／決定」ダイヤルを２回押します。
以後の操作については「メモリカードの静止画を削除する」（☞ P.73）をご覧ください。

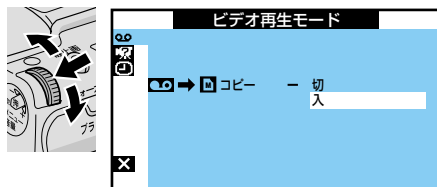
映像をコピーする

テープからメモリーカードに映像をコピーする

ビデオの映像から好みの場面を選び、メモリーカードに静止画としてコピーできます。

1 液晶画面を開く

2 モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる

3 「再生」の位置に合わせる

4 「メニュー／決定」ダイヤルを押してメニューを表示し、もう一度押して決定する

5 「→M コピー」を選び、ダイヤルを押す

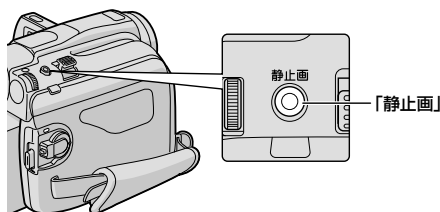
「切」と「入」が表示されます。

6 「入」を選び、ダイヤルを押す

7 ダイヤルを２回押して再生画面に戻る

8 ビデオを再生し、コピーしたい場面で一時停止する

- ビデオを操作するには（☞P.64）
- 再生中もコピーできます。

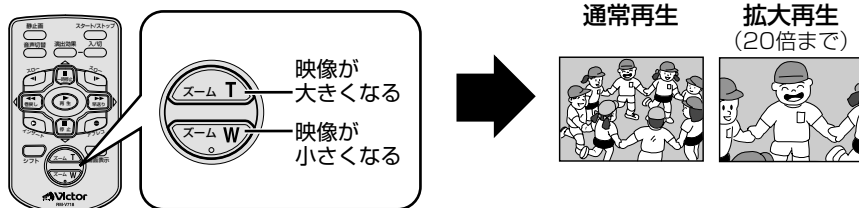
9 「静止画」ボタンを押す

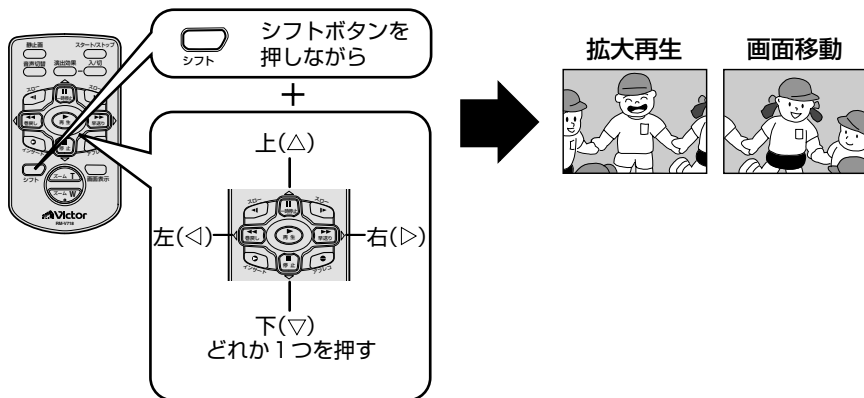
選択した場面がメモリーカードにコピーされて静止画になります。

- コピーした画像のサイズは640 × 480 ドットになります。
- メモリーカードには画面に表示されている画像がコピーされます。
- コピーするときに、映像をセピア色や白黒に変化させることもできます。手順９の前にリモコンを使って再生効果を加えてください（☞ P.112）。

静止画やビデオの映像を加工する

静止画の一部を拡大する [静止画再生ズーム]

静止画の再生中に画面を拡大するには、付属品のリモコンを使用します。

1 拡大するには、再生中にリモコンの「T」ボタンを押す

- 元に戻す　→「W」ボタン

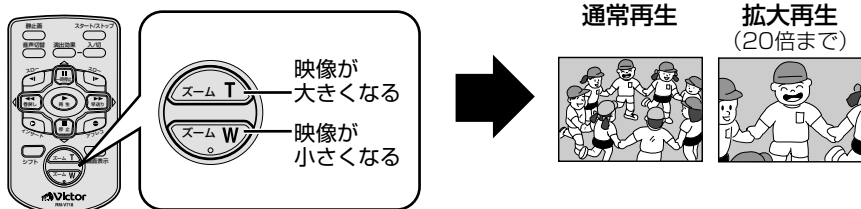
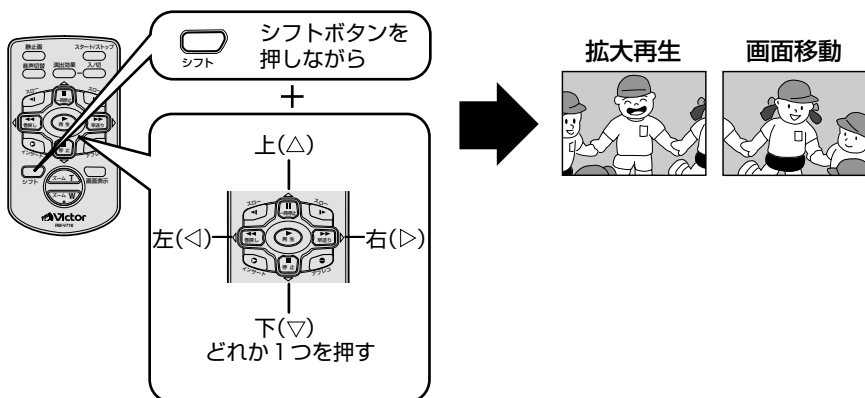
2 拡大した状態で画面を移動するには、シフトボタンを押したまま上下左右ボタンを押す

- 拡大をやめたいときは通常の再生画面の大きさに戻るまで「W」を押します。

- 拡大すると、映像は少し粗くなります。

ビデオの映像の一部を拡大する［ビデオ再生ズーム］

ビデオの再生中に画面を拡大するには、付属品のリモコンを使用します。

1 拡大するには、再生中にリモコンの「T」ボタンを押す

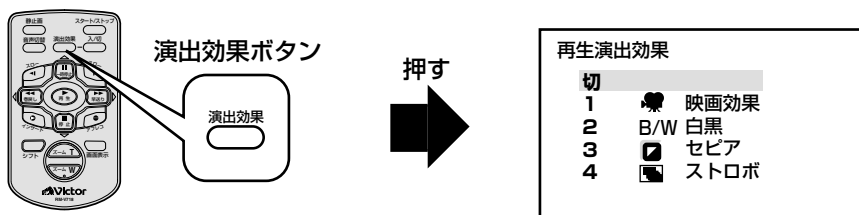
- 元に戻す　→「W」ボタン
- 一時停止中やスロー再生中も拡大できます。

2 拡大した状態で画面を移動するには、シフトボタンを押したまま上下左右ボタンを押す

- 拡大をやめたいときは通常の再生画面の大きさに戻るまで「W」を押します。または、リモコンの「停止」ボタンを押したあとに「再生」ボタンを押します。

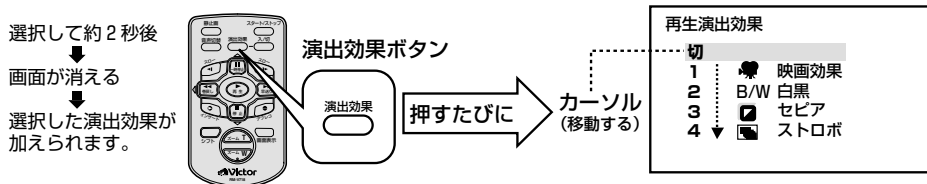
- 拡大すると、映像は少し粗くなります。

再生時の映像に変化をつける [再生演出効果]

再生中のビデオ映像にプログラムAEの効果を加えるには、付属品のリモコンを使用します。
再生時にプログラムAEの効果を加えて楽しむことができます。
また、画像をセピア色や白黒に変えてメモリーカードにコピーできます（☞P.108）。

1 再生中にリモコンの「演出効果」ボタンを押す

再生効果メニューが表示されます。

2 「演出効果」ボタンを押して効果を選ぶ

- ボタンを押すたびにカーソルが移動します。目的の効果に合わせてください。

選んで約2秒後にメニューが消えます。再生中の映像には効果が加わっています。

- リモコンの演出効果「入／切」ボタンで、選んだ再生効果をいつでも入れたり切ったりできます。

日時の表示を切り替える

ビデオを撮影すると、撮影した日時がテープに記録されます。ビデオを再生するときに、撮影した日時を表示させせることができます。

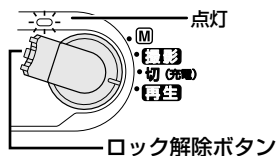
日時表示の種類

次の３種類から選択できます。お買い上げ時は、「撮影日時：オート」、「再生日時：切」に設定されています。

	撮影	再生
オート	電源オンから５秒間表示	●再生開始から５秒間表示 ●日付が変わると５秒間表示
入	常に表示	
切	な し	

ここでは、撮影した日時を再生時に常に表示するように設定します。

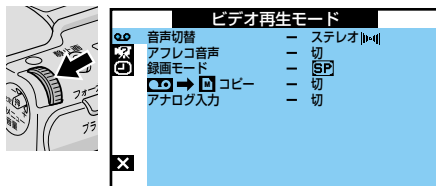
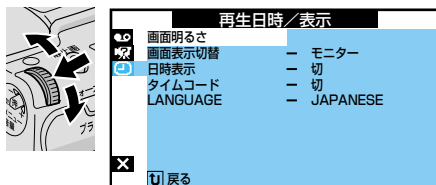
1 「再生」の位置に合わせる

- 「M」の位置に合わせても設定できます。
- 「再生」の位置に合わせたときの内容と別々に設定されます。

2 「メニュー／決定」ダイヤルを押して、メニューを表示する

3 「⌚」を選び、ダイヤルを押す

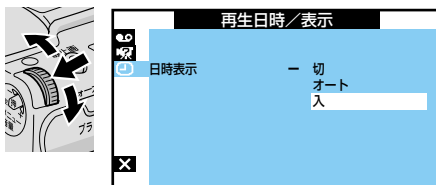
再生日時／表示設定メニューが表示されます。

次へ続く

ビデオを編集してみよう編

日時の表示を切り替える

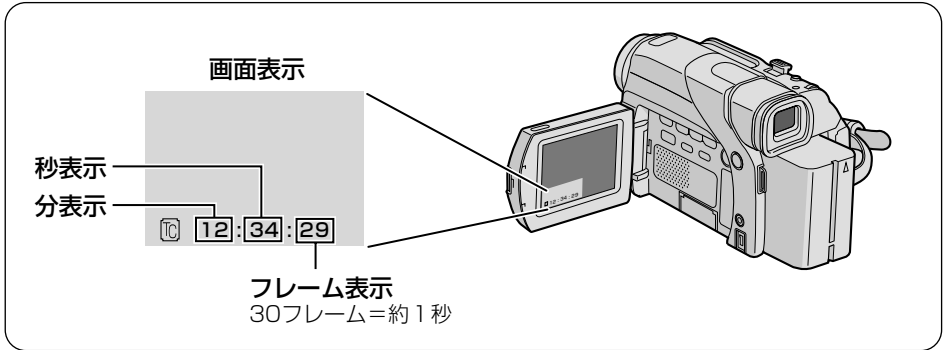
4 「日時表示」を選び、ダイヤルを押す

「切」「オート」「入」が表示されます。

5 「入」を選び、ダイヤルを押す

6 ダイヤルを２回押して再生画面に戻る

タイムコード表示を設定する

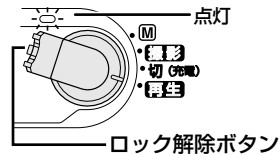
タイムコードとは

撮影中、1コマ1コマに「タイムコード」と呼ばれる数字を記録します。ビデオの撮影、再生、編集の際にタイムコードを表示すると、映像の位置を確かめる目安になります。

- 早送り、巻き戻し時のタイムコード表示は、ビデオカメラがテープの位置を確認するため、タイムコードが数秒間前後することがあります。
- 撮影中は分と秒のみ表示されます。

タイムコード表示を切り替える

ビデオ再生時にタイムコードを表示する方法を説明します。

1 「再生」の位置に合わせる

- 「M」の位置に合わせても設定できます。
- 「再生」の位置に合わせたときの内容と別々に設定されます。

2 「メニュー／決定」ダイヤルを押して、メニューを表示する

次へ続く

ビデオを編集してみよう編

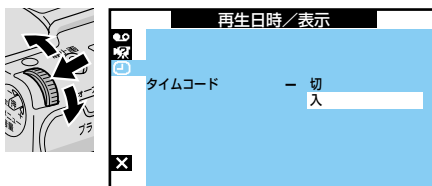
タイムコード表示を設定する

3 「◙」を選び、ダイヤルを押す

再生日時／表示設定メニューが表示されます。

4 「タイムコード」を選び、ダイヤルを押す

「切」と「入」が表示されます。

5 「入」を選び、ダイヤルを押す

6 ダイヤルを２回押して再生画面に戻る

画面左下にタイムコードが表示されます。

タイムコードと無記録部分

「無記録部分」とは、テープに何も録画されていない部分のことです。ここから撮影を開始すると、タイムコードは必ず「00:00:00」から記録されます。

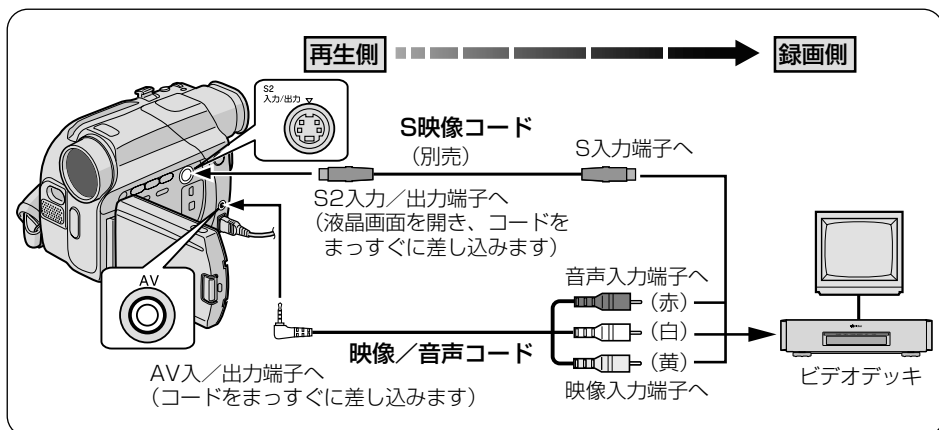
次の状態のときは、無記録部分から撮影しないように、前に撮影した映像の終わりを確かめてから撮影してください。

- 途中まで撮影したテープを使うとき
- 再生したことのあるテープを使うとき
- カセットカバーを開閉したとき
- 撮影の途中で電源やバッテリーが切れたとき

ビデオをダビングする

ビデオデッキへダビングする

ビデオカメラで撮影したテープから、ビデオデッキのテープへダビングできます。S入力端子付きのビデオデッキに接続すると、より高画質の映像をダビングできます。

- ご使用になるビデオデッキの取扱説明書もご覧ください。

1 ビデオカメラの電源を切り、AC アダプターを接続する

- AC アダプターの取り付け（☞P.70）

2 映像／音声コードを、ビデオデッキの入力端子とビデオカメラに接続する

- ビデオデッキにS入力端子があるときは、別売のS映像コードも接続します。

3 ビデオカメラでビデオを再生する

- ビデオを再生するには（☞P.64）

4 ダビングを開始したいところで、ビデオデッキの録画ボタンを押す

録画を開始します。

5 ダビングを終了したいところで、ビデオデッキの停止ボタンを押す

録画を終了します。

ビデオをダビングする

画面の文字や記号を隠すには

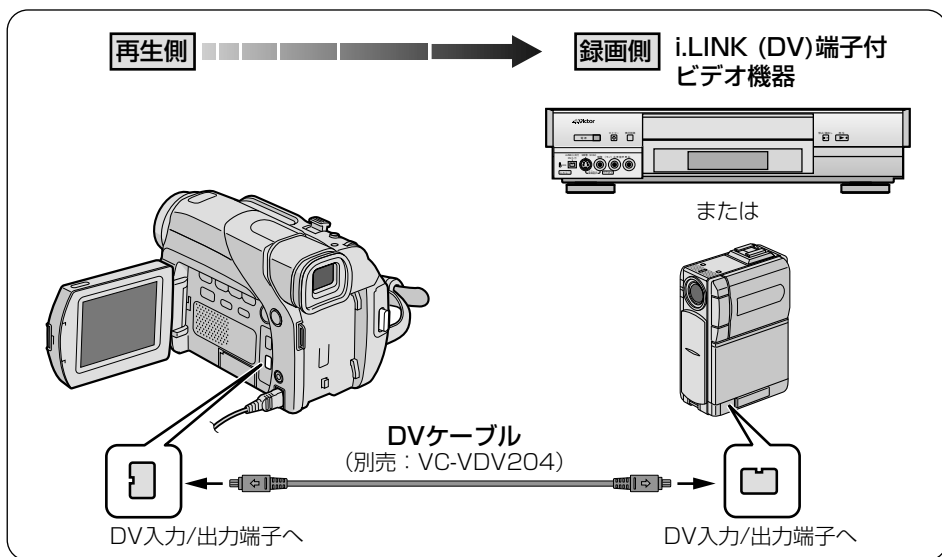
再生日時／表示設定メニューで、次のように設定します（☞ P.135）。

- 画面表示切替 →モニター、または切
- 日時表示　　→切
- タイムコード →切

- ACアダプターの代わりにバッテリーを使用すると、ダビング中にバッテリーが切れて失敗することがあります。ACアダプターを使って操作することをお勧めします。
- カットしたい映像があるときはビデオデッキの一時停止ボタンを押してダビングを一時停止させ、ダビングしたい場面がテレビや液晶画面に現われたら録画を再開してください。

デジタルでダビングする

DV 端子付きビデオ機器をお持ちの場合、別売の DV ケーブルを使ってダビングできます。デジタル信号でダビングするため、画質と音質はほとんど劣化しません。

- ご使用になる DV 端子付きビデオ機器の取扱説明書もご覧ください。

1 ビデオカメラの電源を切り、AC アダプターを接続する

- AC アダプターの取り付け（☞P.70）

2 DV ケーブルを、ビデオカメラの DV 入力／出力端子と DV 端子付きビデオ機器の DV 入力端子に接続する

3 ビデオカメラでビデオを再生する

- ビデオを再生するには（☞P.64）

4 ダビングを開始したいところで、DV 端子付きビデオ機器の録画ボタンを押す

録画を開始します。

次へ続く

ビデオを編集してみよう編

ビデオをダビングする

5 **ダビングを終了したいところで、DV 端子付きビデオ機器の停止ボタンを押す**

録画を終了します。

本機を録画側として使うには

DV入力画面表示

1 電源ダイヤルを「再生」の位置に合わせる。

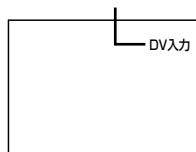
2 録画モードを選ぶ（☞P.137）。

3 再生側の DV 機器を「再生」モードにする。

4 撮影ボタンを押すと、画面上に「DV 入力」表示が出て録画停止状態になります。

5 録画停止状態で撮影ボタンを押すと、録画を開始して、 表示が回転します。

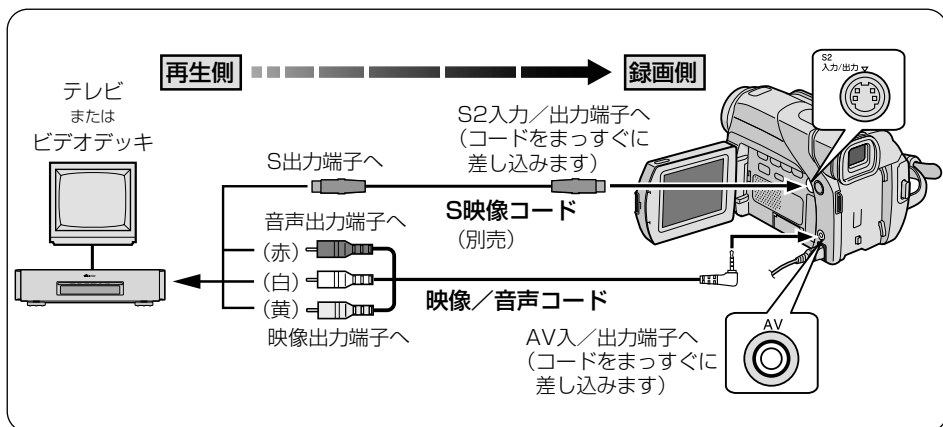
6 再び撮影ボタンを押すと、録画停止状態になり、 表示の回転が停止します。

7 通常の再生モードに戻るには「■」ボタンを押します。

- 再生側が映像の乱れた部分や無記録部分を再生すると、異常な映像が記録されたり、ダビングが停止することがあります。
- 本機を録画側として使う場合、液晶画面に再生側の映像が表示されないときは、ビデオ再生モード設定メニューの「アナログ入力」を「切」に設定してください。(☞P.176)

- AC アダプターの代わりにバッテリーを使用すると、ダビング中にバッテリーが切れて失敗することがあります。AC アダプターを使って操作することをお勧めします。
- 再生側が映像の乱れた部分や無記録部分を再生すると、異常な映像が記録されたり、ダビングが停止することがあります。
- 再生時に「場面切替」「再生効果」「再生ズーム」「記念写真」「タイムコード」を設定していても DV 出力端子からは、テープの通常再生映像しか出力しません。
  これらの演出を録画したいときは、映像／音声コードを使ってダビングしてください(☞P.117)。

ビデオ機器やテレビからダビングする

ビデオデッキなどのDV端子を持たないビデオ機器やテレビからも、ビデオカメラへダビングできます。

- ご使用になるビデオ機器の取扱説明書もご覧ください。

1 ビデオカメラの電源を切り、ACアダプターを接続する

- ACアダプターの取り付け（☞P.70）

2 映像／音声コードを、ビデオ機器やテレビの出力端子とビデオカメラに接続する

- ビデオ機器やテレビにS出力端子があるときは、別売のS映像コードも接続します。

3 電源ダイヤルを「再生」の位置に合わせ、ビデオ再生モード設定メニューの「アナログ入力」を「入」に設定する（☞ P.176）

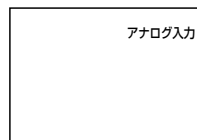
4 ビデオ機器の電源を入れる

- 画面に映像を出します。

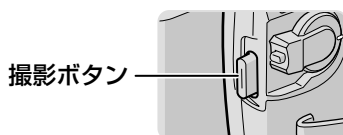
次へ続く

ビデオをダビングする

5 ビデオカメラの撮影ボタンを押す

画面に「アナログ入力」と表示され、
録画停止状態になります。

6 ビデオデッキでビデオを再生する

7 ダビングを開始したいところで、ビデオカメラの撮影ボタンを押す

録画を開始して、⯐ 表示が回転します。

8 ダビングを終了したいところで、もう一度撮影ボタンを押す

録画を終了して、⯐ 表示の回転が停止します。

9 通常の再生モードに戻るには「■」ボタンを押す

ダビングしたテープを再生するには

電源ダイヤルを「再生」の位置に合わせ、再生ボタンを押します。

- ACアダプターの代わりにバッテリーを使用すると、ダビング中にバッテリーが切れて失敗することがあります。ACアダプターを使って操作することをお勧めします。
- ダビングしたビデオテープをテレビで見るには（☞P.71）。

- アナログ入力時、ご使用のビデオ機器や再生するテープにより、映像が乱れることがあります。
- 「アナログ入力」を「入」に設定したまま再生すると、ご使用のビデオ機器や再生するテープにより映像が乱れることがあります。

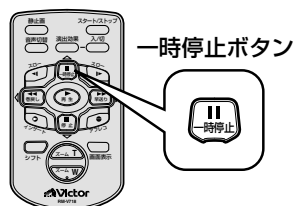
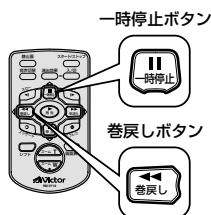
ビデオに映像を追加する[インサート編集]

録画モードSPで録画済のテープに、あとでタイトルなど別の場面を挿入できます。インサート編集を行う前に、タイトルを書いた紙などを用意してください。
インサート編集には、付属品のリモコンを使用します（☞P.32）。

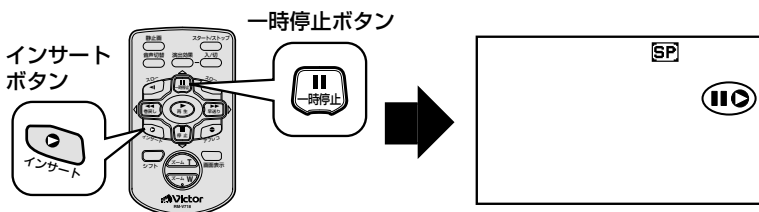
1 ビデオカメラでビデオを再生する

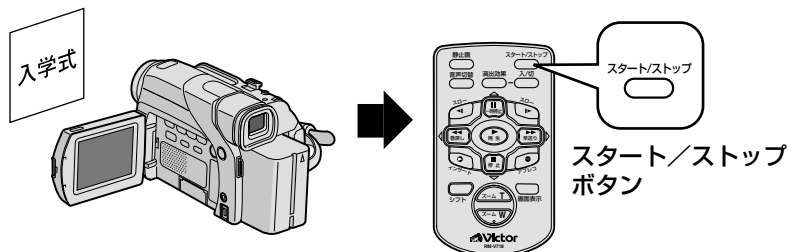
- ビデオを再生するには（☞P.64）

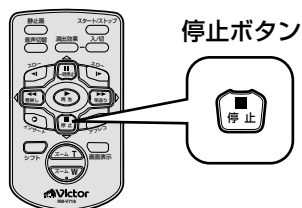
2 インサート編集を終える場面で一時停止する

- 終える場面のタイムコードを確認してください。
- タイムコード表示が出ていないときは（☞P.115）

3 「巻き戻し」ボタンを押してインサート編集を開始する場面まで巻き戻し、「一時停止」ボタンを押す

4 「一時停止」ボタンを押したまま、「インサート」ボタンを押す

液晶画面に「❚❚▶」アイコンが表示されます。

次へ続く

ビデオに映像を追加する[インサート編集]

5 インサートするタイトルなどをカメラに映るようにして「スタート／ストップ」ボタン（またはビデオカメラの撮影ボタン）を押す

6 手順２で確認したタイムコードの位置で、「スタート／ストップ」ボタンを押してインサートを終了する

7 「停止」ボタンを押して、インサート編集を終了する

- **挿入する画面にプログラム AE の効果を加えたいときは**
  インサート編集を行う前に、プログラム AE を設定してください（☞P.100）。
- **インサート編集したあとの映像と日時は**
  新しい映像と日時が上書きされます。

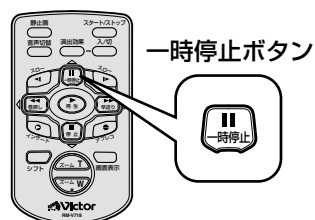
- **画面に「インサート録画できません」と表示されたときは（☞P.181）**
  LP モードで撮影したテープ、誤消去防止用ツマミが「SAVE」側になっているテープ、およびテープの無記録部分ではインサート編集できません。

ビデオに音声を追加する［アフレコ編集］

撮影したビデオには、あとでナレーションを追加したり、吹き替え音声を録音したりできます。アフレコ編集には、付属品のリモコンを使用します（☞P.32）。

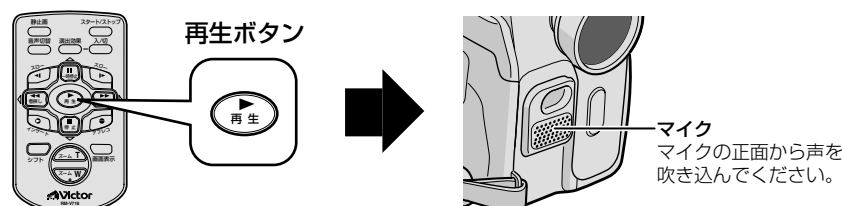
1 ビデオカメラでビデオを再生する

- ビデオを再生するには（☞P.64）

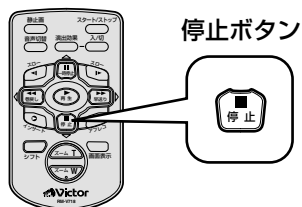
2 アフレコ編集をしたいところで一時停止する

3 「一時停止」ボタンを押したまま、「アフレコ」ボタンを押す

液晶画面に「II ⊖ 」アイコンが表示されます。

4 「再生」ボタンを押し、ビデオカメラのマイクに向かって音声を吹き込む

アフレコ編集が始まり、音声が記録されます。

次へ続く

5 「停止」ボタンを押して、アフレコ編集を終了する

- 再生時にアフレコした音声を聞くには、「音声切替」の設定を変更してください（☞P.127）。

- **別の場面からアフレコ編集を再開したいときは**
  リモコンの「一時停止」ボタンを押します。ビデオが一時停止状態になります。リモコンの「停止」ボタンを押してアフレコ編集を終了し、アフレコ編集を再開したい場面を表示させてから編集を再開してください。
- **外部機器を使ってアフレコ編集したいときは**
  外部機器をAV入／出力端子に接続して、ビデオ再生モード設定メニューの「アナログ入力」を「入」に設定してください（☞ P.176）。液晶画面に「AUX」と表示されます。

- **画面に「音声アフレコできません」と表示されたときは**
  LPモードで撮影したテープ、または16bitの音声を記録したテープにはアフレコ編集できません。
- **テレビから「ピー」「ウワーン」というノイズ音が出るときは**
  テレビからビデオカメラを離すか、テレビの音量を下げてください。

再生時の音声を切り替える

音声切替と 12bit 音声

アフレコ編集したビデオでは、撮影時の音声とアフレコ時に録音した音声（アフレコ音声）の再生を選択できます。また、ビデオカメラは常にステレオ音声で録音しますが、左右どちらかの音声のみを再生することもできます。

アフレコ音声の切り替え［アフレコ音声］

撮影時の音声を再生するか、アフレコ音声を再生するか設定します。

- **切**　　　：撮影時の音声
- **入**　　　：アフレコ音声
- **ミックス**：撮影時の音声とアフレコ音声（同時に再生）

ステレオ音声の切り替え［音声切替］

ビデオの音声をステレオまたは左右どちらかのみで再生するか設定します。

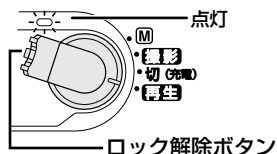
- **ステレオ**：ステレオ（左右どちらも再生）
- **音声（L）**：左の音声のみ
- **音声（R）**：右の音声のみ

音声切替の操作

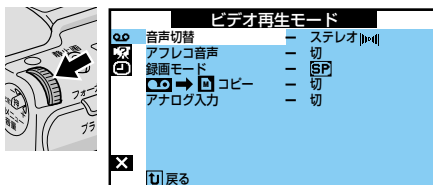
ここでは、アフレコ音声をステレオで再生するように設定してみます。

1 **モード選択スイッチを「ビデオ」の位置に合わせる**

2 **「再生」の位置に合わせる**

次へ続く

再生時の音声を切り替える

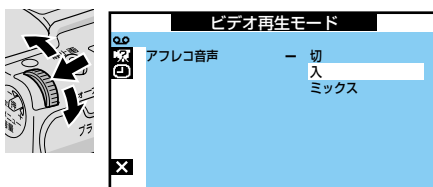
3 「メニュー／決定」ダイヤルを押してメニューを表示し、もう一度押して決定する

ビデオ再生モード設定メニューが表示されます。

4 「音声切替」が「ステレオ」に設定されていることを確認する

- 「音声（L）」または「音声（R）」になっている場合は、「ステレオ」に変更してください。

5 「アフレコ」を選び、ダイヤルを押す

「切」、「入」、「ミックス」が表示されます。

6 「入」を選び、ダイヤルを押す

7 ダイヤルを２回押して再生画面に戻る

- ビデオカメラは、ビデオの音声モードを自動判別して再生します。ビデオを再生すると、画面の左上端に再生中の音声モードが表示されます（早送り/巻戻し再生中は自動判別できません）。

映像をパソコンで利用する

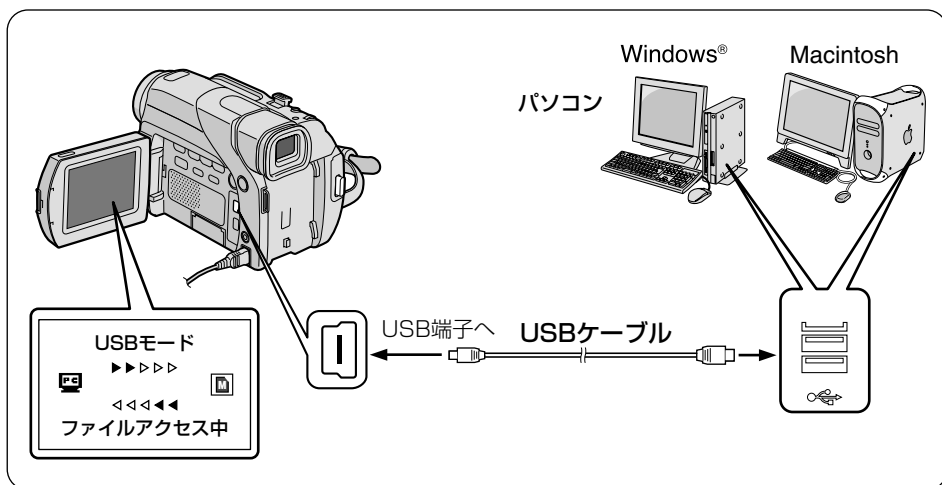
DV ケーブルで接続する

市販の映像編集ソフトウェアをお持ちの場合、別売の DV ケーブルを使用して、カセットテープに記録した映像を動画として取り込んだり、パソコン上で映像編集ができます。

- パソコンの操作については、パソコン付属の取扱説明書をご覧ください。
- ソフトウェアの操作については、ソフトウェア付属の取扱説明書をご覧ください。

USB ケーブルなどで接続する

付属品のソフトウェア CD-ROM からお使いのパソコンにソフトウェアをインストールすると、USB ケーブルを使用して、メモリーカードに記録した静止画を取り込んだり、カセットテープに記録した映像を動画として取り込めます。

- パソコンの操作については、パソコン付属の取扱説明書をご覧ください。
- ソフトウェア CD-ROM やケーブルの取り扱い、および接続時の本機の操作については、ソフトウェア取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機の電源には、AC アダプターをお使いになることをお勧めします。
- 画面に「ファイルアクセス中」と表示されている間は USB ケーブルを抜かないでください。故障の原因になります。
- USB ケーブルを USB ハブに接続して正常に動作しないときは、パソコン本体の USB 端子と接続してください。
- USB ケーブルの延長ケーブルは使用しないでください。

次へ続く

映像をパソコンで利用する

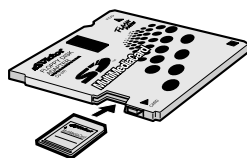
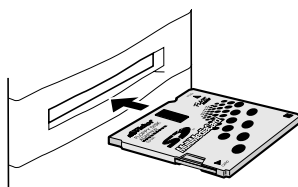
ご注意
- 新たに購入したメモリーカード（付属のメモリーカードを除く）をご使用になる場合は、ご使用の前に本機でメモリーカードを初期化（フォーマット）してください（☞P.152）。ビデオカメラとパソコンをUSBケーブルで接続したときに、ファイルのコピーができないことがあります。
- USBケーブルでパソコンと接続してビデオを再生するときは、テープからメモリーカードへのコピー（☞P.108）をご利用になれません。

フロッピーアダプターまたはPCカードアダプターで読み込む

別売のPCカードアダプター（CU-V51）やフロッピーディスクアダプター（CU-V41）、USBリーダー／ライター（CU-V70）を使うとメモリーカードに記録した静止画を取り込むことができます（マルチメディアカード・SDメモリーカードに対応しています）。
ここでは､フロッピーディスクアダプターを使ってパソコンに取り込む方法を説明します。

1 メモリーカードを取り出す

- メモリーカードを取り出すには（☞P.42）

2 メモリーカードをフロッピーディスクアダプターに差し込む

3 パソコンのフロッピーディスクドライブに差し込む

4 パソコンで、フロッピーディスクからハードディスクへファイルをコピーする

- パソコンの操作については、パソコン付属の取扱説明書をご覧ください。
- PCカードアダプター、フロッピーディスクアダプター、USBリーダー／ライターの取り扱いについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

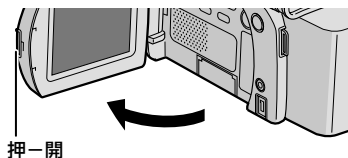
ファイルを削除できないようにする［プロテクト］

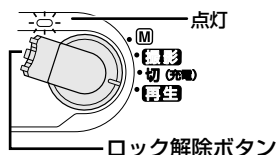
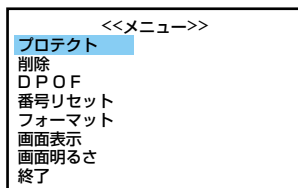
メモリーカードの静止画ファイルにプロテクトをかける

間違えて削除しないように、大切な静止画ファイルにはプロテクトをかけることをお勧めします。プロテクトをかけた静止画ファイルは削除されません。

1 液晶画面を開く

2 モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

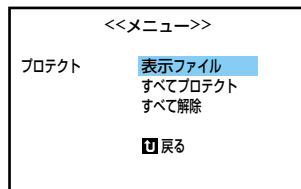
ビデオ　メモリー

3 「再生」の位置に合わせる

液晶画面に静止画が表示されます。

4 「メニュー／決定」ダイヤルを押して、メニューを表示する

5 もう一度ダイヤルを押す

「表示ファイル」「すべてプロテクト」「すべて解除」が表示されます。

<<メニュー>>

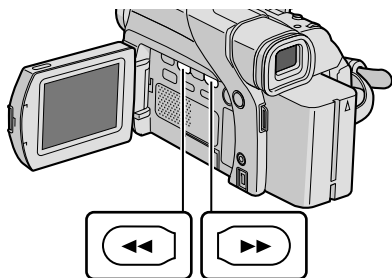
プロテクト　表示ファイル
すべてプロテクト
すべて解除

戻る

6 もう一度ダイヤルを押す

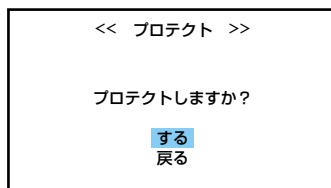
プロテクト画面が表示されます。

設定を変えて使いこなそう編

ファイルを削除できないようにする[プロテクト]

7 「◀◀」または「▶▶」ボタンを押してプロテクトをかける静止画を選ぶ

8 「する」を選び、ダイヤルを押す

静止画がプロテクトされ、静止画中央に「O┳┳」マークが表示されます。

- 他の静止画もプロテクトしたいときは、手順７～８を繰り返します。

9 ダイヤルを３回押す

再生画面に戻ります。

すべての静止画をプロテクトしたいときは

前ページの手順５で「すべてプロテクト」を選び、「メニュー／決定」ダイヤルを押します。表示された画面で「する」を選び、「メニュー／決定」ダイヤルを押すと、すべての静止画がプロテクトされます。

- SD カードのライトプロテクトスイッチを「LOCK」の位置に合わせていると、ファイルにプロテクトをかけることはできません（☞ P.42）。

- ファイルにプロテクトをかけていても、フォーマットした場合は削除されます。必要なファイルはパソコンに転送して保存してください。

ファイルのプロテクトをはずす

ここでは、静止画のプロテクトを解除する方法を例にとって説明します。

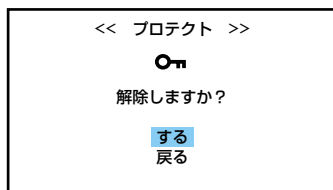
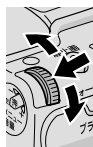
1 「メモリーカードの静止画ファイルにプロテクトをかける」（☞ P.131）の手順１〜６を行う

プロテクト画面が表示されます。

2 「◀◀」または「▶▶」ボタンを押してプロテクトをはずしたい静止画を選び、「メニュー／決定」ダイヤルを押す

<< プロテクト >>

解除しますか？

する
戻る

静止画中央の「🔑」マークが消えます。

- 他の静止画もプロテクトをはずしたいときは、手順２を繰り返します。

3 ダイヤルを３回押す

再生画面に戻ります。

- SD カードのライトプロテクトスイッチを「LOCK」の位置に合わせていると、ファイルのプロテクトをはずすことはできません（☞ P.42）。

画面の表示方法を変更する

ダビングや編集をするときには、画面の文字や記号を隠すことをお勧めします。ここでは、画面の日時表示やメニュー表示を隠す方法と、そのほかの日時／表示設定メニューの項目について説明します。

撮影日時／表示設定メニュー

電源ダイヤルを「Ⓜ」に合わせ、「メニュー／決定」ダイヤルで設定します。

項　目	設定項目	機　能
画面明るさ	—	液晶画面やファインダーの明るさを調節する（☞P.52）
画面表示切替	モニター	ＴＶやビデオデッキに、文字や記号を出力しない
	モニター/TV	ＴＶやビデオデッキに、画面と常に同じ表示を出力する
日時表示	切	表示しない
	オート	電源を入れたときなどに５秒間表示する
	入	常に表示する（☞P.113）
タイムコード	切	表示しない
	入	表示する（☞P.115）
LANGUAGE	JAPANESE	メニューを日本語で表示する
	ENGLISH	メニューを英語で表示する
年月日時計合わせ	年月日、時刻	日時を設定する（☞P.47）

※：最初の設定値は、▒▒ で表示してあります。

再生日時／表示設定メニュー

電源ダイヤルを「再生」に合わせ、「メニュー／決定」ダイヤルで設定します。

項　目	設定項目	機　能
画面明るさ	—	液晶画面やファインダーの明るさを調節する（☞P.52）
画面表示切替	切	画面、TV、ビデオデッキに、文字や記号を出力しない
	モニター	ＴＶやビデオデッキに、文字や記号を出力しない
	モニター/TV	ＴＶやビデオデッキに、画面と常に同じ表示を出力する
日時表示	切	表示しない
	オート	電源を入れたときなどに５秒間表示する
	入	常に表示する（☞P.113）
タイムコード	切	表示しない
	入	表示する（☞P.115）
LANGUAGE	JAPANESE	メニューを日本語で表示する
	ENGLISH	メニューを英語で表示する

※：最初の設定値は、▭ で表示してあります。

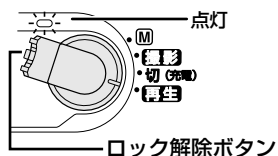
●「画面表示切替」と「日時表示」と「タイムコード」の設定は、電源ダイヤルを「撮影」、「M」に合わせたときと「再生」に合わせたときの内容が、別々に保存されます。

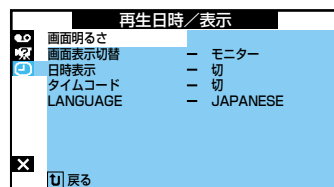
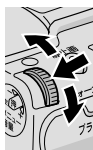
●「日時表示」の設定はリモコンの「画面表示」ボタンでも切り替えることができます(☞ P.32)。ダビング中に日時表示を隠すのに便利です。

●画面表示切替が「モニター」または「切」に設定されていても、「日時表示」や「タイムコード」が「入」に設定されていると、日時やタイムコードは画面に表示されます。
これらをダビングしたくないときは、上の表の再生日時／表示設定メニューで「日時表示」や「タイムコード」の設定を「切」にしてください。

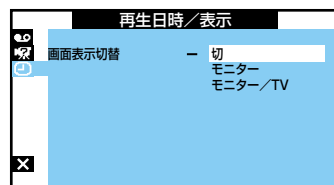
日時／表示設定メニューの設定方法

メニューの操作方法を説明します。例として、再生中に「画面表示切替」の設定を「切」に変更します。

1 「再生」の位置に合わせる

2 「メニュー／決定」ダイヤルを押してメニューを表示し、「」を選んでダイヤルを押す

再生日時／表示設定メニューが表示されます。

3 「画面表示切替」を選び、ダイヤルを押す

「切」「モニター」「モニター／TV」が表示されます。

4 「切」を選び、ダイヤルを押す

5 ダイヤルを２回押して撮影画面に戻る

撮影設定を変更する

フルオート用の設定を変更する

ここでは、撮影用の設定のなかで、「撮影」と「M」の両方で効果がある項目について説明します。

フルオート設定メニュー

電源ダイヤルを「M」に合わせ、「メニュー／決定」ダイヤルで設定します。

項　目	設定項目	特　徴	参　照
録画モード テープの撮影時間を1.5倍にする	SP	アフレコ編集・インサート編集可能	P.123 P.125
	LP	撮影時間がSPモードの1.5倍	
音声モード アフレコ可能なモードで録音する	12bit	アフレコ編集可能	P.127
	16bit	高音質で録音	
ズーム ズーム倍率の上限を設定する	10倍	光学ズーム（画質が劣化しない）	P.57
	40倍	デジタルズーム	
	200倍	デジタルズーム	
記念写真モード 静止画の演出方法を設定する	フル	全面に静止画を表示する	P.81
	ピンナップ	白フチと影をつける	
	フレーム	白フチをつける	
感度アップ 撮影の感度を設定する	切	自然のままの明るさ	P.138
	AGC	電気的に感度アップ	
	オート A	映像の明るさを自動的に調節	

※：最初の設定値は、　　　で表示してあります。

設定を変えて使いこなそう編

撮影設定を変更する

各項目の補足説明

録画モード

- 本機の「LP」モードで撮影したテープは本機で再生することをお勧めします。他のデジタルビデオではうまく再生できない場合があります。

音声モード

- アフレコ編集をするには、あらかじめ「12bit」に設定して撮影してください。一方、「16bit」に設定すると、より高音質で録音できます。
- どちらのモードでも、ステレオで録音されます。
- 従来のビクター製ビデオカメラでは、12bit 音声を 32KHz 音声、16bit 音声を 48KHz 音声と表現しています。

ズーム

- 10 倍まではレンズの機能で映像をズームしますが、10 倍以上は映像をデジタル処理するため、映像品質が少し劣化します。

記念写真モード

- ビデオテープに挿入する静止画の演出方法を、3 種類から選択できます（☞P.81）。

感度アップ

- 「AGC」で撮影した画面は、デジタル映像を処理して実際よりも明るい映像を記録します。ただし、映像がザラザラした感じになります。
- 「オート」で撮影した画面は、自動的にシャッタースピードを調節して、実際よりも明るい映像を記録します。ただし、被写体の動きは多少不自然になります。

静止画撮影設定メニュー

電源ダイヤルを「Ⓜ」に合わせ、「メニュー／決定」ダイヤルで設定します。

項　目	設定項目	特　徴	参　照
画質設定 静止画の画質を設定する	ファイン	高画質（撮影枚数が少ない）	P.87
	スタンダード	撮影枚数が多い	
画像サイズ 静止画の画像サイズを設定する	640×480		P.87
	1024×768		
	1280×960		
	1600×1200	画像をデータ変換して保存	
記録選択 静止画の記録方法を設定する	➡📼	テープのみに記録する	–
	➡📼／➡Ⓜ	テープとカード両方に記録する	

※：最初の設定値は、　　　で表示してあります。

各項目の補足説明

画質設定

- ファインモードでは、画像の圧縮率が低いため、高画質になります。スタンダードよりもデータサイズが大きくなります。

画像サイズ

- 1600 × 1200 ドットでは、1280 × 960 ドットで撮影した画像をデータ変換して保存しています。

記録選択

- ビデオテープに静止画を撮るときに、静止画をメモリーカードにも記録するかどうかを選択できます（☞P.83）。
- 「➡📼／➡Ⓜ」に設定し、ビデオカメラにテープが入っていないときには、メモリーカードにのみ記録されます。

マニュアル用の設定を変更する

ここでは、撮影用の設定のなかで、「Ⓜ」を選択したときに効果がある項目について説明します。

マニュアル設定メニュー

電源ダイヤルを「Ⓜ」に合わせ、「メニュー／決定」ダイヤルで設定します。

項　目	設定項目	特　徴	参　照
手ぶれ補正 手ぶれ補正を設定する	切		P.141
	入	手ぶれによる映像のブレを低減する	
テレマクロ 接写を設定する	切	1mまで接近して撮影できる	P.57
	入	T側で60cmまで接近可能	
ワイド効果 ワイドテレビに合わせた画面にする	切		P.141
	シネマ	映画風に上下に黒い帯が入る	
	ワイド	ワイドテレビと同じ横長の画面になる	
ボイスポジション 録音される雑音を軽減する	切	自然な音声を録音する	–
	入	風による雑音を軽減して録音する	

※：最初の設定は、　　　で表示してあります。
※：電源ダイヤルが「撮影」のときは　　　の設定で動作します。

各項目の補足説明

手ぶれ補正

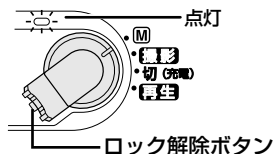
- 三脚などでビデオカメラを固定して撮影するときは「手ぶれ補正」を「切」にしてください。「入」のままだと被写体の動きに合わせて必要のない補正を行い、不自然な映像になることがあります。
- 手ぶれが大きいとき、コントラスト（明暗差）のほとんどない被写体を撮るとき、映像をデジタル処理するときは補正できないことがあります。
- 手ぶれ補正が働かないときは､液晶画面の「((✋))」表示が点滅､または表示が消えます。

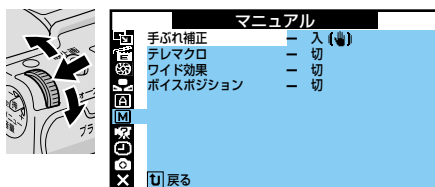
ワイド効果

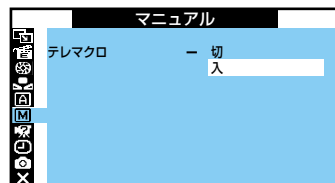
- **普通のテレビ（画面比率 4:3）やファインダー、液晶画面で見るときは**
  ワイド映像は、縦長の映像が映ります。シネマ映像は、上下に黒い帯が入った映像が映ります。
- **ワイドテレビで再生するときは**
  ワイドで撮った映像には、ワイド用の識別信号が記録されています。ビデオカメラのS2 入力／出力端子とワイドテレビをS 映像コードで接続してください。テレビのS2 端子に接続すると、ワイド、シネマをテレビが自動判別します。テレビのS1 端子に接続すると、ワイドを自動判別します。テレビ側にS2 またはS1 端子がないときは、S 端子に接続してください。自動判別はできません。ワイドテレビで見やすい映像に調節してください。（詳細はお使いのワイドテレビの取扱説明書をご覧ください）。
- **ビデオデッキでダビングしたワイド映像を再生するときは**
  ワイド映像になるようにテレビ側でモードを切り替えてください（詳細はお使いのワイドテレビの取扱説明書をご覧ください）。
- **ワイド映像とシネマ映像を混在させて撮ったときは**
  早送り再生中、巻戻し再生中は、ワイド映像とシネマ映像の切り換わりを判別できません。

設定のしかた

例として、テレマクロの設定を「入」に変更します。

1 「Ⓜ」の位置に合わせる

2 「メニュー／決定」ダイヤルを押してメニューを表示し、「Ⓜ」を選んでダイヤルを押す

マニュアル設定メニューが表示されます。

3 「テレマクロ」を選び、ダイヤルを押す

「切」と「入」が表示されます。

4 「入」を選び、ダイヤルを押す

5 ダイヤルを２回押して撮影画面に戻る

操作音を消す、機能デモを表示する

システム設定メニュー

電源ダイヤルを「Ⓜ」または「再生」のいずれかに合わせ、「メニュー／決定」ダイヤルで設定します。

項　目	設定項目	特　徴	参　照
ブザー 操作音を消す	切	操作音を消す	−
	ブザー	一部の操作のみブザー音	
	メロディー	操作するごとにメロディー音	
リモコン リモコンの信号を受け付けないようにする	切	リモコン操作を無効にする	P.32
	入	リモコンで操作する	
デモモード プログラムAEの効果をデモで確認する	切		−
	入		
優先設定 ファインダーを優先に設定する	液晶モニター	液晶画面を優先的に表示	P.46
	ファインダー	ファインダーを優先的に表示	
プリセット すべての設定をもとに戻す	実行	メニュー表示を初期値に戻す	−
	戻る		

※：最初の設定は、■■■で表示してあります。

各項目の補足説明

デモモード

- カセットテープを入れずに電源を入れると、液晶画面にビデオカメラの機能デモを表示します。
- 機能デモの表示中にズームなどの操作を行うと、一時的に機能デモの表示を停止し、約３分後に再開されます。
- 通常はデモモードを「切」にしてご使用ください。

優先設定

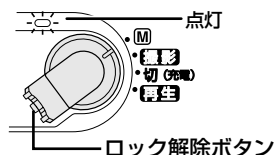
- 液晶画面が開いていて、ファインダーを引き出したとき、どちらが優先して映像や記号、文字を表示するかを設定します。

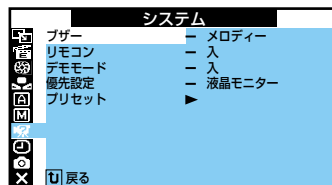
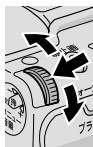
操作音を消す、機能デモを表示する

設定のしかた

例として、デモモードの設定を「切」に変更します。

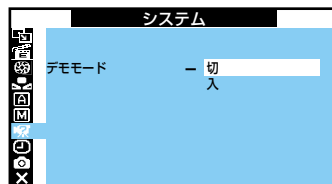
1 「Ⓜ」の位置に合わせる

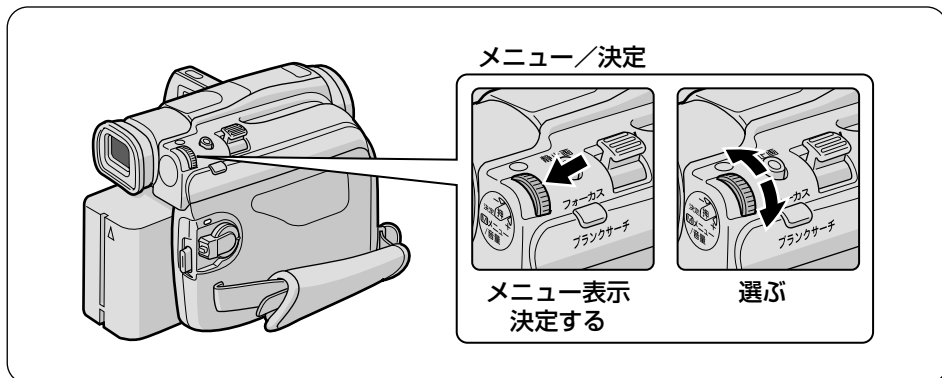
- 「再生」の位置に合わせても設定できます。

2 「メニュー／決定」ダイヤルを押してメニューを表示し、「[icon]」を選んでダイヤルを押す

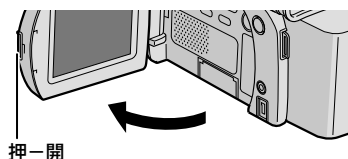
システム設定メニューが表示されます。

3 「デモモード」を選び、ダイヤルを押す

「切」と「入」が表示されます。

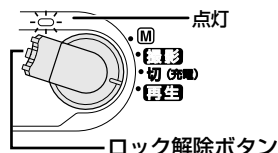
4 「切」を選び、ダイヤルを押す

5 ダイヤルを２回押して撮影画面に戻る

プリント情報を設定する[DPOF 設定]

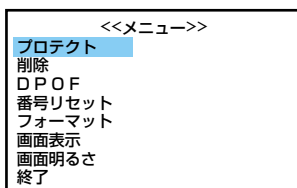
自動プリントするための情報を記録するDPOF(Digital Print Order Format)規格に対応しています。
DPOF 設定で自動プリントの指定ができるのは、メモリーカードに記録された静止画のみです。ビデオの映像をDPOF 設定によってプリントしたいときは、プリントしたい場面をあらかじめ静止画としてメモリーカードにコピーしておきます（☞P.108）。

すべての静止画を1枚ずつプリントするよう設定する

1 液晶画面を開く

2 モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

3 「再生」の位置に合わせる

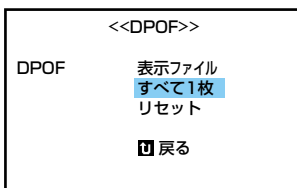
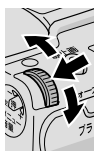
液晶画面に静止画が表示されます。

次へ続く

プリント情報を設定する［DPOF設定］

4 「メニュー／決定」ダイヤルを押して、メニューを表示する

5 「DPOF」を選び、ダイヤルを押す

「表示ファイル」「すべて１枚」「リセット」などが表示されます。

6 「すべて１枚」を選び、ダイヤルを押す

DPOF画面が表示されます。

7 「する」を選び、ダイヤルを押す

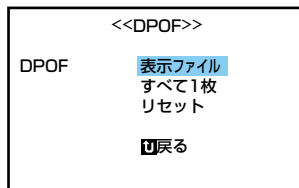
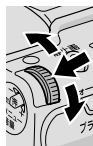
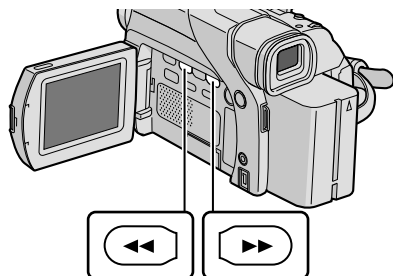
再生画面に戻ります。

静止画とプリント枚数を選んで設定する

1 **「すべての静止画を１枚ずつプリントするよう設定する」(☞P.146)の手順６で「表示ファイル」を選び、ダイヤルを押す**

DPOF画面が表示されます。

<<DPOF>>

DPOF　表示ファイル
すべて1枚
リセット
戻る

2 **「◀◀」または「▶▶」ボタンを押してプリントしたい静止画を選ぶ**

3 **「00」を選び、ダイヤルを押す**

枚数設定を変更できるようになります。

- すでに枚数が設定されている場合は、「00」のかわりに設定されている枚数が表示されています。

4 **枚数を設定し、ダイヤルを押す**

- 最大15枚まで設定できます。

5 **他の静止画もプリントしたいときは、手順２～４を繰り返す**

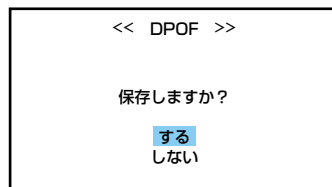
次へ続く

プリント情報を設定する［DPOF 設定］

6 「戻る」が選ばれていることを確認して、ダイヤルを押す

設定の保存を確認する画面が表示されます。

7 「する」を選び、ダイヤルを押す

設定が保存され、再生画面に戻ります。

枚数をすべて 0 枚に戻すには

「すべての静止画を 1 枚ずつプリントするよう設定する」の手順 6 で「リセット」を選びます。すべての静止画が 0 枚に設定されます。

ご注意

- 操作中は電源を抜かないでください。静止画ファイルが壊れる場合があります。安全のため、DPOF 設定の実行中は電源ダイヤルを含むすべてのボタンが働きません。

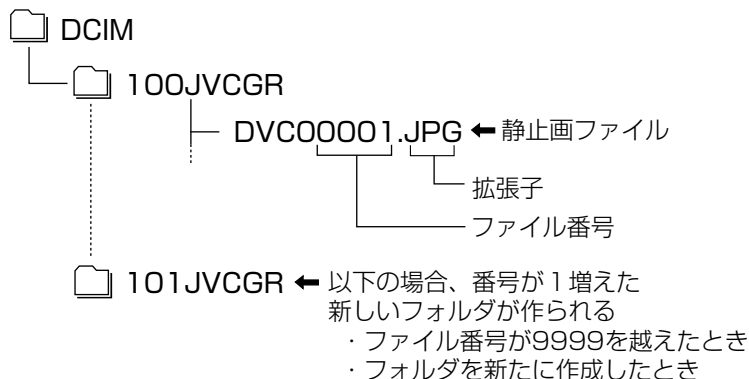
- 静止画が 1000 枚以上あると、DPOF 設定を行えません。

- SD カードのライトプロテクトスイッチを「LOCK」の位置に合わせていると、DPOF 設定を保存できません（☞ P.42）。
- DPOF 対応プリンターを使用する場合、上記の操作をしたメモリーカードを入れると選択した静止画だけを自動的に印刷できます。
- テープの映像を印刷するには、あらかじめメモリーカードへコピーしてください（☞ P.108）。

静止画のファイル名をリセットする

静止画は、撮影した順に「0001」から「9999」までの番号を持ったファイル名がつけられます。リセットを行うと、新たにフォルダを作成し、その中に「0001」から始まるファイル名をつけて保存するようになります。例えば、これまでの静止画とこれから撮影する静止画の区別をつけやすくしたいときに便利です。

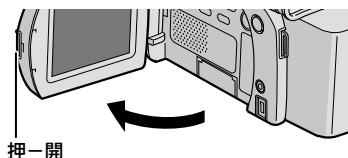
静止画のファイル名とフォルダ名について

静止画のファイル名は「DVC00001.JPG」「DVC00002.JPG」…の順につけられます。「DVC09999.JPG」を越えると、自動的に新しいフォルダが作成され、その中に「DVC00001.JPG」として保存されます。

- ファイル名とフォルダ名を確認するには、「インフォ」ボタンを押してファイル情報を表示します（☞ P.107）。画面右上のフォルダ番号とファイル番号から確認することもできます。

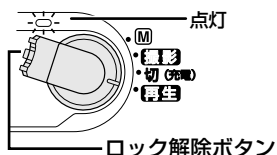
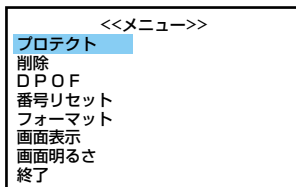
- 途中の番号の静止画を削除したときは、その番号は使用されません。撮影した最新の静止画は、常にフォルダ内で一番大きな番号を持ったファイル名がつけられます。

次へ続く

静止画のファイル名をリセットする

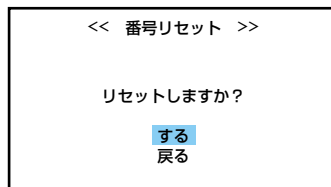
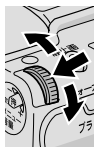
1 液晶画面を開く

2 モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

3 「再生」の位置に合わせる

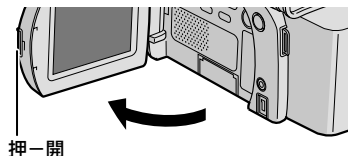
液晶画面に静止画が表示されます。

4 「メニュー／決定」ダイヤルを押してメニューを表示する

5 「番号リセット」を選び、ダイヤルを押す

番号リセット画面が表示されます。

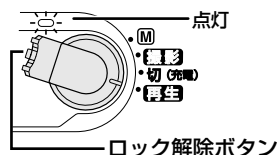
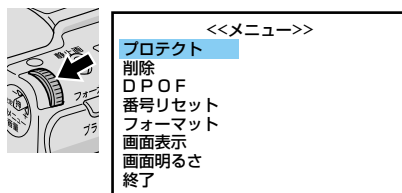
6 「する」を選び、ダイヤルを押す

静止画の再生画面に戻ります。

静止画の再生画面表示を変更する

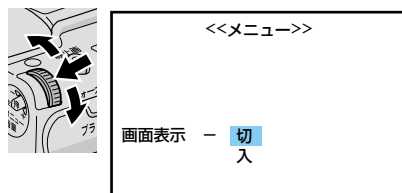
静止画の再生時に表示されるモード表示（ ）やフォルダ番号とファイル番号（100-0001 など)、バッテリー表示（ ）を消すことができます。

1 液晶画面を開く

2 モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

3 「再生」の位置に合わせる

液晶画面に静止画が表示されます。

4 「メニュー／決定」ダイヤルを押してメニューを表示する

5 「画面表示」を選び、ダイヤルを押す

6 「切」を選び、ダイヤルを押す

設定を変えて使いこなそう編

メモリーカードを初期化する

万一、一部のファイルが読み書きできなくなったなどの不具合が生じた場合は、メモリーカードを初期化（フォーマット）することで機能を回復できることがあります。必要に応じて、下記の手順でフォーマットを行ってください。
フォーマットするとメモリーカード内のファイルはすべて消去されます。

1 AC アダプターを取り付ける

- AC アダプターを取り付けるには（☞P.70）

2 保存したいファイルがあればコピーする

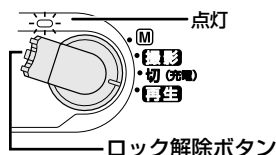
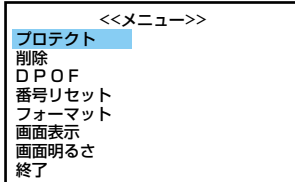
- パソコンにファイルを取り込むには（☞P.129）
- ファイルが壊れているときは、コピーできないこともあります。

3 液晶画面を開く

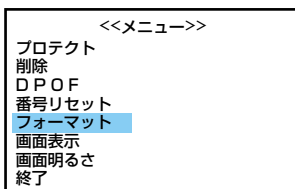
4 モード選択スイッチを「メモリー」の位置に合わせる

5 「再生」の位置に合わせる

液晶画面に静止画が表示されます。

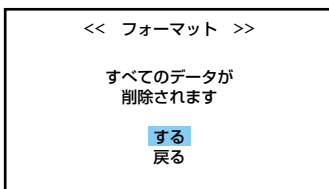
6 「メニュー／決定」ダイヤルを押してメニューを表示する

<<メニュー>>
プロテクト
削除
DPOF
番号リセット
フォーマット
画面表示
画面明るさ
終了

7 「フォーマット」を選び、ダイヤルを押す

フォーマット画面が表示されます。

<<メニュー>>
プロテクト
削除
DPOF
番号リセット
フォーマット
画面表示
画面明るさ
終了

8 「する」を選び、ダイヤルを押す

- フォーマットをやめるには「戻る」を選びます。

メモリーカードがフォーマットされます。フォーマットが終了すると、再生画面に戻ります。

<<　フォーマット　>>
すべてのデータが
削除されます
する
戻る

ご注意

- フォーマット中は電源を切ったり、ほかの操作をしないでください。故障の原因となります。
- ファイルにプロテクトをかけていても、フォーマットした場合は消去されます。必要なファイルはパソコンに転送して保存してください。

- SDカードのライトプロテクトスイッチを「LOCK」の位置に合わせていると、フォーマットすることはできません（☞ P.42）。

- メモリーカードは精密機器です（☞ P.161）。フォーマットしても、メモリーカードの機能が回復しない場合は、新しいメモリーカードを購入してください。

故障かな？と思ったら

このビデオカメラはマイコンを使用しています。
雑音や妨害ノイズにより正常に動作しないことがあります。そんなときはビデオカメラから電源（バッテリー、AC アダプターなど）をはずし、あらためてご使用ください。それでも不具合があり、以下の処置をしても改善されない場合は、お買い上げ販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。

	こんなとき	ご確認ください	参照
電源	**電源が入らない**	● 電源コードを正しく接続してください。 ● バッテリーを充電してください。 ● 液晶画面を開くか、ファインダーを引き出してください。	P.70 P.37 P.45
	「日時を設定して下さい」が表示される	● 日時を設定してください。 ● 内蔵の時計用電池がなくなっています。最寄りの「ビクターサービス窓口」にご相談ください。	P.47 P.166
撮影中	**撮影できない**	● モード選択スイッチを正しく設定してください。 ● テープの誤消去防止用つまみを「REC」側にしてください。 ●「テープ終り」と表示されていませんか？表示されているときは、テープを交換してください。 ● 電源ダイヤルを「撮影」または「🄼」にしてください。 ● カセットカバーを閉じてください。	P.49 P.161 P.39 P.45 P.40
	映像が出ない	● 電源をもう一度入れ直してください。	P.45
	メニューの機能が使えない	● 電源ダイヤルを「🄼」にしてください。	P.45
	自動でピントが合わない	● 電源ダイヤルを「撮影」にしてください。「🄼」のまま撮影するときは、「フォーカス」ボタンを押して手動フォーカスを解除してください。 ● 暗いところや明暗差のないものを撮影していませんか？ ● レンズにゴミや水滴などが付いていませんか？	P.91 P.159
	撮影中、液晶画面に日時が出ない	●「撮影日時/表示」設定メニューの「日時表示」を「入」にしてください。	P.113 P.134
	撮影した映像の縦に明るい線が出る	● 強い光の当たる被写体を撮影しませんでしたか？　被写体に強い光が当たると、コントラストの違いで線が出ることがあります。故障ではありません。	–
	太陽光が映ると、画面が一瞬赤くなったり、黒くなったりする	● 故障ではありません。	–
	撮影中の被写体が暗い	●「逆光補正」ボタンを押してください。	P.77
	撮影中の被写体が明るい	●「プログラム AE」の「スポットライト」を選択してください。 ● 逆光補正を使っているときは、解除してください。 ● 明るさ補正が「＋」側に設定されているときは、明るさ補正を解除してください。	P.100 P.77 P.89
	撮影中の被写体の色がおかしい	● 照明や被写体の背後にいろいろな光源がある場合に色がおかしくなるときがあります。「白バランス」の「ワンタッチ」で調節してください。	P.95

	こんなとき	ご確認ください	参照
撮影中	**デジタルズームできない**	●「メモリー」モードでは、ズームは10倍までしか使えません。 ●「ズーム」が「10倍」に設定されているときは、ズームは10倍までしか使えません。	P.57 P.137
	手ぶれ補正が働かない	●「手ぶれ補正」を「入」にしてください。	P.140
	「プログラムAE」や「場面切替」機能が使えない	●電源ダイヤルを「M」にしてください。	P.98 P.102
	「場面切替」の「フェーダー：白黒」が使えない	●「プログラムAE」の「セピア」や「白黒」を選択しているときは使えません。	P.102
	「白バランス」が設定できない	●「プログラムAE」で「セピア」や「白黒」を選択しているときは使えません。	P.102
	液晶画面の映像が暗い、または白くなる	●液晶画面の角度や明るさを調節してください。 ●寒い所でご使用の場合、液晶画面が多少暗くなりますが、故障ではありません。 ●液晶画面の寿命が短くなっている可能性があります。お買い上げの販売店、またはお近くのビクターサービス窓口にご相談ください。	P.52 P.166
	液晶画面の裏側が熱くなる	●液晶画面を長時間使用していませんか？　長時間使用すると、液晶画面裏の蛍光管が熱くなります。故障ではありません。液晶画面を切るか電源を切ってしばらく放置しておくと元に戻ります。	−
	液晶画面に表示ムラが出る	●液晶画面やそのまわりを押しませんでしたか？　液晶画面を圧迫すると映像ムラが生じます。手を離してしばらく放置しておくと元に戻ります。	−
	液晶画面に白や赤、青、緑の点が出ることがある	●ナイトアイ使用時に出る現象です。故障ではありません。	P.79
	被写体がブレる	●スローシャッターの状態で出る現象です。故障ではありません。	P.78
	液晶画面のアイコン表示が点滅または消える	●「場面切替」「プログラムAE」「手ぶれ補正」機能のうち、同時に使用できない機能を選択しているときは各機能のアイコンが点滅またはアイコンが消えます。	P.97 P.100 P.140
	「露が付きました」と表示される	●メッセージが消えてから使用してください。	P.159
	「クリーニングカセットを試して下さい」と表示される	●別売のミニDVヘッドクリーナーでヘッドを清掃してください。	P.158

次へ続く

故障かな？と思ったら

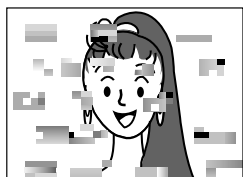
	こんなとき	ご確認ください	参照
再生中	液晶画面の映像が乱れる	● テープの無記録部分の再生、高速再生、および静止画再生中は液晶画面の映像が乱れることがあります。故障ではありません。	−
	テープの巻戻し、早送りができない	● 電源ダイヤルを「再生」にしてください。	P.64
	メモリーカードの再生ができない	● モード選択スイッチを「メモリー」に合わせてから、電源ダイヤルを「再生」にしてください。	P.68
	テープは回っているが再生されない	● テレビのチャンネルをビデオ用に設定してください。	P.72
	映像にモザイク状のノイズが出る	● 別売のミニ DV ヘッドクリーナーでヘッドを清掃してください。	P.158
	映像が映らず 青い画面になる	● 別売のミニ DV ヘッドクリーナーでヘッドを清掃してください。	P.158
	液晶画面に「E01」 または「E02」、「E06」 と表示される	● なんらかのエラーが発生しています。この間ビデオカメラは操作できません。バッテリーと電源を取り外してつけなおし表示が消えてからお使いください。2、3度くり返しても表示が消えないときはお買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。また、テープに傷が付きますのでテープは取り出さないでください。	P.166 P.181
	液晶画面に「E03」または「E04」と表示される	● なんらかのエラーが発生しています。この間ビデオカメラは操作できません。テープを取り出していれなおし表示が消えてからお使いください。２、３度くり返しても表示が消えないときはお買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。	P.166 P.181
その他	液晶画面の映像が暗い	● 寒い場所でビデオを再生していませんか？　寒い場所では、多少液晶画面が暗く見えます。故障ではありません。 ● 液晶画面の明るさを調節してみてください。	− P.52
	液晶画面が見にくい	● 直射日光下など周囲が明るいところでは液晶画面が見にくくなります。ファインダーの使用をお勧めします。	P.54
	液晶画面に映像が 表示されない	● システム設定メニューの「優先設定」を「ファインダー」に設定した状態で、ファインダーを引き出していませんか？ ● 液晶画面の明るさを調節してみてください。	P.54 P.143 P.52
	液晶画面やファインダーに黒い点、赤、青、緑の光る点が出る	● 故障ではありません。	P.160
	充電中に電源ランプが点滅しない	● 低温（0℃以下）や高温（40℃以上）で充電していませんか？0～40℃の環境で充電してください。周囲の温度が低すぎたり高すぎたりすると、バッテリー保護のため充電が中止されることがあります。	P.38
	テープが入らない	● テープの向きを確かめてください。 ● バッテリーの残量を確かめてください。	P.39 P.51
	メニューが全部英語表示になっている	●撮影日時／表示設定メニューの「LANGUAGE」で「JAPANESE」に設定してください。	P.134 P.135

	こんなとき	ご確認ください	参照
その他	メモリーカードが入らない	● メモリーカードの向きを確かめてください。	P.41
	メモリーカードの画像を削除できない	●プロテクトを解除してください。	P.131
	通信時エラー表示が出る	● パソコンケーブルを正しく接続してください。 ● ソフトを正しくインストールしてください。	P.129
	DV ケーブルで接続しているとき、操作ができない	● 電源が入った状態で DV ケーブルを抜き差ししませんでしたか？一度電源を切り、接続をやり直してから操作してください。	P.119
	リモコンがきかない	● システム設定メニューの「リモコン」が「切」になっていませんか？ ● リモコンをビデオカメラのリモコン受光部に向けていますか？ ● 電池が消耗していませんか？	P.143 P.32
	ファインダーに映像が表示されない	● システム設定メニューの「優先設定」を「液晶モニター」に設定した状態で、液晶画面を開いていませんか？	P.143

故障かな？と思ったら

映像にノイズが出たり音声が途切れたら

ビデオヘッドが汚れると、撮影時や再生時に以下の症状が出ます。汚れがひどくなると、正常な録画や再生ができなくなりますので、ヘッドをクリーニングしてください。大切な撮影をするときは、クリーニングカセットを持ち歩かれることをお勧めします。

- 再生すると映像にモザイク画（ブロック状のノイズ）が出たり、音声が途切れる。
- 再生すると映像に黒色やモザイク画の横しまが出る。
- 再生しても音や映像（青い画面になる）が出ない。
- 撮影時に「⊗ クリーニングカセットを試して下さい」と表示される。

クリーニングが終わったら、撮影・再生して上記の症状が消えていることを確認してください。

ミニDVヘッドクリーナーM-DVSCLを長時間繰り返し再生すると、ヘッド摩耗の原因になりますのでご注意ください。（ビデオカメラでM-DVSCLを再生すると、20秒後に自動的に再生を停止します）

ミニDVヘッドクリーナー
M-DVSCL（別売）

詳しくはM-DVSCLの取扱説明をご覧ください。

- **クリーニングを数回しても正常に再生ができない場合**

  撮影時にヘッドが汚れていたために正常に記録できなかったと考えられます。撮影時、液晶画面やビューファインダーには記録前の映像が表示されるため、記録時の映像ノイズや音声の途切れは確認できません。新たに撮影してみて、正常に再生ができれば、ヘッドはきれいになっています。大切な撮影をするときは、必ず試し撮りをお勧めします。

- **定期点検を行ってください**

  1か月に1度程度は、電源を入れてお使いになることをお勧めします。また、ビデオカメラの性能を維持し、いつも美しい画面をご覧いただくために、およそ使用時間1000時間を目安に定期点検に出されることをお勧めします。定期点検は、お買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。

「露が付きました」と表示されたら

よく冷えたビールをコップに注ぐと、コップのまわりに徐々に水滴が付着します。この状態を「つゆつき」といいます。ビデオカメラでつゆつきが発生すると、心臓部のヘッドドラムのまわりに水滴が付着し、テープが貼り付いてしまいます。

■ つゆつきはこんなときに起こります

- ビデオカメラを寒いところから暖かいところに急に移動したとき。（エアコンなどの冷風がビデオカメラに直接当たる場所から暑い屋外などに持ち出したとき。）
- 湿気の多い場所でビデオカメラを使用しているとき。
- 暖房した直後の部屋。

■ つゆつきが発生すると

- 液晶画面に「💧露が付きました」と「💧しばらくお待ち下さい」が交互に表示され、ビデオカメラが停止します。この間、カセットの出し入れはしないでください。
- 通常、つゆつきは徐々に発生するため、10～15分間はメッセージが表示されないことがあります。メッセージが表示される前でもレンズや保護ガラスに水滴が付いているときはヘッドドラムにも水滴が付着している可能性があります。カセットカバーを開けないでください。
- つゆつきはレンズの内側にも発生します。レンズに水滴が付着しているときれいに撮影できませんので、つゆつきがなくなってから撮影してください。

■ 再び使い始めるときは

メッセージが消えてからご使用ください。メッセージが消えないときは点検が必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。

寒冷地帯ではつゆが凍結し、霜になることがあります。寒冷地帯ではメッセージが消えるまでに、さらに時間がかかることがあります。

■ つゆつきのトラブルを防ぐには

寒いところから暖かいところ、冷風の効いたところから温度、湿度の高い場所に移動したときは、ビデオカメラとテープをしばらく放置して、使用する環境になじませてからご使用ください。
例えばスキー場で撮影後、暖房の効いた部屋に入るときは、ビニール袋などにビデオカメラを入れて空気が入らないように密封し、しばらくその状態で室温になじませてからご使用ください。

使用上のご注意

ビデオカメラについて

■ **本機は DV 方式のデジタルビデオカメラです。**
従来式のビデオ、および DV 方式以外のデジタルビデオとは互換性がありません。

■ **電源（バッテリーや AC アダプター）をはずすときは、必ず電源ダイヤルが「切」になっていることを確認してください。**
ビデオカメラの動作中に電源をはずすと、テープやメモリーカードを傷めたり誤動作の原因になります。

■ **長時間使用しないときは電源ダイヤルを「切」にしてください。**
長時間電源を入れたままにしておくと、ビデオカメラの表面が温かくなります。

■ **ビデオカメラを保管するときはカセットテープを取り出し、電源を切り、バッテリーを取りはずしてください。**
ときどき電源を入れて動作を点検してください。

液晶画面について

■ **表面を強く押したり強い衝撃を与えないでください。**
傷がついたり割れたりして故障の原因となることがあります。

■ **小さな光る点や黒い点が出ることがあります。**
ファインダーや液晶画面には 99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の小さな光る点（赤、青、緑）や黒い点が出ることがあります。故障ではありません。
これらはテープやメモリーカードには記録されません。

時計用電池について

日時を記憶するために電池が内蔵されています。電池が消耗すると、バッテリーや AC アダプターをはずしたときに画面に「日時を設定して下さい」と表示されます。
電池の交換は最寄りの「ビクターサービス窓口」にご相談ください （☞P.166）。

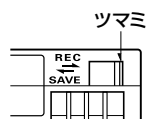
カセットテープおよびメモリーカードについて

■ **本機はDV方式のデジタルビデオカメラです。また、デジタルスチルカメラとしても使用できます。**

Mini DV マークのついたデジタルビデオカセットテープをご使用ください。

SD マーク、または *MultiMediaCard* マークのついたメモリーカードをご使用ください。

■ **大切な録画を消してしまわないように注意してください。**

保存しておきたい録画済みカセットテープは、カセット背面にあるツマミを「SAVE」の矢印方向に引いてください（ツマミを「REC」の方向に引くと、再び録画できます）。

■ **事前に試し撮りをしてください。**

大切な録画をするときは、事前に試し撮りを行い、正常に録画、録音されていることをご確認ください。

■ **内容の補償についてはご容赦ください。**

万一、ビデオカメラ、カセットテープおよびメモリーカードなどの不具合により正常に録画、録音や再生ができなかった場合の内容の補償についてはご容赦ください。

■ **権利者に無断で使用できません。**

あなたがビデオカメラで録画、録音したビデオは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

■ **撮影を制限している場所があります。**

鑑賞や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場所がありますのでご注意ください。

■ **モザイク状のノイズが出る場合があります。**

LPモードで録画されたカセットテープは、他のLPモードのあるデジタルビデオで再生した場合、モザイク状のノイズが出る場合があります。また、LPモードのないデジタルビデオでは正常に再生できません。

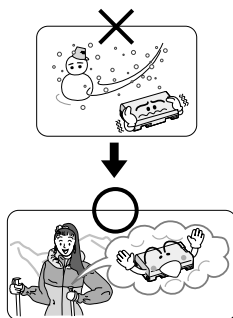
■ **カセットテープおよびメモリーカードは湿気が少なく風通しのよい、カビの発生しない場所に保管してください。**

■ **メモリーカードは精密機器です。曲げたり、落としたり、強い力、衝撃、振動を与えないでください。**

使用上のご注意

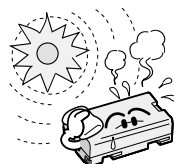
バッテリー（充電式電池）をご活用いただくために

■ リチウムイオンバッテリーの特性をご理解ください。

リチウムイオンバッテリーは小型で高容量のバッテリーです。しかし、冬場の屋外などの低温（10℃以下）でバッテリーが冷えている場合、バッテリーの使用時間が短くなる特性があり、動作しないことがあります。このような時は、バッテリーをポケットに入れるなどして温かくし、撮影前にビデオカメラに取り付けてください。カイロなどをご使用になっている場合は、直接カイロがバッテリーに触れないようにご注意ください。

■ リチウムイオンバッテリーの保管にご理解ください。

充電された状態で長期間保管すると、特性が劣化することがあります。
長期間保管する場合は、あらかじめ次の操作でバッテリーを使い切ってください。

① テープを入れずに、電源スイッチを「撮影」または「Ⓜ」の位置にあわせる。
② ビデオカメラの電源が自動的に切れるまで待ってから、バッテリーを取りはずす。

- 長期間保管する場合は、半年程度に一回充電し、再び使い切ってから保管してください。
- ビデオカメラを使用しないときは、必ずバッテリーをビデオカメラから取りはずしてください。
  取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微量の電流が流れていますので、バッテリー残量が少なくなります。
- ビデオカメラから取りはずしたバッテリーには、バッテリーキャップを取り付けてください。
- 涼しい所で保管してください。周囲の温度が15℃～25℃くらいの乾燥した所をお勧めします。
- 暑い所や極端に寒い所は避けてください。

リチウムイオンバッテリー（充電式電池）のリサイクルについて

美しい環境維持にあなたも一役。リサイクルに協力しましょう。
ご使用済みの電池は廃棄しないで、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

安全のため、充電式電池にはバッテリーキャップを取り付けるか、端子部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

■ 充電式電池の収集・リサイクルおよびリサイクル協力店に関するお問い合わせ先

小型二次電池再資源化推進センターホームページ　　http://www.jbrc.com/

ホームページがご覧になれない場合は、裏表紙のお客様ご相談センターにお問い合わせください。

日常のお手入れ

ビデオカメラの汚れを取る

バッテリー、AC アダプターまたは電源プラグをはずして電源を切ってから、次のようにお手入れしてください。

- 汚れを乾いた柔らかい布などで拭き取ってください。
- 汚れがひどいときは水で薄めた中性洗剤に布を浸し、固く絞ってから汚れを拭きます。その後、乾いた布で水分を拭き取ってください。

ご注意
- ベンジンやシンナーは使用しないでください。損傷や故障の原因になります。
- 化学ぞうきんや洗剤をご使用になるときは、ご使用になる製品の注意書きに従ってください。
- ゴムやビニール製品などを長時間接触させたままにしないでください。

レンズや液晶画面の汚れを取る

■ レンズの汚れを取るには

市販のレンズブロワーでほこりを落とし、市販のクリーニングクロス、または市販のレンズクリーニングペーパーなどで汚れを落してください。汚れたまま放置しておくと、カビなどが発生することがあります。

■ 液晶画面の汚れを取るには

市販のレンズブロワーでホコリを落とし、市販のクリーニングクロスなどで汚れを落としてください。

保証とアフターサービス

保証書(別途添付しています)

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受取っていただき内容をよくお読みの後大切に保管してください。保証期間は、お買い上げ日から1年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、デジタルビデオカメラの補修用性能部品を、製造打ち切り後、最低8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

お買い上げの販売店または最寄りの「ビクターサービス窓口」にお問い合わせください。

修理を依頼される場合(持込修理)

154～159ページに従って調べてください。なお異常のあるときは、電源を切り、必ずバッテリーまたはACアダプターを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。本機、DVカセットテープなどの万一の不具合により、正常に録画・録音・再生ができない場合、内容の補償についてはご容赦ください。

ご連絡していただきたい内容

品名	デジタルビデオカメラ
型名	GR-D92
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	
お名前	
電話番号	(　　)　　－

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って販売店にて修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料修理させていただきます。

愛情点検　●長年ご使用のビデオカメラの点検をぜひ!

熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合により部品が劣化し、故障したり、時には安全性を損なって事故につながることもあります。

このような症状はありませんか	●再生しても映像や音声が出ない。 ●異常な臭いや音がする。 ●水や異物が入った。 ●その他の異常や故障がある。

➡

ご使用を中止	故障や事故防止のため、電源を切り、必ず販売店に点検をご相談ください。

サービス窓口案内

ビクターサービス窓口案内

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご用命ください

ご贈答品等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、機種名をご確認の上、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

●修理についてのご相談窓口

ビクターサービスエンジニアリング株式会社

●略号について　S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。
T.C.はテクニカルセンターの略称です。

都府県名	拠点名	TEL	〒	所在地
北海道				
北海道	札幌S.C.	(011)898-1180	004-0005	札幌市厚別区厚別東五条1丁目2-29
	旭川S.C.	(0166)61-3659	070-8012	旭川市神居二条3-2-15
	北見S.S.	(0157)25-8557	090-0037	北見市山下町4-7-19
	釧路S.S.	(0154)24-0797	085-0005	釧路市松浦町3-3
	帯広S.S.	(0155)24-4493	080-0806	帯広市東6条南12-11
	函館S.S.	(0138)52-5324	040-0001	函館市五稜郭町4-16函館五稜郭MFビル1F
東北				
青森	青森S.C.	(017)723-2261	030-0844	青森市桂木4-6-17
	八戸S.S.	(0178)44-4521	031-0803	八戸市諏訪2-2-36
	弘前S.S.	(0172)28-0165	036-8084	弘前市高田1-13-1
岩手	盛岡S.C.	(019)637-0121	020-0835	盛岡市津志田9地割24-1
	水沢S.S.	(0197)22-2773	023-0815	水沢市天文台通り3-12
秋田	秋田S.C.	(018)824-3189	010-0953	秋田市山王中園町4-1
	大館S.S.	(0186)43-0980	017-0874	大館市美園町5-6
	横手S.S.	(0182)32-8873	013-0064	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙台S.C.	(022)287-0151	984-0011	仙台市若林区六丁の目西町7-13
山形	山形S.C.	(023)642-0279	990-2412	山形市松山3-12-18
	酒田S.S.	(0234)26-7145	998-0842	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡山S.C.	(024)952-6331	963-0205	郡山市堤1-3
	いわきS.S.	(0246)27-7991	973-8409	いわき市内郷御台境町鶴巻6-1
関東・甲信越				
新潟	新潟S.C.	(025)242-3431	950-0084	新潟市明石1-2-19
	長岡S.S.	(0258)24-8391	940-0012	長岡市下下条2-1366-1
	上越S.S.	(025)545-1734	942-0081	上越市五智1-11-2
長野	長野S.C.	(026)221-6583	380-0913	長野市川合新田962-1
	松本S.S.	(0263)25-9165	390-0828	松本市庄内2-4-21
群馬	前橋S.C.	(027)255-5921	371-8543	前橋市大渡町1-10-1 日本ビクター㈱前橋工場第2棟1F
栃木	宇都宮S.C.	(028)638-1639	321-0953	宇都宮市東宿郷3-5-22
茨城	水戸S.C.	(029)246-1560	310-8528	水戸市元吉田町1030 日本ビクター㈱水戸工場技術棟1F
	土浦S.S.	(029)821-8756	300-0813	土浦市富士崎1丁目10-1
山梨	甲府S.S.	(055)237-4016	400-0864	甲府市湯田2-11-5
千葉				
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	**(03)5803-2888**	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	千葉S.C.	(043)246-2588	261-0001	千葉市美浜区幸町2-1-1
	柏S.C.	(04)7175-4322	277-0863	柏市豊四季512-10-67
	浦安S.S.	(047)353-6189	279-0001	浦安市当代島2-13-27
東京				
東京	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	**(03)5803-2888**	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	本郷S.C.	(03)5684-8254	113-0033	東京都文京区本郷3-14-7ビクター本郷ビル1F
	秋葉原S.S.	(03)3251-2128	101-0021	東京都千代田区外神田1-6-6
	練馬S.C.	(03)3993-7520	176-0014	東京都練馬区豊玉南1-19-1
	大田S.C.	(03)3727-9385	145-0062	東京都大田区北千束2-20-6
	八王子S.C.	(0426)46-6914	192-0045	東京都八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	CSセンター	(03)3874-5231	110-0003	東京都台東区根岸5-4-3
埼玉				
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	**(03)5803-2888**	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大宮S.C.	(048)654-5241	331-0814	さいたま市北区東大成町2-658-1
	熊谷S.S.	(048)553-5105	361-0057	行田市城西2-7-39ツインハイツ石山B
神奈川				
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	**(03)5803-2888**	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	横浜S.C.	(045)651-0403	231-0028	横浜市中区翁町1-3-1
	川崎S.C.	(044)975-1879	216-0024	川崎市宮前区南平台3-2（第2石原ビル）
	平塚S.C.	(0463)36-2160	254-0065	平塚市南原2-4-5
	相模原S.C.	(042)776-2052	229-0004	相模原市古淵3-7-4
	横浜T.C.	(046)234-4500	243-0401	海老名市東柏ヶ谷6-19-26
静岡				
静岡	静岡S.C.	(054)282-4141	422-8043	静岡市中田本町62-31 中田ビル1階
	沼津S.S.	(055)922-1557	410-0041	沼津市筒井町6-5
	浜松S.S.	(053)421-3441	435-0041	浜松市北島町785
東海・北陸				
愛知	名古屋S.C.	(0568)25-3235	481-0041	西春日井郡西春町九之坪鴨田121-1
	三河S.C.	(0564)51-5931	444-0833	岡崎市柱曙3-10-12
	豊橋S.S.	(0532)64-0815	440-0028	豊橋市多米東町１丁目1-1
岐阜	岐阜S.S.	(058)274-1947	500-8367	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三重S.S.	(0593)52-0841	510-0076	四日市市堀木2-15-2
	津S.S.	(059)229-7780	514-0815	津市大字藤方485-18
富山	富山S.C.	(076)425-2397	939-8211	富山市二口町4丁目1-3
石川	金沢S.C.	(076)269-4821	921-8062	金沢市新保本4丁目65-17
福井	福井S.S.	(0776)53-6916	910-0843	福井市西開発3-211

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。　0404

都府県名	拠点名	TEL	〒	所在地
近　畿				
滋　賀	滋　賀S.S.	(077)582-5812	524-0033	守山市浮気町268
京　都	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大　阪S.C.	**(06)6304-5731**	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	京　都S.C.	(075)644-0247	612-8401	京都市伏見区深草下川原町31番地の1
京都北部	福知山S.S.	(0773)22-8664	620-0059	福知山市厚東町145-2
奈　良	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大　阪S.C.	**(06)6304-5731**	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	奈　良S.C.	(0742)35-0935	630-8115	奈良市大宮町六丁目3-10 藤本ビル1階
大　阪	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大　阪S.C.	**(06)6304-5731**	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大　阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	堺　S.C.	(072)254-2881	591-8032	堺市百舌鳥梅町3丁21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	ﾒﾝﾃﾅﾝｽｾﾝﾀｰ	(06)6304-6715	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	和歌山S.S.	(073)472-6799	640-8323	和歌山市太田430-8
	田　辺S.S.	(0739)22-9976	646-0031	田辺市湊1581-12
兵庫中東部	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大　阪S.C.	**(06)6304-5731**	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	神　戸S.C.	(078)252-0562	651-0086	神戸市中央区磯上通3-2-16
兵庫西部	姫　路S.S.	(0792)34-3833	670-0975	姫路市中地南町11-1

都府県名	拠点名	TEL	〒	所在地
中　国				
岡　山	岡　山S.C.	(086)243-1566	700-0926	岡山市西古松西町8-23
広　島	広　島S.C.	(082)243-9839	730-0825	広島市中区光南3-9-17
	福　山S.S.	(084)931-6984	721-0973	福山市南蔵王町3-5-15
山　口	山　口S.C.	(083)973-3708	754-0022	吉敷郡小郡町花園町5-28
	徳　山S.S.	(0834)27-1331	745-0042	周南市野上町2-35
	下　関S.S.	(0832)51-1040	751-0852	下関市熊野町2-14-23
四　国				
香　川	高　松S.C.	(087)866-1200	761-8057	高松市田村町205-1
徳　島	徳　島S.C.	(088)622-7387	770-8052	徳島市沖浜2-37
高　知	高　知S.S.	(088)882-0546	781-8122	高知市高須新町4-1-43
愛　媛	松　山S.C.	(089)923-0372	791-8015	松山市中央1-4-12
	宇和島S.S.	(0895)20-1018	798-0087	宇和島市坂下津甲407-40
九　州・沖　縄				
福岡佐賀	福　岡S.C.	(092)431-1261	812-0011	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米S.S.	(0942)39-3495	830-0038	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州S.C.	(093)921-3981	802-0064	北九州市小倉北区片野2-15-12
長　崎	長　崎S.C.	(095)862-5522	852-8021	長崎市城山町9-13
	佐世保S.S.	(0956)33-5568	857-1166	佐世保市木風町1467-2
大　分	大　分S.C.	(097)543-1422	870-0820	大分市西大道三丁目1番1号
熊　本	熊　本S.C.	(096)353-4536	861-4101	熊本市近見8-1-10
宮　崎	宮　崎S.S.	(0985)24-5401	880-0032	宮崎市霧島町3-59
	延　岡S.S.	(0982)35-7077	882-0857	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島S.C.	(099)282-8818	890-0034	鹿児島市田上7丁目9-8
沖　縄	沖　縄S.C.	(098)898-3631	901-2224	沖縄県宜野湾市真志喜1-13-16
山　陰				
山陰ビクター販売（株）				
島　根	松　江S.C.	(0852)31-8900	690-0825	松江市学園1丁目16-39
鳥　取	鳥　取S.S.	(0857)23-2151	680-0911	鳥取市千代水1丁目22-1

●海外主要都市でのビデオムービーご相談窓口

カナダ　JVC CANADA INC.
- ・トロント〔416-293-1311〕
  21 Finchdene Square, Scarborough, Ontario, M1X 1A7

アメリカ　JVC SERVICE & ENGINEERING COMPANY OF AMERICA
- ・ロサンゼルス〔714-229-8011〕
  5665 Corporate Avenue Cypress, CA 90630-0024
- ・ニュージャージー〔800-252-5722〕
  1700 Velley Road, Wayne, NJ 07470
- ・ホノルル〔808-833-5828〕
  2969 Mapunapuna Place, SUITE 105, Honolulu, HI 96819-2040

イギリス　JVC (U.K.) LTD.
- ・ロンドン〔020-8450-3282〕
  JVC House, JVC Business Park, Priestley Way, London, NW2 7BA

フランス　JVC FRANCE S.A.S.
- ・パリ〔0825-800-811〕
  BP50, 78422 Carrieres Sur Seine Cedex, FRANCE

シンガポール　JVC ASIA PTE. LTD.
- ・シンガポール〔6255-8155〕
  31Kaki Bukit Road 3, #06-18 Techlink, Singapore 417818

（注）・その他の地域に関しては、おでかけの前にお客様ご相談センターにご相談ください。・海外では日本の保証書は適用されません。
・日本語での対応はできないサービスセンターもございます。

海外でお使いになるときは

本機は海外でも使用可能です

付属の AC アダプターを使ってバッテリーを充電したりコンセントから直接電源を確保できます。ただし、コンセントの形状は国によって異なります。訪問国のコンセントに合った変換プラグをご用意ください。詳細は旅行代理店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。

コンセントの形状と使用する変換プラグ

現地のテレビで再生画像を見る

NTSC 方式の映像、音声入力端子付きテレビが必要です。NTSC 方式を採用している国、および地域は以下の通りです。

- アメリカ合衆国
- プエルトリコ
- バルバドス
- キューバ
- フィリピン
- チリ
- コロンビア
- 台湾
- バミューダ
- バハマ
- カナダ
- 米領サモア
- 韓国
- コスタリカ
- メキシコ
- ニカラグア
- パナマ
- エルサルバドル
- ペルー
- グアム
- グァテマラ
- ミクロネシア
- スリナム
- ハイチ
- エクアドル
- ベネズエラ
- ミャンマー
- ボリビア
- ホンジュラス
- ドミニカ
- トリニダード・トバコ

- **再生できるテープは**
  日本と同じ NTSC 方式で撮影したミニ DV テープが再生できます。
- **海外で故障したときは**
  「サービス窓口案内」(☞P.166)の「海外主要都市でのビデオムービーご相談窓口」にご相談ください。日本語での対応ができない窓口もあります。海外では日本の保証書は適用されません。

  その他の地域に関しては、日本にお持ち帰りになった後、お買い上げ販売店にご相談ください。

主な仕様

一般

項　　目	仕　　様
電源	DC 11 V（ACアダプター使用時）DC 7.2 V（バッテリー使用時）
消費電力	3.6 W（ファインダー使用時）、4.8 W（液晶画面使用時） 3.9 W（ファインダー＋LEDライト使用時） 5.1 W（液晶画面＋LEDライト使用時）
外形寸法	71 mm × 91 mm × 118 mm（幅×高さ×奥行き※）
質量	本体質量　：約 500 g 撮影時質量：約 590 g（バッテリーBN-V408、カセット60分テープ、メモリーカード、レンズキャップ含む）
許容動作温度	0℃ 〜 40℃
許容相対湿度	35 % 〜 80 %
許容保存温度	–20℃ 〜 50℃

※レンズキャップを含まず

カメラ部

項　　目	仕　　様
撮像素子	1/4型 133万画素CCD （撮像エリア　ビデオ時：69万画素 静止画時：125万画素）
レンズ	F1.8 〜 2.4 ƒ＝3.8 mm 〜 38.0 mm （35 mmカメラ換算：ビデオ時：49.0 mm 〜 490.0 mm 静止画時：36.7 mm 〜 367.0 mm）
フィルター径	30.5 mm（ネジピッチ 0.5 mm）
ズーム倍率	光学10倍、最大200倍（デジタル使用）
最低照度	15ルクス（ナイトアイ時：約1ルクス）

主な仕様

液晶画面／ファインダー部

項　　目	仕　　様
液晶画面	2.37型、11.2万画素　アモルファスカラー液晶
ファインダー	0.24型、11.3万画素　ポリシリコンカラー液晶

デジタルビデオカメラ部

項　　目	仕　　様
録画／再生方式	DV方式（SD仕様） 映像：デジタルコンポーネント記録 音声：PCMデジタル記録、32 kHz 4チャンネル（12bit)、 48 kHz 2チャンネル（16bit）、44.1kHz（再生のみ）
信号方式	NTSC日米標準信号方式
使用カセット	ミニDVカセット
録画／再生時間	SPモード：80分、LPモード：120分（DVM80テープ使用時）
早送り／巻き戻し時間	約3分（DVM60テープ使用時）

デジタルスチルカメラ部

項　目	仕　様
記憶メディア	マルチメディアカード、SDメモリーカード
圧縮方式	JPEG準拠
静止画画像サイズ	640×480ドット 1024×768ドット 1280×960ドット 1600×1200ドット
静止画画質	2モード（ファイン／スタンダード）
静止画撮影可能枚数	640×480ドット（ファイン：約55枚、スタンダード：約190枚） 1024×768ドット（ファイン：約25枚、スタンダード：約75枚） 1280×960ドット（ファイン：約16枚、スタンダード：約50枚） 1600×1200ドット（ファイン：約10枚、スタンダード：約34枚） 付属のマルチメディアカード［8ＭＢ］使用時

※撮影可能枚数は、メモリーカードの購入時のものです。

端子部

項　目	仕　様
DV入力／出力端子	4ピン（i.LINK／IEEE1394準拠）
S2入力／出力端子	アナログ入力（Y:0.8 V(p-p)～1.2 V(p-p)、75Ω　C:0.2 V(p-p)～0.4 V(p-p)、75Ω） アナログ出力（Y:1.0 V(p-p)、75Ω　C:0.29 V(p-p)、75Ω）
AV入／出力端子	映像入／出力端子 アナログ入力（0.8 V(p-p)～1.2 V(p-p)、75Ω） アナログ出力（1.0 V(p-p)、75Ω） 音声入／出力端子 ステレオ／アナログ入力（300 mV(rms)、50 kΩ） ステレオ／アナログ出力（300 mV(rms)、1 kΩ）
USB端子	ミニUSB-Bタイプ(USB 1.1／2.0(フルスピード; 12Mbps)準拠)

主な仕様

LED ライト

項　目	仕　様
推奨撮影距離	1.5 m以内

AC アダプター（AP-V14）

項　目	仕　様
電源	AC 100V〜240V, 50Hz/60 Hz
入力容量	26 VA（100V） 36 VA（240V）
出力	DC 11V, 1A（充電時）
許容動作温度	0℃〜40℃（充電時は10℃〜35℃）
外形寸法	幅 50 mm 高さ 27 mm 奥行き 71 mm （コード、ACプラグ含まず）
質量	約 100g

リモコン（RM-V718）

項　目	仕　様
電源	DC 3V （リチウム電池 1個）
電池寿命	約 1年（使用頻度によりかわります。）
動作距離	約 5m（正面軸上）
許容動作温度	0℃〜40℃
外形寸法	幅 52 mm 高さ 12 mm 奥行き 90 mm
質量	約 32g（電池含む）

バッテリー（BN-V408）

項　目	仕　様
電圧	7.2V
容量	800 mAh
外形寸法	幅 38 mm　高さ 22 mm　奥行き 55 mm
質量	約60g

●仕様および外観は、改良のため予告無く変更することがありますので、ご了承ください。

- 本機は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。
  本機は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。この取扱説明書にしたがって正しく取り扱いをしてください。

メニュー一覧

撮影時

電源ダイヤルを「Ⓜ」に設定し、「メニュー／決定」ダイヤルを押すと表示されます。

■は初期値

アイコン	メニュー
	場面切替 切 白フェーダー：白 黒フェーダー：黒 白黒フェーダー：白黒 ワイプ：コーナー ワイプ：ウィンドウ ワイプ：スライド ワイプ：ドア ワイプ：スクロール ワイプ：シャッター
	プログラムAE 切 1/60シャッター1/60 1/100シャッター1/100 スポーツ スノー スポットライト 夜景 セピア B/W白黒 映画効果 ストロボ
	明るさ補正 オート マニュアル
	白バランス オート ワンタッチ はれ くもり ハロゲン

- メニューを表示したときに、メニューの文字が消えている機能は動作しません。

■は初期値

アイコン	メニュー	サブメニュー		
A	**フルオート**			
	録画モード	SP SP	LP LP	
	音声モード	12bit	16bit	
	ズーム	10倍	40倍	200倍
	記念写真モード	フル	ピンナップ	フレーム
	感度アップ	切	AGC	オート A
	戻る			
M	**マニュアル**			
	手ぶれ補正	切	入	
	テレマクロ	切	入	
	ワイド効果	切	シネマ	ワイド W
	ボイスポジション	切	入	
	戻る			
	システム			
	ブザー	切	ブザー	メロディー
	リモコン	切	入	
	デモモード	切	入	
	優先設定	液晶モニター	ファインダー	
	プリセット	実行	戻る	
	戻る			
	撮影日時／表示			
	画面明るさ			
	画面表示切替	モニター	モニター/TV	
	日時表示	切	オート	入
	タイムコード	切	入	
	LANGUAGE	JAPANESE	ENGLISH	
	年月日時計合わせ			
	戻る			
	静止画撮影			
	画質設定	ファイン F	スタンダード S	
	画像サイズ	640×480	1024×768	1280×960
		1600×1200		
	記録選択	➡	➡ ／➡	
	戻る			
✕	**終　了**			

索引

メニュー一覧

再生時

モード選択スイッチを「ビデオ」に合わせ、電源ダイヤルを「再生」に設定したあと、「メニュー／決定」ダイヤルを押すと表示されます。
「メモリー再生時のメニュー」を選択するには、モード選択スイッチを「メモリー」に合わせてください。

■は初期値

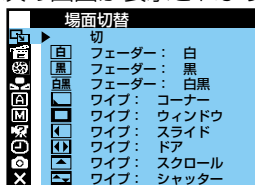
アイコン	メニュー	サブメニュー		
	ビデオ再生モード			
	音声切替	**ステレオ**	音声L	音声R
	アフレコ音声	**切**	入	ミックス
	録画モード	**SP** SP	LP LP	
	→ M コピー	**切**	入	
	アナログ入力	**切**	入	
	戻る			
	システム			
	ブザー	切	ブザー	**メロディー**
	リモコン	切	**入**	
	デモモード	切	**入**	
	優先設定	**液晶モニター**	ファインダー	
	プリセット	実行	戻る	
	戻る			
	再生日時／表示			
	画面明るさ			
	画面表示切替	切	**モニター**	モニター/TV
	日時表示	**切**	オート	入
	タイムコード	**切**	入	
	LANGUAGE	**JAPANESE**	ENGLISH	
	戻る			
✕	**終　了**			

メモリー再生時のメニュー			
	プロテクト	削除	DPOF
	番号リセット	フォーマット	画面表示
	画面明るさ		

メニューの使いかた

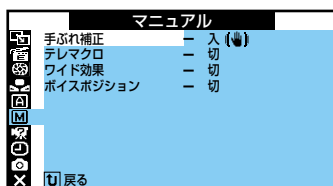
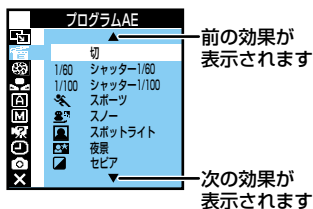
ここでは、撮影時のメニューを例に使いかたを説明します。

1 「メニュー／決定」ダイヤルを押す

次の画面が表示されます。

2 「メニュー／決定」ダイヤルを上下に動かしてメニューを選択する

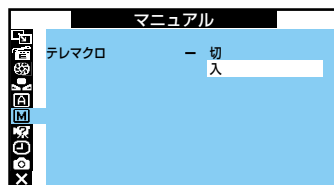
3 「メニュー／決定」ダイヤルを押す

メニューの最初の項目が選択されます。

サブメニュー有：

サブメニューなし：

4 メニューから項目を選択する

- **サブメニューなし**
→手順７へ進みます

5 「メニュー／決定」ダイヤルを押す

サブメニューが表示されます。

6 サブメニューの項目を選択する

7 「メニュー／決定」ダイヤルを押して決定する

8 元の画面に戻る

- **「終了」が選択されているとき**
→「メニュー／決定」ダイヤルを押します。
- **「戻る」が選択されているとき**
→「メニュー／決定」ダイヤルを２回押します。

索引

画面表示の見かた

撮影時の表示

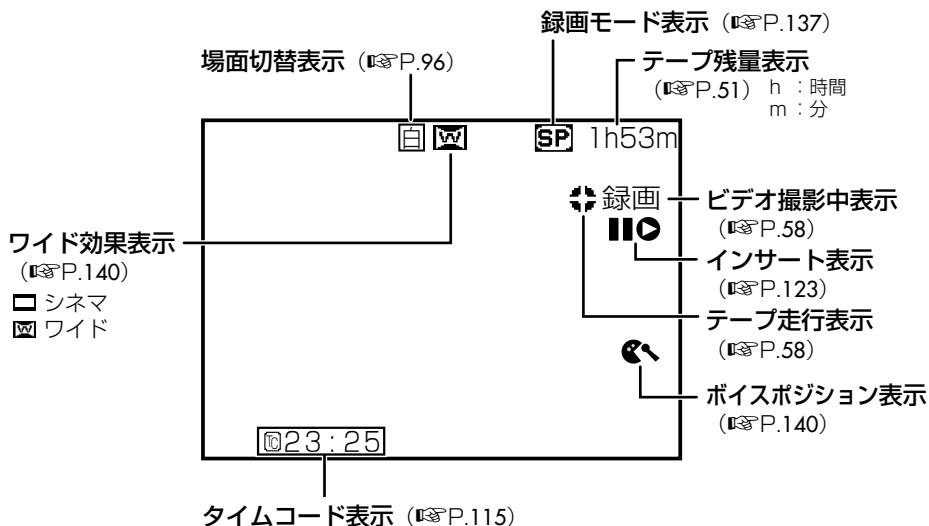
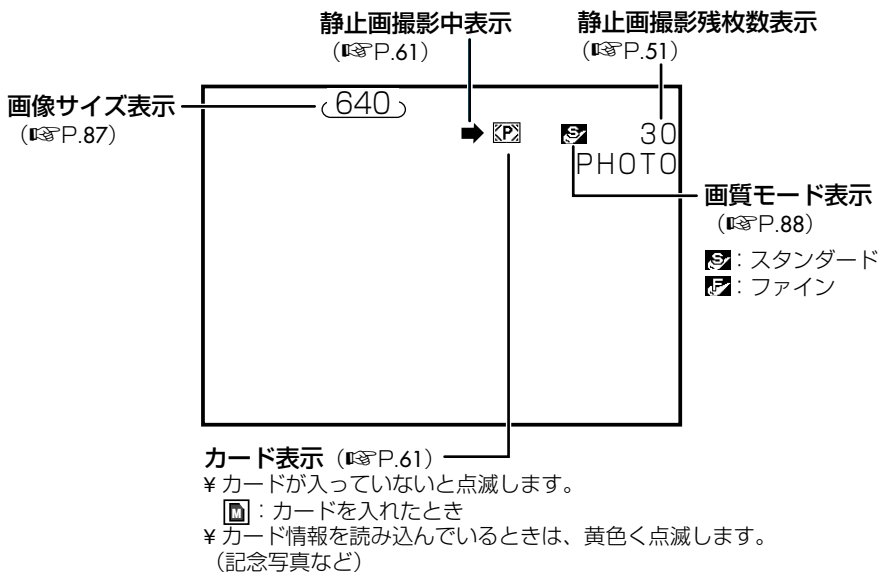
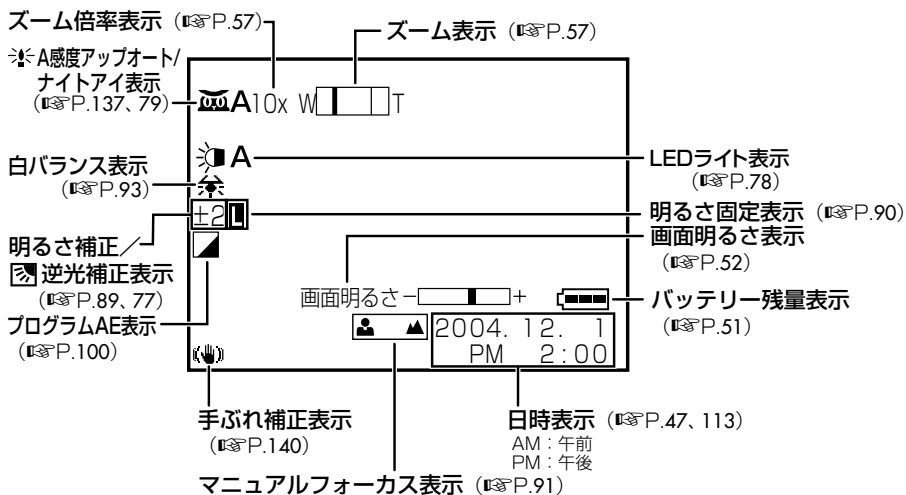
ビデオ撮影時の表示

静止画撮影時の表示

カード表示（☞P.61）

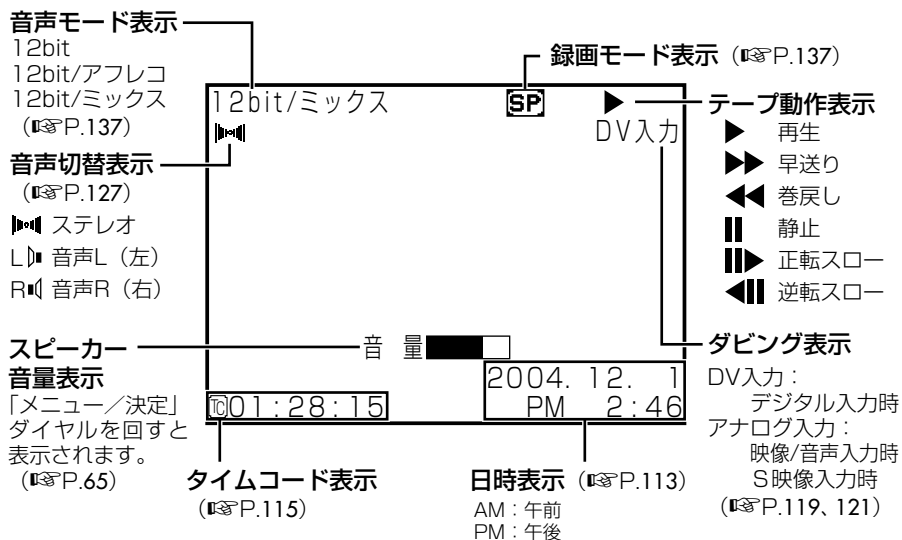
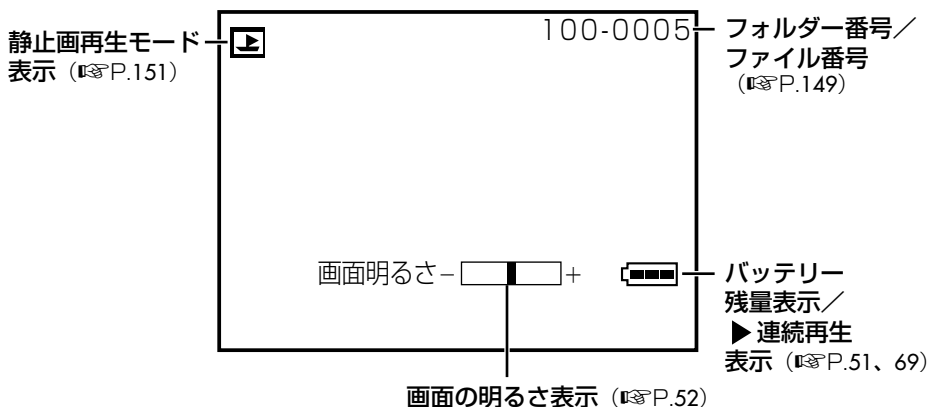
¥ カードが入っていないと点滅します。

M ：カードを入れたとき

¥ カード情報を読み込んでいるときは、黄色く点滅します。
（記念写真など）

ビデオ／静止画撮影に共通の表示

- アイコンが青く点滅しているとき、またはアイコンが表示されないときは、その機能は動作しません。
- 場面切替表示、プログラム AE 表示、白バランス表示のアイコンの詳細については、上図の参照ページまたは「メニュー一覧」（☞ P.174）を参照してください。

画面表示の見かた

再生時の表示

ビデオ再生

静止画再生

撮影／再生時の確認表示

メッセージ	対処	参照
E01、E02、E06　保護回路が働きました バッテリーを外して付け直して下さい	バッテリーと電源をはずして付けなおしてください 動作させて同じメッセージが表示されなければ問題ありません	P.35
E03、E04　保護回路が働きました テープを取り出し、入れ直して下さい	テープを取り出して入れなおしてください 動作させて同じメッセージが表示されなければ問題ありません	P.39
露が付きました しばらくお待ち下さい	1時間以上待ってください	P.159
クリーニングカセットを試して下さい	クリーニングカセットを使用してください	P.158
インサート録画できません	モード選択スイッチを「ビデオ」にしてください カセットのツマミが「REC」側になっていることを確認してください 録画モードをSPにして撮影したテープに交換してください	P.49 P.161 P.60, 123
音声 16bit(12bit)	撮影時の音声モードを表示しています	P.127
音声アフレコできません	カセットのツマミが「REC」側になっていることを確認してください 録画モードをSP、音声モードを12bitにして撮影したテープに交換してください	P.161 P.60, 127
メモリーカードエラー	メモリーカードを入れなおしてください メモリーカードをフォーマットしてください	P.41 P.152
静止画がありません	メモリーカードに静止画を記録してください	P.61
テープへ記録できません テープの誤消去防止ツマミを確認して下さい	カセットのツマミを「REC」側にしてください	P.161
コピーガードがかかっています	コピーガードがかかっている映像はダビングできません。	–
未対応のファイルです	選択した静止画を削除してください（本機で再生できない形式のファイルです）	P.107
しばらくお待ち下さい	しばらくお待ちください	–
テープ終り	テープを交換してください	P.39
テープを入れて下さい	テープを入れてください	P.39
日時を設定して下さい	日時を設定しなおしてください	P.47

次へ続く

画面表示の見かた

メッセージ	対処	参照
メモリー容量がありません	メモリーカードを交換するか、ファイルを削除してください	P.41, 73
メモリーカードへ記録できません	メモリーカードを交換するか、ファイルを削除してください SD メモリーカードのライトプロテクトをはずしてください	P.41, 73 P.42
メモリーカードを入れてください	メモリーカードを入れてください	P.41
メモリーカードをフォーマットして下さい	メモリーカードを初期化（フォーマット）してください	P.152
ライトプロテクトがかかっています	メモリーカードを交換するか、SD メモリーカードのライトプロテクトをはずしてください	P.41, 42
プロテクトがかかっています	ファイルのプロテクトをはずしてください	P.133
バッテリー残量がありません	充電されたバッテリーと交換してください AC アダプターを接続してください	P.37 P.70

五十音順索引

索引

五十音順索引

■や■

■ら■

■わ■

■アルファベット/数字■

アンケートおよびユーザー登録のお願い

このたびは、ビクター商品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。
お客様の貴重なご意見を参考に、今後もよりよい商品の開発を推進していきます。
つきましては、お手数ですが、本機をおもにお使いになる方に、アンケートおよびユーザー登録にご協力いただきたく、お願いいたします。

●下記アドレスのホームページより、ご回答ください。

http://www.victor.co.jp/reg/dvc/

※お客様の個人情報は弊社の責任で保管し、お客様の承諾なしに公表することは一切ありません。

製品についてのご相談や修理のご依頼は

お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記のご相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 **ビクターサービスエンジニアリング**	本製品についての技術的なお問い合わせは **DVご相談窓口**
166～167ページをご覧ください。	電話：(045)450-2770

お買い物情報や製品についての全般的なご相談
お客様ご相談センター

フリーダイヤル 0120-2828-17

携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は
電話：(03) 5684-9311
FAX：(03) 5684-9317
〒113-0033 東京都文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル

ビクターホームページ　http://www.victor.co.jp/

日本ビクター株式会社

AV＆マルチメディアカンパニー

〒221-8528 横浜市神奈川区守屋町3-12

M4D1　0604FOH-HT-VP